

# 本動詞から補助動詞への文法化

－韓国語の＜doeda 構文＞と＜jida 構文＞を中心に－

石 賢敬

## 掲 載 論 文

能動性の排除された韓国語の<되다 doeda 構文>について

東京大学言語学論集 30号

## 目次

### 第1章 序

1. はじめに	1
2. 先行研究	2
2. 1 受動と捉える研究	3
2. 2 受動ではないと捉える研究	4
3. 「게 되다 ge doeda」の先行研究	5
3. 1 使役文に対応する受動文	6
3. 2 動詞の表す事柄の展開	7
3. 3 未来の決定事項を表す	9
3. 4 本動詞「되다 doeda」	10
3. 5 「게 되다 ge doeda」の「게 ge」	11
4. 「아지다 a jida」の先行研究	12
4. 1 受動	13
4. 2 起動	17
4. 3 自動詞化	18
4. 4 変化	19
4. 5 受動を含むその他	20
5. 第1章のまとめ	22

### 第2章 「되다 (doeda)」と<되다 (doeda)構文>

1. はじめに	23
2. 「되다 doeda」の辞書的意味	25
2. 1 [名詞 doeda]	25
2. 2 [動詞・形容詞 doeda]	26
2. 3 [その他 doeda]	26
3. 「되다 doeda」の用法	26
3. 1 名詞 -이 i/가 ga + 되다 doeda (名詞-に+なる)	27
3. 1. 1 補語説	28

3. 1. 2	副詞語説	2 8
3. 1. 3	本稿の立場	2 9
3. 1. 4	方向性を表す「(으)로 (eu)ro」と「へ、に」	3 3
3. 2	形容詞 게 ge + 되다 doeda (イ形容詞-く+なる、ナ形容詞-に+なる)	3 5
3. 3	動詞 -게 ge 되다 doeda (動詞-に+なる)	3 7
4.	<되다 doeda 構文>	4 0
4. 1	行為動詞	4 2
4. 1. 1	<仕方なく、やむを得ず>	4 2
4. 1. 2	目的	4 4
4. 1. 3	外的理由	4 6
4. 1. 4	<あやまって、不注意で>	4 8
4. 2	思考動詞および知覚動詞	5 1
5.	第2章のまとめ	5 3

### 第3章 「지다 jida」と<지다 jida 構文>

1.	はじめに	5 5
2.	研究対象	5 8
3.	「지다 jida」の意味	5 9
4.	「지다 jida」の用法	5 9
4. 1	[名詞-jida]	5 9
4. 2	形容詞の<지다 jida 構文>	6 0
4. 3	動詞の<지다 jida 構文>	6 1
4. 3. 1	<受動>の意味が中心になる<지다 jida 構文>	6 1
4. 3. 2	<可能>と<受動>の意味を同時に持つ<지다 jida 構文>	6 3
4. 3. 3	<可能>の意味が中心になる<지다 jida 構文>	7 1
4. 3. 4	<状態変化>の意味が中心になる<지다 jida 構文>	7 4
4. 3. 5	<自発>の意味が中心になる<지다 jida 構文>	7 7
4. 3. 6	<지다 jida 構文>が用いられない動詞	7 8
5.	第3章のまとめ	7 9

#### 第4章 「てくる・ていく」そして、<되다 doeda 構文>と<지다 jida 構文>

1. はじめに	8 1
2. 研究対象	8 5
3. 「てくる」「ていく」の先行研究	8 6
3. 1 <アスペクト>を表す	8 6
3. 2 <話し手側の意識と状況>を表す	8 8
3. 3 一つの構文の中での「てくる」「ていく」	8 9
4. 「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」の先行研究	9 0
5. 「てくる」と「아 오다 a oda」	9 1
5. 1 「クル」と「오다 oda 来る」の辞書的意味	9 1
5. 2 <出現の過程>	9 3
5. 3 <過程のはじまり>	9 4
5. 4 <ある時点までの継続>	9 5
5. 5 <変化の過程>	9 8
6. 「ていく」と「아 가다 a gada」	1 0 3
6. 1 「イク」と「가다 gada」の辞書的意味	1 0 3
6. 2 <消滅の過程・変化の過程>	1 0 4
6. 3 <完成指向的持続>	1 0 6
7. 「てくる」「ていく」に形容詞が先行する場合	1 0 7
8. 第4章のまとめ	1 0 8

#### 第5章 <되다 doeda 構文>と<지다 jida 構文>

1. 形容詞が先行する場合	1 1 1
2. 動詞が先行する場合	1 1 3
3. 「てくる」「ていく」との関係	1 1 6

【 参考文献 】	1 1 9
----------	-------

【 辞書 】	1 2 4
--------	-------

【 例文出典 】	1 2 4
----------	-------

## 第1章 序

### 1.はじめに

韓国語の形容詞「빨강다 ppalgata<sup>1</sup> 赤い」を「赤くなる」という状態変化の表現にする  
と、「게 되다 ge doeda」と「아지다 ajida」の二通りがある。

(1) a 나뭇잎이 빨강게 되었다.<sup>2</sup>

Namunnipi ppalgake doeeotda

木の葉が 赤く なった

木の葉が赤くなった

b 나뭇잎이 빨개졌다.

Namunnipi ppalgaejyeotda

木の葉が 赤い-ajida

木の葉が赤くなった

(1 a) は形容詞「赤い」を副詞「赤く」にして「なった」がついた「게 되다 ge doeda」  
形であり、(1 b) は形容詞「赤い」に「아지다 ajida」という補助動詞がついて「赤くな  
る」という状態変化を表す文である。 次の(2)は、(1) であげた「게 되다 ge doeda」  
と「아지다 ajida」に、「作る」という意味の動詞「만들다 mandeulda」が先行する例であ  
る。

(2) a 경제적 문제점을 소개하기 위해 블로그를 만들게 되었다.

Gyeongjejeok munjejeomeul sogaehagi wihae beulleogeureul mandeulge doeeotda

経済的 問題点を 紹介する ために ブログを 作る-ge なった

経済的問題点を紹介するためにブログを作るようになった

b 전문가들의 연구에 의해 우리나라에 해저통로가 만들어졌다.

Jeonmungadeurui yeongue uihae urinarae haejeotongnoga mandeureojyeotda

専門家たちの 研究に よって 我が国に 海底通路が 作る-ajida

専門家たちの研究によって我が国に海底通路が作られた

<sup>1</sup> 本稿での韓国語の表記は、韓国文化観光部のローマ字表記法(2000)を用いる。

<sup>2</sup> 例文は、作例、『이상문학상 작품집(李箱文学賞 作品集) 14~34』(1991~2010)、および 21 세기  
세종계획용례검색(21世紀 世宗計画用例検索 [www.sejong.or.kr](http://www.sejong.or.kr))による。

c 크리스마스      트리가      정말      잘      만들어졌다.  
 Keuriseumaseu    teuriga    jeongmal    jal    mandeureojyeotda  
 クリスマス      ツリーが      本当に      うまく      作る-ajida  
 クリスマスツリーが本当にうまく作れた

(2a) の「게 되다 ge doeda」は日本語の「V ようになる」に対応し、(2b) と (2c) の「아지다 ajida」は、各々「受動<sup>3</sup>」と「可能」の意味を表し「V (ら) れる」に対応する。本研究は、形容詞が先行すると大まかに「なる」の意味で共通すると思われる「되다 doeda」と「지다 jida」を研究対象として考察する。次の2節からは先行研究をあげる。まず、2節は、「되다 doeda」と「지다 jida」を同じ枠組みの中で捉えた研究を、3節と4節は、「되다 doeda」と「지다 jida」の各々の先行研究をあげる。

## 2. 先行研究

「게 되다 ge doeda」と「아지다 ajida」を同じ枠組みの中で捉えた先行研究はそれほど多くない。최현배 (Choe 1937) は、韓国語の受動法を(3)で記すように3通りにまとめているが、第2受動法の「되다 doeda」は、日本語の「する」に対応する「하다 hada」の受動法であり、「される」の意味を表す。

### (3) 受動法

第1受動法：受動の接尾辞 V- {이/히/리/기 i/hi/li/gi (受動の接尾辞) }

第2受動法：N 되다 (doeda)、N 당하다 (danghada)、N 받다 (batba)

第3受動法：V-아 지다 (V-a jida)

さらに、受動の意味として、第一に、主語<sup>4</sup>が常に利害を感じる利害受動（もっとも典型的な受動）、第二に、元の動詞の主語がその動作をすることが出来る意の可能的受動<sup>5</sup>、第三に、

<sup>3</sup> 韓国の国語文法では、「被動」、「受動」の両語をが用いられるが、本稿では「受動」を用いることにする。

<sup>4</sup> 主語の意味対象の意味として用いることにしたい。

<sup>5</sup> 「잡히다 japida 捕まる」を用いて次の例をあげている。

a 그 사람이 도둑놈에게 잡혔소. (利害受動)

Geu sarami dodungnomege japieotso

あの人が 泥棒に 捕らえられた

b 이런 댁에도 범이 잡히나? (可能的受動)

Ireon deochedo beomi japina?

こんな罌にも トラが捕まるのか (捕まえることができるのか)

c 오늘은, 평은 한 마리도 아니 잡히고, 토끼만 자꾸 잡힌다. (自然的受動)

元の動詞の主語が自ずとその動作をする意の自然的受動の三種類があるとしているが、第3受動法としている「V-아 지다 (V-a jida)」に自動詞が先行する場合は、利害受動の意味はなく可能性と自然性のみの意味を表すとする<sup>6</sup>。また、「아지다 ajida」は、動詞・形容詞の語幹に付くことで、「게 되다 ge doeda」とともに受動の補助動詞<sup>7</sup>としても取り上げている。

## 2. 1 受動と捉える研究

최규수 (Choe 2005) では、최현배 (Choe 1937) を踏まえて、受動文の範囲と題し以下の(4)～(6)のようにまとめている。

### (4) 受動文の定義

意味的条件：受動の意味がある。

統語的条件：他動詞文に対応する自動詞文である。

(5) [NP1 が NP2 を V1]に対応する、[NP2 が (NP1 に) V2]を受動文と規定する。

### (6) 受動詞<sup>8</sup>の類型

形態的 派生 V-{이 i/히 hi/리 li/기 gi (受動の接尾辞)}다 I 類型

合成 N 되다、N 당하다、N 받다、V-아지다 (V-ajida) II 類型

統語的 V-게 되다 (V-ge doeda)、V-아 지다 (V-a jida) III 類型

また、이주행 (李 2000) は、能動詞に連結語尾「게 ge」、「아 a」が結合し各々に補助動詞の「되다 doeda」と「지다 jida」が続くことで受動を構成するとする。また、최재희 (Choe 2004) は、受動文の構造を三つの類型に分けて、「게 되다 ge doeda」は第3類型とし、「아 지다 a jida」を第2類型としている。次の(7)で三つの類型をまとめ、(8)でその例文をあげる。

---

Oneureun, kkwongeun han marido ani japigo, tokkiman jakku japinda  
 今日、キジは 一羽も 捕れず、 ウサギばかりよく 捕れる (そうしようとしていないのに、自然と)

<sup>6</sup> 「可能的受動」の例：이까짓 산이야 나도 올라가진다.

Ikkajit saniya nado ollagajinda

これほどの 山は 私も 登る-jida (これほどの山は私にも登れる)

「自然的受動」の例：그런 자리에는 다시는 안 가려고 해도, 자꾸 가진다.

Geureon jarieneun dasineun an garyeogo haedo, jakku gajinda

そんな 場所には または 行かないようとしても しきりに 行く-jida

そんな場所には二度と行かないようにしても何度も行ってしまう

<sup>7</sup> 他の語について補助的に用いられ、独立して用いられる時とは異なる意味を表す動詞

<sup>8</sup> 他の物の行為を受けて行われる動作を表し、受動文を形成する動詞



(7) 受動文の三つの類型

第1類型：動詞の語幹＋受動の接尾辞である「이 i /히 hi/리 li/기 gi」

第2類型：動詞の語幹＋受動の接尾辞「아 지다 a jida」

第3類型：動詞の語幹＋連結語尾「게 ge」＋助動詞「되다 doeda」

(8) a 어린이가 개한테 물리었다.

Eoriniga gaehante mullieotda

子どもが 犬に 噛まれた

子どもが犬に噛まれた

b 어려운 문제가 그녀에 의하여 풀어졌다.

Eoryeoun munjega geunyeoe uihayeo pureojyeotda

難しい 問題が 彼女に よって 解く-ajida

難しい問題が彼女によって解決された

c 모든 인간은 반드시 죽게 된다.

Modeun inganeun bandeusi jukge doenda

すべての 人間は 必ず 死ぬ-ge doeda

すべての人間は必ず死ぬことになる

(8a) は第1類型、(8b) は第2類型、(8c) は第3類型の例としてあげているが、文の中に行為の主体が現れない第3類型と英語の影響を受けてできた第2類型を、典型的な受動である第1類型の受動態と異なるとしながらも、受動の意味を表していることで、受動態から除外するのは不当だとする。

2. 2 受動ではないと捉える研究

李翊燮・任洪彬(1983)は、「게 되다 ge doeda」(9a)と「아지다 ajida」(9b)は受動的な意味を帯びているとしながらも、典型的な受動(接尾辞受動)の形式ではないとし、受動法の論議から除外している。

(9) a 형은 학교에서 장학금을 받게 되었다.

Hyeonggeun hakgyoeseo janghakgeumeul batbe doeeotda

兄は 学校から 奨学金を もらう-ge なった

兄は学校から奨学金をもらうようになった

b 이 책상은 완전히 나무로만 만들어졌다.

I chaeksangeun wanjeonhi namuroman mandeureojyeotda

この机は完全に木だけで作る-ajida

この机は完全に木だけで作られた

이상억 (李 1999) は「게 되다 ge doeda」と「아지다 ajida」を受動の形式としつつも、「게 되다 ge doeda」を “gets to be so that, gets so that (something does or might happen to it)” と直訳できたり “it happens that…, (one) happens to do…” などと意識できたりすること、また「아지다 ajida」を “get to be, become, grow” と訳せることから起動性を意味する構文であるとしている。

以上、2. 節では「게 되다 ge doeda」と「아지다 ajida」を同じ枠組みの中に取り入れた先行研究についてみたが、次の3. 節では「게 되다 ge doeda」について、4. 節では「아지다 ajida」についての先行研究をあげる。

### 3. 「게 되다 ge doeda」の先行研究

日韓の対照研究および日本における韓国語の「되다 doeda」についての先行研究は、主に、「漢語+하다 hada (漢語+する)」に対しての「漢語+되다 doeda (漢語+される)」に限られると言える。丸田孝志・林憲燦 (1997) は、「게 되다 ge doeda」を取り上げてはいるが、これもやはり「漢語<sup>9</sup>+하다 hada (漢語+する)」に「게 되다 ge doeda」がつづく構文についての研究である (具体的な例については第2章であげる)。鄭秀賢 (1986) では、「「게 되다 ge doeda/아지다 ajida」構文は受動というよりはいわば「自発」の概念に、より近い印象が強いと思われる」と記しているだけで、あげられた例も「아지다 ajida」のみであり、「게 되다 ge doeda」の例はない。また、李文子 (1979) は、日本語の「もちぬしの受動」を中心に韓国語との対照研究をしているが、ここでも「게 되다 ge doeda」を除く受動形をあげている。したがって、本稿での研究対象とする「게 되다 ge doeda」についての先行研究は、韓国の国語研究に基づいて取り上げることにする。

<sup>9</sup> 漢語には、名詞としても動詞語基としても使用されるものがあり、これを「動作性名詞漢語」と称している。

### 3. 1 使役文に対応する受動文

최규수 (Choe 2005)、김영태 (金 1997) は、「게 되다 ge doeda」を使役文の受動文としている。受動は、形態的に他動詞である能動詞<sup>10</sup>が自動詞である受動詞に交替し、統語的には他動詞文の目的語が自動詞文の主語に交替して他動詞文の主語が自動詞文の位置へと交替する文法現象であるとし、使役文も目的語をもつことから次の(10a)の使役文に対して(10b)を受動文とする。

(10) a 철수가 영이를 책을 읽게 했다.

Cheolsuga yeongireul chaegeul ikge haetda

チョルスが ヨンイを 本を 読む-ge した

チョルスがヨンイに本を読ませた

b 영이가 (철수에 의해) 책을 읽게 되었다.

Yeongiga (cheolsue uihae) chaegeul ikge doeetda

ヨンイ가 (チョルスに よって) 本を 読む-ge なった

ヨンイ가 (チョルスによって) 本を読まされた

(10b)の受動文は、主語と目的語の交替とともに、「하다 hada (する)」を「되다 doeda」へ交替することで作られるとしている。また、韓国語は接尾辞による使役詞と受動詞に制限があるので、「V-게 하다 ge hada」の他動詞文を使役文、「V-게 되다 ge doeda」で作られた文を受動文とすると、その空白を埋めることができるとしている。一方、使役文に対応する受動文は行為動詞に限らず、過程動詞、位置動詞、状態動詞においても可能であるとする。(11)～(13)のaは「V-게 하다 ge hada」の他動詞文で、bは「V-게 되다 ge doeda」の受動文である。また、これらを(14)のようにまとめている。

(11) a 영이가 물을 흐르게 한다.

Yeongiga mureul heureuge handa

ヨンイ가 水を 流れる-ge する

ヨンイ가水を流す

b 물이 (영이에 의하여) 흐르게 된다.

Muri (yeongie uihayeo) heureuge doenda

水が (ヨンイに よって) 流れる-ge なる

水が (ヨンイによって) 流れる

<sup>10</sup> 自らの力で行われる動作を表し、能動文を形成する動詞を指す。

(12) a 철수는 영이를 마산에 있게 했다.

Cheolsuneun yeongireul masane itge haetda

チョルスは ヨンイを 馬山に いる-ge した

チョルスはヨンイを馬山にいさせた

b 영이가 (철수에 의하여) 마산에 있게 되었다.

Yeongiga (cheolsue uihayeo) masane itge doeotda

ヨンイ가 (チョルスに よって) 馬山に いる-ge なった

ヨンイ가 (チョルスによって) いるようになった

(13) a 영이가 화면을 어둡게 했다.

Yeongiga hwamyeoneul eodupge haetda

ヨンイ가 画面を 暗い-ge した

ヨンイ가画面を暗くした

b 화면이 (영이에 의하여) 어둡게 되었다.

Hwamyeoni (yeongie uihayeo) eodupge doeotda

画面が (ヨンイに よって) 暗い-ge なった

画面が (ヨンイによって) 暗くなった

(14) a X가 Y를 V-게 하다

X가 Y를 V-ge する

b Y가 (X에 의하여) V-게 되다

Y가 (Xによって) V-ge なる

しかしながら、(10) ~ (13) の b で、「~によって」を削除した場合も受動文と言えるのかについての考察が必要であると思われる。

### 3. 2 動詞の表す事柄の展開

用言の語幹につづく「게 되다 ge doeda」が一種の受動形式とされてきたことについて、이정택 (李 2004) は、次の (15) の例をあげ、受動的な意味を表すことはできるけれども、「게 되다 ge doeda」構文自体に受動の意味があるとは言えないとする。

(15) a 경찰은 진실을 알게 되었다.

Gyeongchareun jinsireul alge doeotda

警察は 真実を 分かる-ge なった

警察は真実がわかった

- b 경찰은            내        제보를        통해        진실을        알게        되었다.  
 Gyeongchareun    nae        jeboreul        tonghae        jinsireul        alge        doeetda  
 警察は                私の    情報提供を        通じて    真実を        分かる-ge    なった  
 警察は私の情報提供を通じて真実が分かるようになった
- c 경찰은 진상 조사 결과 진실을 알게 되었다.  
 Gyeongchareun    jinsang    josa        gyeolgwa        jinseureul        alge        doeetda  
 警察は                真相の    調査    結果        真実を        分かる-ge    なった  
 警察は真相の調査結果真実が分かるようになった

(15a) に対して、(15b) の「警察」は「私の情報提供」という外部の影響を受けていることに違いないことから受動的な意味を表すが、(15c) では外部の影響がないとしている。また、次の (16a) に受動の意味が現れるのは、「게 되다 ge doeda」によるのではなく、動詞「奪われる」が受動をその固有の意味属性として持つからとし、「獲得する」という動詞に変えた (16b) をあげることで受動の意味がないと主張する。

- (16) a 그럴            경우        당사자는        명예와        지위를        한꺼번에  
 Geureol        gyeongu        dangsajaneun        myeongyewa        jiwireul        hankkeobeone  
 そのような    場合        当事者は        名誉と        地位を        いっぺんに  
 빼앗기게        된다.  
 ppaeatgige        doenda  
 奪われる-ge    なる  
 そのような場合当事者は名誉と地位をいっぺんに奪われるようになる
- b 그럴            경우        당사자는        명예와        지위를        한꺼번에  
 Geureol        gyeongu        dangsajaneun        myeongyewa        jiwireul        hankkeobeone  
 そのような    場合        当事者は        名誉と        地位を        いっぺんに  
 획득하게        된다.  
 hoekdeukhage        doenda  
 獲得する-ge    なる  
 そのような場合当事者は名誉と地位をいっぺんに獲得するようになる

そして「게 되다 ge doeda」を、3. 1 節の使役文に対応する受動文とすることもあり得るとしつつも、特定の能動的な作用なしに行われる次の (17a) をあげ、受動文ではな

いとしている。さらに、「게 되다 ge doeda」に形容詞が先行する（17b）をあげて、「게 ge」に先行する用言と「되다 doeda」は異なる事柄を表すとし、「게 되다 ge doeda」は動詞の表す事柄が行われるように状況が展開することを意味すると考え、これが「게 되다 ge doeda」が受動の一つの形式と言われてきた理由であるとしている。

（17）a 제가 다시 오게 됐군요.

Jega dasi oge dwaetgunyo

私が また 来る-ge になりましたね

私がまた来るようになりましたね

b 저 아이는 크게 될 거야.

Jeo aineun keuge doel geoya

あの 子は 大きい-ge なるだろう

あの子は大きくなるだろう

### 3. 3 未来の決定事項を表す

서정수 (Seo1996)、우인혜 (Woo 1997) は、「게 되다 ge doeda」構文を受動文として取り扱うのには無理があるとする。

（18）a 나뭇잎 색깔이 붉게 된다.

Namusip saekkkari bukge doenda

木の葉の 色が 赤い-ge なる

木の葉の色が赤くなる

b 두 사람의 결혼식이 거행되게 된다.

Du saramui gyeolhonsigi geohaengdoege doenda

二人の 結婚式が 行われる-ge なる

二人の結婚式が行われることになる

우인혜 (Woo 1997) によると、（18a）の形容詞が先行する場合は、ある状態変化の始まりや発生を意味する「起動」の意味を、（18b）のように自動詞が先行する場合は、「受動」でも「起動」でもない「未来の決定事項」を表す第3の意味が発生するとしている。この「未来」と関連する「게 되다 ge doeda」について、次の（19）をあげて説明する。

(19) 이번 결혼식은

Ibeon gyeolhonsigeun

今回の結婚式は

a 성대하게 됐다. \*그러나 성대하지 않았다.

seongdaehage dwaetda. geureona seongdaehaji anatda

盛大に なった しかし 盛大ではなかった

盛大になった。しかし、盛大ではなかった

b 성대하게 거행됐다. \*그러나 성대히 거행되지 않았다.

seongdaehage geohaengdwaetda. geureona seongdaehi geohaengdoeji anatda

盛大に 行われた しかし 盛大に 行われなかった

盛大に行われた。しかし、盛大に行われなかった

c 성대히 거행하게 됐다. 그러나 성대히 거행되지 않았다.

seongdaehi geohaenghage dwaetda. geureona seongdaehi geohaengdoeji anatda

盛大に 行う-ge なった しかし 盛大に 行われなかった

盛大に行くことになった。しかし、盛大に行われなかった。

(19a) は、「今回の結婚式は盛大になった」に否定文がつづくとは文になることを、(19b) は、「今回の結婚式は盛大に行われた」に否定文がつづくとは文になることを示している。しかし、「게 되다 ge doeda」が用いられた(19c)の場合は、「未来の決定事項」を表す「게 ge」があるから否定文がつづくことが可能であるとする。

### 3. 4 本動詞「되다 doeda」

成光秀(1978)は、「게 되다 ge doeda」を本動詞とみるのが妥当だとする。

(20) a\*쥐가 고양이에게 잡게 되었다.

Jwiga goyangiege japge doeeotda

ネズミが ネコに 捕まえる-ge なった

ネズミがネコに捕るようになった

b 고양이가 쥐를 잡게 되었다.

Goyangiga jwireul japge doeeotda

ネコが ネズミを 捕まえる-ge なった

ネコがネズミを捕るようになった

c 쥐가            고양이에게    잡히게       되었다.  
 Jwiga        goyangiege    japige        doeeotda  
 ネズミが    ネコに            捕まる-ge    なった  
 ネズミがネコに捕まるようになった

(20a) は「ネコがネズミを捕った」に対応する受動文になるはずだが、非文である。  
 (20c) の受動文は、受動の接尾辞「히 hi」によるもので、「되다 doeda」によるのではないとし、(20b) からみると、「되다 doeda」は受動の補助動詞ではなく本動詞であるとしている。しかし、その具体的な説明などは上記以上なされてない。

### 3. 5 「게 되다 ge doeda」の「게 ge」

(1a) の「나뭇잎이 빨갱게 되었다. Namusipi ppalgake doeeotda 木の葉が赤くなった」でもみるように、「게 ge」は形容詞を副詞にする(「赤い」を「赤く」に)。一方、動詞にもついて、動詞の語幹につく「게 ge」について、이정택 (李 2004) は、次の(21)をあげて、「게 ge」に先行する用言と「되다 doeda」は、未来と過去という異なる時間帯に属する二つの事柄を表すとしている。これは、「게 ge は、常に将来どのようになるのかという様子を表す」とする최현배 (Choe 1937) ととも共通する。

(21) a 어제 회의를 통해, 나는 내년 3월에 연구비를 받게 되었다.  
 Eoje hoeuireul tonghae, naneun naenyeon 3wore yeongubireul batbe doeeotda  
 昨日 会議を 通じて, 私は 来年 3月に 研究費を もらう-ge なった  
 昨日の会議で、私は来年3月に研究費をもらうことになった

b 정부는 앞으로 더 많은 공공사업을 벌이게 되었다.  
 Jeongbuneun apeuro deo maneun gonggongsaeobeul beorige doeeotda  
 政府は 今後 もっと 多くの 公共事業を 行う-ge なった  
 政府は今後もっと多くの公共事業を行うことになった。

(21a) の場合、「私が研究費をもらう」のは来年の3月で、そのように決定したのは「昨日」である。(21b) でも、実際「公共事業が行われる」のは今後のことだが、その決定は過去である。「게 되다 ge doeda」構文は複文であり、その一部である「게 ge」が一つの節をもつことを意味するとしている。これを남기심・고영근 (Nam・Go1985) では、過去



において動作が予定されていることを表す「予定相（展望相）」としている。また、김영태（金 1997）では、(22)をあげ、「게 ge」に先行する用言と補助動詞「되다 doeda」は動作の主体が異なることと、先行用言と「되다 doeda」の動きの領域が違うとしている。

(22) a 그 사람은 중풍으로 죽게 되었다.

Geu sarameun jungpungeuro jukge doeeotda

その人は 中風で 死ぬ-ge なった

その人は中風で死んだ

b 나는 속이 상해서 술을 푸게 되었다.

Naneun sogi sanghaeseo sureul puge doeeotda

私は 腹が 立って お酒を 飲む-ge なった

私は腹が立ってお酒を飲んだ

(22a) では、死んだ主体は「その人」で、死ぬようにした主体は「中風」であり、(22b) では、お酒を飲んだのは「私」だが、飲むようにした主体は「腹立つこと」だとしている。また이익섭（李 2005）によると、「게 ge」はある事柄の結果、そのようになったという意味を持ち、ある事態の到達点を表す意味として用いることができるとする。

#### 4. 「아지다 ajida」の先行研究

受動法の一つとしてあげられている최현배（Choe 1937）以来、「아지다 ajida」は受動の研究では常に取り上げられるようになっている。一方、2.2節でもあげた李翊燮・任洪彬（1983）は、「아지다 ajida」について、意味は受動的であるが受動の形式ではないとし、受動法の異質的な構成であるとみて、受動法の論議から除外している。まず、具体的な先行研究に入る前に최규수（Choe 2005）であげている受動詞の種類のうち、第Ⅱ類型の「V-아지다 (V-ajida)」と第Ⅲ類型の「V-아 지다 (V-a jida)」の相違について記す曹五鉉（Jo 1995）をみる。

第Ⅱ類型の「V-아지다 (V-ajida)」とは、合成語（語彙化したもの；<떨어지다 tteoreojida 落ちる>、<빠지다 ppajida 溺れる>、<넘어지다 neomeojida・쓰러지다 sseureojida 倒れる>、<깨지다 kkaejida 割れる>、<부러지다 bureojida 折れる>など）で、第Ⅲ類型の「V-아 지다 (V-a jida)」は、「先行する用言+a」と補助動詞「지다 jida」にわけている。本稿ではこれらを同じ「아지다 ajida」とまとめて取り扱うことにする。

#### 4. 1 受動

「아지다 ajida」は、この形式を受動の補助動詞であるとする研究では、接尾辞による受動（典型的な受動）と一緒に扱われることが多い。김차균（金 1980）は、受動の意味を「動詞の動作性<sup>11</sup>を弱化したり（「아지다 ajida」による受動）、完全に弱化し（接尾辞の受動<sup>12</sup>）、相対的に過程性を強化する」とし、이기동（李 1978）の問題点を指摘しつつ「아지다 ajida」受動（以下、jida 受動とする）をまとめている。次は、이기동（李 1978）の例で、(2 3 a) は自然発生的な過程を表す接尾辞受動、(2 3 b) は話者の願い・行為者の背景化（「ドアを開ける」後者が文に現れない）・過程の難しさ（大変さ）の意味をもつ jida 受動である。

(2 3) a 문이 열리었다.

Muni yeollieotda

ドアが 開ける -li (受動の接尾辞)

ドアが開いた

b 문이 열어졌다.

Muni yeoreojyeotda

ドアが 開ける -jida

ドアが開けられた

しかし、김차균（金 1980）は、(2 3 b) の jida 受動について、「영수가 문을 열었다 (ヨンスがドアを開けた)」の他動詞能動文に対応する受動文であるとし、他動詞による動作にはある程度の難しさ（大変さ）があること、また話者の願いも込められているので、受動の補助動詞「아지다 ajida」の意味は中立的であるとしている。

また、이기동（李 1978）は、動作性のある自動詞「걷다 geotga 歩く」に「지다 jida」のついた (2 4) の例について、「(一日で歩けないと思われる距離なのに) チャンスはたった一日で歩いた」ことを含意し、「チャンスが一日で歩くことは大変なことと思われた」という予想が可能であるとし、これらは「지다 jida」のもつ意味によるとする。

<sup>11</sup> 動詞を行為 (action)、作用 (process)、状態 (state) にわけ、これら動詞の持つ意味的性格として、動作性（もしくは行為性）、過程性（もしくは作用性）、状態性があるとしている。

<sup>12</sup> 以下、接尾辞受動とする。

(24) 창수는 하루만에 걸어졌다.

Changsuneun harumane georeojyeotda

チャンスは 一日だけで 歩く－jida

チャンスはたった一日だけで歩いた

これに対しても、김차균 (金 1980) は、上記のような含意と予想が可能なのは、jida 受動によるのではなく、「一日だけで」の「だけ」という取り立て助詞が文中にあるからであるとしている。また、(25) をあげて、(25a) は「私は学校に行く」に、(25b) は「私は歩く」に比べて、行為者による動作性は弱まり、健康状態もしくは環境などの条件によって動作が行われるとしている。

(25) a 나는 학교가 가진다.

Naneun hakgyoga gajinda

私は 学校が 行く－jida

私は学校に行けるようになる

b 나는 걸어진다.

Naneun georeojinda

私は 歩く－jida

私は歩けるようになる

一方、양동휘 (Yang 1979) も、jida 受動と接尾辞受動との相違を指摘している。

(26) a 이가 갈린다.

Iga gallinda

齒が 擦る－li (受動の接尾辞)

齒軋りがする

b 이가 갈아진다.

Iga garajinda

齒が 擦る－jida

齒軋りがする

(26a) は接尾辞受動文、(26b) は jida 受動文で、両方ともほぼ同じ意味をもつが、接尾辞受動文は受動の意味だけでなく、「悔しい」という慣用的な意味でも使われるとして、jida 受動文と異なるとする。また、次の (27a) は「他の人の足が私の足の上に触れた」という中立受動 (neutral passive) の意味と「私は足を踏まれる被害を受けた」という被害受動 (adversative passive) の意味で使われるのに対して、(27b) は中立受動の意味でしか使われなとし、(27) の「足が」を「足を」に変えた (28) で、jida 受動の (28b) が非文になることで明らかになるとしている。

(27) a 나는 발이 밟혔다.

Naneun bari balhyeotda

私は 足が 踏む－hi (受動の接尾辞)

私は足が踏まれた

b 나는 발이 밟아졌다.

Naneun bari balbajyeotda

私は 足が 踏む－jida

私は足が踏まれた

(28) a 나는 발을 밟혔다.

Naneun bareul balhyeotda

私は 足を 踏む－hi (受動の接尾辞)

私は足を踏まれた

b\* 나는 발을 밟아졌다.

Naneun bareul balbajyeotda

私は 足を 踏む－jida

이익섭 (李 2005) は、受動の接尾辞を取らない他動詞は「아지다 ajida」と結合することで受動にするとしている。また、受動の接尾辞と結合した受動詞が辞書に載っているのに対して、「아지다 ajida」による受動は辞書に載らないことから、準受動動詞としている。また、남기심・고영근 (Nam・Go 1985) では、(29a) の接尾辞受動は、誰も願っていないのに自ずとそのようになったという意味を、(29b) の jida 受動はある結果が生じる行われることを願って意図的な力が加えられそのようになるという意味を表すとしている。

(29) a 오늘은 책이 잘 읽힌다.

Oneureun chaegi jal ilkinda

今日は 本が よく 読む－hi (受動の接尾辞)

今日は本がよく読まれる

b 오늘은 책이 잘 읽어진다.

Oneureun chaegi jal ilgeojinda

今日は 本が よく 読む－jida

今日は本がよく読まれる (読める)

塚本秀樹・鄭相哲 (1993) は、「이 i 形」と「지다 jida 形」<sup>13</sup>の相違を、①三項動詞能動文から受動文への転換における制約、②動作主のマーカ、③主格名詞句の意味特性、④アスペクトの観点から述べている。次の表にまとめて記す。

<sup>13</sup> 「i 形」とはこれまでの接尾辞受動、「jida 形」とは jida 受動のことを指す。

(30) 「이 i 形」と「지다 jida 形」の相違

		「이 i 形」	「지다 jida 形」
①三項動詞能動文から受動文への 転換における制約：対格名詞句		主格名詞句にならない	主格名詞句になる
②動作主のマーカー		에게に、에서/로부터から	에 의해(서) によって
③主格名詞句の意味特性		有生のもの	無生のもの
④アспект	進行相	○	○
	結果持続相	制限がある	○

長谷川 (1993) は、「이 i 形」と「지다 jida 形」の二種類の受動形をもつ他動詞の例をあげ、受動主体が有情物である場合は必ず「이 i 形」受動を取り、非情物である場合は両方の可能性があるとする。しかし、両方の受動形がある場合、「지다 jida 形」の使用は非常に少なく、「이 i 形」の使用が圧倒的に多いとしている。

(31) a 나는 마치고 발목에 묶여 있던 무거운 쇳덩이 같은 것이  
(묶이다 : 縛られる)

Naneun machido balmoge mukkyeo itdeon mugeoun soetdeongi gateun geosi

떨어져나가는 듯한 홀가분함마저 느꼈다.

tteoreojyeonaganeun deuthan holgabunhammajeo neukkyeotda

私はあたかも足首に結わえ付けられていた重い鉄の塊のようなものが外れていくような身軽ささえ感じた

b 전라도 아줌마는 커다란 비닐포대에 든 채소들을 고무합지에 조금씩

Jeollado ajummaneeun keodaran binilpodaee deun chaesodeureul gomuhamjie jogeumssik

본보기로 늘어놓고 나더니 따로 묶어져 있는 좀 작은 비닐봉지를

(묶다-jida : 縛る-jida)

bonbogiro neureonoko nadeoni ttaro mukkeojyeo itneun jom jageun binilbongjireul

열고 새로 오이며 속갓 같은 것을 꺼내어 한 옆에 늘어놓았다.

yeolgo saero oimyeo ssukgat gateun geoseul kkeonaeeo han yeope neureonohatda

全羅道のおばさんは大きなビニールの袋に入った野菜をゴムのたらいに少しずつ見本として並べ、それが終わると別に結わえられているちょっと小さなビニール袋を開けて、新たにキュウリやら春菊やらを取り出し横っちょに並べた

c 세르베투스는 샴펠 언덕으로 끌려가 거기에 세워진 십자가에 달렸다.

Sereubetuseuneun syampel eondeogeuro kkeullyeoga geogie sewojin sipjagae dallyeotda

그의 온 몸에는 그가 저술한 책들이 묶여져 있었다.

(묶이다-jida : 縛られる-jida)

geuui on momeneun geuga jeosulhan chaekdeuri mukkyeojyeo isseotda

セルベトスはシャンペルの丘へ引き立てられ、そこに立てられた十字架に張り付けられた。彼の体中には彼の著述した本がくくりつけられていた。

(31a) では「묶다 mukdda 縛る、くくる、束ねる、結わえる」の「이 i 形」受動が、(31b) では同じ動詞の「지다 jida 形」受動が使用されている。なお、受動主体については前者が「鉄の塊」、後者が「ビニール袋」で両者とも非情物であるが、「이 i 形」受動のほうは強い拘束感が感じられる一方、「지다 jida 形」は淡々と事実を描く客観性を感じるとしている。さらに、接辞によって派生された受動動詞語幹に補助動詞「아지다 ajida」を加えた受動を「複合形」とし、(31c) をあげている。(31c) の受動主体は「本」である。「複合形」は相対的に非情主体と馴染む一方、「くくりつけられる」という被りの事実状態性を加えることで客観化されているとする。要するに、「아지다 ajida」を添加することによって、その事実を客観的に描写する機能があるようで、「複合形」における「아지다 ajida」は少なくとも先行動詞を受動化するものではなく、状態化の補助動詞と見るべきだとしている。

#### 4. 2 起動

「지다 jida」の意味に現れる「起動」について成光秀(1976)は、自動詞と形容詞が先行するときのみ現れる機能であるとする。ただし、この場合も「起動」のほかに「受動」の機能もあるとし、「지다 jida」は「起動的受動」と名付けている。また、他動詞が先行するときについては、依然として「受動」の機能をするとしている。

鷺尾(2001)は、「漢語+하다 hada」形容詞のうち、〈해이하다 解弛する、문란하다 紊乱する〉の「하다 hada」形容詞をとりあげて、形容詞の意味構造は“X STATE”で、補助動詞「지다 jida」によって「起動化」し“X BECOME STATE”の意味を表すとしている。

서정수(Seo 1996)、우인혜(Woo 1997)は「지다 jida」の意味が「受動」であると言われてきたことについて、「起動」のもつ意味的特徴によるとする。その際、「지다 jida」に先行する用言の種類にわけて説明している。

(3 2) a 도로가 최근 넓어졌다.            이제는 도로가 넓다.

Doroga choegeun neolbeojyeotda. ijeneun doroga neolda

道路が 最近        広い-jida        今は        道路が 広い

道路が最近広くなった。今は道路が広い

b 이 신이 닳아졌다.

I sini darajyeotda

この 靴が 擦り減る-jida

この靴が擦り減った

c 이 신이 닳았다.

I sini daratda

この 靴が 擦り減った

この靴が擦り減った

(3 2 a) の「넓어졌다 neolbeojyeotda (広い-jida) 広くなった」は、広くなかった状態からやがて広い状態へと変わったことを表し、「넓다 neolda 広い」のように変わった状態に焦点を当てることもできる。「지다 jida」の起動化は、状態性の用言である形容詞を動詞化する結果になり、起動相は状態性が過程性になるところに焦点を当てている。自動詞が先行する (3 2 b-c) は、ほぼ同じ意味として使われる場合が多いが、(3 2 b) は靴が擦り減っていない状態から擦り減っている状態に変化したことを表すところに焦点をおくのに対して、(3 2 c) は状態変化 (擦り減っている) としての意味もあるが、「(過去のある時点で) 擦り減ったことがあった」という意味として認識する。(3 2 b) は、「ある状態の始まり、あるいは他の状態への変化」という起動相の意味が現れるとしている。

#### 4. 3 自動詞化

송창선 (Song 2005) は、形容詞・自動詞・他動詞にわけて、「지다 jida」の文法的な機能と意味について考察している。他の先行研究と違う点は、『標準国語大辞典』に記載している「지다 jida」の例をあげていることと「뜨리다<sup>14</sup> tteurida」という「지다 jida」から派生したと思われる他動詞との関係から説明していることである。송창선 (Song 2005) を次の (3 3) の表でまとめる。

<sup>14</sup> 動詞の連用形に付いて動詞の意を強めたり他動詞を作ったりする。

(3 3) 「지다 jida」の文法的機能と意味

	文法的機能	意味
形容詞	自動詞化	状態変化
自動詞		
他動詞		(自然と) そのようになる

4. 4 変化

손세모돌 (Son 1996) は、「変化」を「지다 jida」の基本意味としている。先行研究で言われてきた「受動」、「起動」、「心理的態度の表示」はあくまでも文脈の意味であり、これら「지다 jida」に関する文脈的な意味も「変化」から説明することができるとする。まず、「受動」は他動詞構文からは可能であるけれど、形容詞と自動詞を先行用言とする場合は「受動」を「지다 jida」の基本意味とするには無理があるとしている。

「起動」は、動作および状態変化の始まりを表すので「変化」を前提とするとし、文脈的な「起動」の意味は、「変化の始まり」に焦点をおいたときに現れる意味であると説明する。もし、「起動」が「지다 jida」の基本意味であるとする、(3 4 a) が自然でなければならぬが、「시작하다 sijakhada 始める」という動詞が結びついた (3 4 b) のほうが自然である。状態変化が始まること表現するのに、「지다 jida」と「시작하다 sijakhada 始める」が一緒に使われたほうが自然であるということは、「지다 jida」が「変化」の意味を表し、「시작하다 sijakhada 始める」が動作の始まりを表すと説明している。

(3 4) a? 이제부터/ 이제 막 어두워진다.

Ijebuteo/ ije mak eoduwojinda

これから/ 今 ちょうど 暗い—jida

これから/ 今にも暗くなりそうだ

b 이제부터 / 이제 막 어두워지기 시작한다.

Ijebuteo / ije mak eoduwojigi sijakhanda

これから / 今 ちょうど 暗い—jida 始める

これから / 今ちょうど暗くなり始める

c 지금 / 서서히 / 점점 어두워지고 있다.

Jigeum/ seoseohi/ jeomjeom eoduwojigo itda

今 / 徐々に / だんだん 暗い—jida いる

今/徐徐に/だんだん暗くなっている



また、「지다 jida」が動作の進行を表す「-고 있다 -go itda ～ている」と結びつく(34c)をあげて、「지다 jida」が起動相ではないとしている。(34c)の「ている」との結合で持続的変化(進行)を表すのみであるとする。

「話者の心理的態度」については、不可能だと思っていたのに可能だった、あるいは、奇跡であるとの意味を含む(35)も、究極的には「変化」する過程が難しいか不可能であるかという話者の心理的態度を見せるとしている。

(35) 집이 열흘만에 다 지어졌다.

Jibi yeolheulmane da jieojyeotda

家が十日だけですべて建てる-jida

たったの十日で家が建った

生越(2008)は、他動詞「찢다 jjitda 破る」からの接尾辞受動「찢기다 破れる」と jida 形「찢어지다 破る-jida」をあげ、インフォーマント調査においての容認度の高いものに基づいて分析している。それをまとめると、「지다 jida」形の容認度の高い例では、変化をひき起こした動作主が明確ではなく、主語となっている物の持つ性質や結果状態を表しているにすぎないとする。また文脈的から変化をもたらした動作主が分かるとしても、結果としてそういう変化が起きていることに過ぎず、意図的に行った行為ではないとしている。つまり、容認度の高い「지다 jida」形は、自然に起こった変化であり、主語の変化自体に表現の中心があるとしている。一方、손세모돌(Son 1996)では、「지다 jida」が形容詞を先行用言とするととき、「가다 gada/오다 oda (行く/来る)」との交替が可能で、その場合「状態変化の持続」の機能をするとしている。また、「gada/oda」との交替可能性も「지다 jida」の基本意味である「変化」によるとする。この「gada/oda」との交替可能性については、第4章で取り上げることにする。

#### 4. 5 受動を含むその他

우형식(Woo 1996)は、「지다 jida」による受動は他動文を持たない<sup>15</sup>こと、さらに、起動性を帯びている「지다 jida」による受動は<変化した結果中心的>であるとしている

<sup>15</sup> a 철수가 손가락이 잘라졌다.  
Cheolsuga songaragi jallajyeotda.  
チョルスが指が切る-jida  
チョルスが指が切られた

b \*철수가 손가락을 잘라졌다.  
Cheolsuga songarageul jallajyeotda  
チョルスが指を切る-jida  
チョルスが指を切られた

る。次の(36)は、動作性の高い「물다 mulda 噛みつく」の例で、(36b)は成り立たないとする。また、(37)は自発的な動作の予想される「닫다 datda 閉める」の例をあげている。(38)では接尾辞による受動文をもたない「외우다 oeuda 覚える」は「지다 jida」受動文が可能であり、変化した結果としての自然的な事態を表現するとしている。

(36) a 철수가 개한테 물렸다.                      b \*철수가 개한테 물려졌다.  
 Cheolsuga gaehante mullyeotda                      Cheolsuga gaehante mullyeojyeotda  
 チョルスが 犬に 噛みつかれた                      チョルスが 犬に 噛みつかれる－jida  
 チョルスが犬に噛みつかれた

(37) a 문이 철수에 의해 닫혔다.                      b 문이 철수에 의해 닫혀졌다.  
 Muni cheolsue uihae dachyeotda                      Muni cheolsue uihae dachyeojyeotda  
 ドアが チョルスに よって 閉まった                      ドアが チョルスに よって 閉まる－jida  
 ドアがチョルスによって閉まった                      ドアがチョルスによって閉められた

(38) a 철수가 전화번호를 외웠다.  
 Cheolsuga jeonhwabeonhoreul oewotda  
 チョルスが 電話番号を 覚えた  
 チョルスが電話番号を覚えた  
 b 나는 친구들 전화번호가 잘 외워지지 않는다.  
 Naneun chingudeul jeonhwabeonhoga jal oewojiji aneunda  
 私は 友たち 電話番号が よく 覚える－jida ない  
 私は友たちの電話番号がなかなか覚えられない

円山(2008)では、上記の先行研究であげている「지다 jida」の各用法を認めたうえで、その決定要因など「지다 jida」についての全体像の詳しい研究を次の(39)でまとめている。これは、塚本秀樹・鄭相哲(1993)で「지다 jida」を受動のみに制限したのに対して、さらに発展した研究であると思われる。

(39) jidaの用法の決定要因および該当レベル

用法	決定要因	該当レベル
状態変化	先行用言は状態アスペクトに該当する	語彙レベル
受動	先行用言の品詞は他動詞	語彙・統語レベル

自発	動作主名詞句か人間名詞のみ	統語レベル
到達	主語名詞句は主に無生名詞	統語レベル
可能	話者の予想が関与する	語用論レベル

## 5. 第1章のまとめ

本章は、「게 되다 ge doeda」と「아 지다 a jida」について、韓国の国語文法の先行研究を中心にして取り上げた。第2節は、「게 되다 ge doeda」と「아 지다 a jida」を同じ枠組みの中で捉える場合（2.1の受動と捉える研究、2.2の受動ではないと捉える研究）をあげ、第3節は「게 되다 ge doeda」について、第4節では「아 지다 a jida」について、それぞれの先行研究をあげている。

先行研究から、「게 되다 ge doeda」と「아 지다 a jida」の研究は受動か否かに集中していること、また＜受動＞とする研究では、「게 되다 ge doeda」と「아 지다 a jida」を何らかの形で結び付けようとする傾向があることが分かった。

本稿は、(1)の例でみるように、日本語の「赤くなる」という表現に対応する韓国語は何故二通りが存在するのかについて研究することで、「게 되다 ge doeda」と「아 지다 a jida」の相違点を探り、(2)であげているように、同じ動詞を用いた表現であっても＜受動＞、＜可能＞等の意味を表す「아 지다 a jida」について詳しく考察する。なお、一見「게 되다 ge doeda」と「아 지다 a jida」とは関連性のないように思われる「てくる・ていく」（対応する韓国語の「아 a 오다 oda」「아 a 가다 gada」）についても考察する。

## 第 2 章 「되다 doeda」と<되다 doeda 構文>

### 1.はじめに

日本語の「する」は韓国語の「하다 hada」に対応するが、それに対して、受動態「される」と自動詞「なる」は、韓国語にするとどちらも「되다 doeda」に対応する。

する                      —      하다 hada

される、なる        —      되다 doeda

まず、「名詞+하다 hada」動詞を「名詞+되다 doeda」にすることによって作られる日本語の受動態に対応する表現の例をあげる(최 현배 Choe 1937)。

(1) 경찰이        그    사람을    체포했다.

Gyeongchali    geu    sarameul    chepohaetda

警察が        その    人を        逮捕—する

警察がその人を逮捕した。

(2) 그    사람이    경찰에게        체포되었다.<sup>16</sup>

Geu    sarami    gyeongchalege    chepodoeetda

その    人が        警察に            逮捕—される

その人が警察に逮捕された。

第1章の先行研究でもあげた최규수(Choe 2005)は、「게 되다 ge doeda」を使役文の受動文とし、行為動詞のみならず過程動詞、位置動詞、状態動詞においても可能であるとしている。行為動詞の例としてあげている(3)で、(3a)は使役文、(3b)は使役文からの受動文としている。しかし、(3b)の「～によって」を省いた(3c)の場合、対応する使役文が必ずしもあるわけではない。

(3) a 철수가        영이를        책을        읽게        했다.

Cheolsuga    yeongireul    chaegeul    ikge        haetda

<sup>16</sup>걱정되다(心配 doeda)、공부되다(勉強 doeda)、연구되다(研究 doeda)、감금되다(監禁 doeda)、주목되다(注目 doeda)、게재되다(掲載 doeda)、결박되다(結縛 doeda)

チョルスが ヨンイを 本を 読む-ge した

チョルスがヨンイに本を読ませた

b 영이가 (철수에 의해) 책을 읽게 되었다.

Yeongiga (cheolsue uihae) chaegeul ikge doeeotda

ヨンイが (チョルスによって) 本を 読む-ge なった

ヨンイが (チョルスによって) 本を読まされた

c 영이가 책을 읽게 되었다.

Yeongiga chaegeul ikge doeeotda

ヨンイが 本を 読む-ge なった

ヨンイが本を読むようになった

(3c) は、文字が読めなかったヨンイが読む練習を続けて、次第に読めるようになったという状況変化を表す場合とクラスで本を読んでいてヨンイが本を読む順番になったという意味を表す場合がある。いずれも、状況や成り行きによってはじめて動作主「ヨンイ」に読む意図が生じ、その結果「読む」行為が実現したという意味を表している。次の(4)も、최규수 (Choe 2005) にあげている例で、元の使役文からの「チョルスによって」という動作主を省いた例である。

(4) a 물이 흐르게 된다.

Muri heureuge doenda

水が 流れる-ge なる

水が 流れるようになる

b 영이가 마산에 있게 되었다.

Yeongiga masane itge doeeotda

ヨンイが 馬山に いる-ge なった

ヨンイが馬山にいるようになった

c 화면이 어둡게 되었다.

Hwamyeoni eodupge doeeotda

画面が 暗い-ge なった

画面が暗くなった

(4a-c) は、各々過程動詞、位置動詞、状態動詞の例で、自然な変化の過程を表す解釈と何らかの理由によってその結果実現したという解釈がある。例えば、(4a) は、「물이 흐르다 muri heureuda 水が流れる」は、「流れていなかった水が流れるようになった」という自然な変化の過程を表す解釈と、何らかの原因によって「水が流れることになった」という解釈があり得る。前者は、原因となるものがない表現であり、後者は「댐의 문을 열어서 daemui muneul yeoreoseo ダムの門を開けて」のような原因があつての表現となる。何らかの理由あるいは原因が与えられない限り、「게 되다 ge doeda」は二通りの解釈があり得る。また、その原因たるものは使役文に現れている動作主とは限らない。

## 2. 「되다 doeda」の辞書的意味

「되다 doeda」の辞書的意味について『우리말 큰사전』(1991)、『最新ハングル大辞典우리말큰사전』(1994)、『국어대사전』(1991)、『朝鮮語大辞典』(1986)、『연세한국어사전』(1998)、『민중한일사전』(1983)、『標準国語大辞典』(1999)を参考にまとめる。

### 2. 1 [名詞 doeda]

「doeda」の前に名詞句がくるときの意味と用例を表(5)にあげる。

#### (5) [名詞 doeda]

	用例	訳
なる、変わる	어른이 되다 Eoreuni doeda	大人になる
成る、出来る、完成する	준비가 되다 Junbiga doeda	準備が出来る
経つ、経過する	1년이 되다 Inyeoni doeda	1年になる
及ぶ、至る	합계 9가 되다 Hapgye 9ga doeda	合計9になる
当たる、関係にある	조카가 되다 Jokaga doeda	甥に当たる
ある心理的状态に置かれる	걱정이 되다 Geokjeongi doeda	心配になる
成立する、構成する	나무로 되어 있다 Namuro doeeo itda	木でできている
用を足す	약이 되다 Yagi doeda	薬になる

## 2. 2 [動詞・形容詞 doeda]

「doeda」に動詞と形容詞が先行するときの意味と用例を次の表でまとめる。

### (6) [動詞・形容詞 doeda]

	用例	訳
～くなる、～になる	빨갱게 되다 ppalgake doeda	赤くなる
～ようになる	좋아하게 되다 johahage doeda	好むようになる
～ことになる	죽이게 되다 jugige doeda	殺すことになる
～し始める	사랑하게 되다 saranghage doeda	愛するようになる

『朝鮮語大辞典』(1986)では、「ge doeda」は受身を表現するとも記す。

(例) 가게 되다 gage doeda 行くようになる→行かせられる

사랑하게 되다 saranghage doeda 愛するようになる→愛される

## 2. 3 [その他 doeda]

「うまく、よく」および否定にした場合の「doeda」の意味と用例を表でまとめる。

### (7) [その他 doeda]

	用例	訳
成長する、(うまく) 行く	잘 되다 jal doeda	うまくいく
大丈夫だ、いい	안 되다 an doeda	だめだ

## 3. 「되다 doeda」の用法

「되다 doeda」が現れる三つの構文をあげる。

A. 名詞 -이 i / 가 ga<sup>17</sup> + 되다 doeda ⇒ 3. 1 で検討する

(名詞-に+なる)

(8) 太郎가 선생님이 되었다.

Tarouga seonsaengnimi doeeotda

太郎가 先生가 なった

太郎が先生になった

<sup>17</sup> 「ガ格体言」に当たるもので、「이 i / 가 ga」(日本語の「ガ」に当たる)あるいは「은 eun / 는 neun」(日本語の「ハ」に当たる)という助詞のことである。

B. 形容詞 -게 ge + 되다 doeda ⇒ 3. 2で検討する

(イ形容詞-く+なる、ナ形容詞-に+なる)

(9) 나뭇잎이 빨갱게 되었다.

Namunnipi ppalgake doeeotda

木の葉が 赤い-ge なった

木の葉が赤くなった

C. 動詞 -게 ge + 되다 doeda ⇒ 3. 3で検討する

(動詞-に+なる)

(10) 太郎が 걷게 되었다.

Tarouga geotge doeeotda

太郎が 歩く-ge なった

太郎が歩くようになった

3. 1 名詞 -이 i/가 ga + 되다 doeda (名詞-に+なる)

「되다 doeda」は二つの名詞句をとるが<sup>18</sup>両方とも「ガ格体言」である(二つ目の名詞句は「이 i/가 ga」のみをとる)。この場合、最初にくる名詞句は主語を表すが、後ろにくる名詞句の解釈をめぐっては補語説<sup>19</sup>、副詞語説がある。まず、韓国語の「主語」について、南基心(Nam 1985)では、「主語は、体言や体言として機能することばに主格助詞<sup>20</sup>がついて成立し文頭に来るのが普通であるが、特別な効果をねらった場合は文頭の位置から離れる場合がある」と規定している。徐正洙(Seo 1996)は「主語は、中心となる体言とそれを修飾する機能を表す冠形語<sup>21</sup>で成り立つ」と定義している。次の3. 1. 1からは「되다 doeda」が二つの名詞句のうち、後ろにくる名詞句の解釈をめぐっての2つの説についてみる。

<sup>18</sup> 「되다 doeda」には、一つの名詞句をとる場合もある。ここでの「되다 doeda」は、「できる、完成する、完了する」などの意味である。

• 일이 (거의, 다) 되었다.  
Iri (geoui, da) doeeotda  
仕事(ほとんど、全部)ができた

<sup>19</sup> 補語は「なる、ではない」の前にくる場合だけを認めている。その際、体言の役割をすることばに助詞「이 i/가 ga」(日本語の「ガ」に当たる)がついてできる。

<sup>20</sup> 「主格助詞」とは、尾上(1997)の「ガ格体言」に当たるものである。

<sup>21</sup> 体言を修飾するために、その前に冠せられる語である(連体形)。



### 3. 1. 1 補語説

(1 1) a 太郎가 선생님이 되었다. (= (8))

Tarouga seonsaengnimi doeetda

太郎が 先生が なった

太郎が先生になった

B 太郎가 20 살이 되었다.

Tarouga 20sali doeetda

太郎が 20 才が なった

太郎が 20 歳になった

「太郎が」の後ろにくる名詞句である (1 1 a) の「先生が」、(1 1 b) の「20 才が」は「補語」であるという説である。徐正洙(Seo 1971)、李翊燮(1983)は、本節での対象である「主語+名詞이 i /가 ga(が)+되다 doeda」の後ろにくる名詞句は、補語であると解釈する。

### 3. 1. 2 副詞語説

一方、최현배(1978)は「되다 doeda」の二つ目の名詞句のガ格を「(으)로 (eu)ro」(日本語にすると「に、へ」に当たる)ともなることによって、補語ではなく副詞語であるとする副詞語説の立場をとり、次の例をあげている。

(1 2) 얼음이 {a 물이 /b 물로 } 되었다.

Eoreumi {a muri /b mullo} doeetda

氷が {a 水が /b 水に } なった

氷が水になった

(1 2 a) で、最初の名詞句の「얼음 (氷)」は成されることの受動者であり、二つ目の名詞句の「물이 (水が)」はその成されることの結果を表す。したがって、「물이 (水が)」は (1 2 b) の「물로 (水に)」のように、方向性副詞語として見るべきだと主張し、「되다 doeda」は副詞語を用いる動詞であるとする。一方、김동식(金 1984)は、「되다 doeda」に先行する<名詞+이 i /가 ga(が)>が<名詞+ (으)로 (eu)ro に、へ>に交替できない例をあげ副詞語説の問題点を指摘する。

(13) 그가 {a 구속이 /b\*구속으로 } 되었다.

Geuga {a gusogi /b gusogeuro} doeeotda

彼が {a 拘束が /b 拘束に } なった

彼が拘束された

(13) であげられた動作性のある名詞「拘束」は、(12) の「水」のような典型的な名詞とは異なり<名詞+ (으) 로 (eu)ro に、へ>への交替が不可能であるとする。

この動作性のある名詞について、丸田孝志・林憲燦 (1997) は、日本語の「動作性名詞漢語に+になる」の基本的用法を以下の①～⑦まであげ、韓国語との対応関係および用法について説明している。

日本語の「動作性名詞漢語に+になる」の基本的用法は、①程度・量の増減を意味する場合 (減給、増刷など)、②「いい (とても) ~になる」を意味する場合 (運動、参考など)、③ある地位・職業などを表す場合 (監督、先発など)、④条件・過程が前提となる場合 (横領、挑発など)、⑤制度的な措置・処分に関する場合 (解雇、発表など) ⑥「~がおこる/始まる/生じる」を意味する場合 (議論、心配など) ⑦否定の形で多用する場合 (説明、批判など) とまとめて、韓国語の「이 i/가 ga + 되다 doeda」のみが対応する漢語は③と④であるとしている。また、基本用法のうち、④条件・過程が前提となる場合の例である「そんなことをすると、失礼になるよ。」の「になる」は、「~した (する) ことになる」あるいは「~にあたる (該当する)」を意味し、「意図しない結果」が叙述されるとしている。これは、4. 節の内容とつながる。

### 3. 1. 3 本稿の立場

上記の「되다 doeda」の前にくる二つ目の名詞句に対しての補語説と副詞語説の問題点をあげる。まず、補語説であげている (11) の例だが、副詞語説にならって二つ目の名詞句を「(으) 로 (eu)ro に、へ」にすると、典型的な名詞であるにもかかわらず、非文となる。

(11) a' \*太郎가 선생님이로 되었다.

Tarouga seonsaengnimeuro doeeotda

太郎が 先生に なった

太郎が先生になった

b' \*太郎가 20 살로 되었다.

Tarouga 20salro doeeotda

太郎が 20 才に なった

太郎が 20 歳になった

非文になる理由は、「(으)로 (eu)ro に、へ」とすることによって現れる結果が、(12)とは違うからであると思われる。「先生」、「20才」になったのは「太郎」であるが、その「太郎」という人物が完全に他のものである「先生」、「20才」になったのではなく、その出来事が、「太郎」自体において起こったのである。つまり、「太郎」という場所において「先生になる」、「20才になる」といった<変化>が起こったと考えられる。もちろん「先生」、「20才」というのも「太郎」の変化する種類の一つではあるが、「太郎」が変化する種類はそれ以外にも無数にあり、その種類の中の一つである「先生」あるいは「20才」になるという時は、「(으)로 (eu)ro に、へ」で表現できないと思われる。

補語説では、助詞の形態が「主語」と同じであるにもかかわらず「なる、ではない」の前にくる場合のみを「補語」とすること、また、副詞語説では、「되다 doeda」がとる二つ目の名詞句が「(으)로 (eu)ro に、へ」へと置き換えることのできない場合があることが分かったところで、もう少し例をあげて本稿の立場を明らかにする。

池上(1975)によると、「<変化>というものは、その前後の<状態>を予想する。要するに、<変化>はある二つの<状態の間をつなぐ過渡的な段階>であるということもできる。また、<変化>という出来事には①<変化するもの>、②変化の<起点>および<到達点>、③<変化そのもの>の3種類の要素が関係している。この<変化>のもっとも基本的なタイプは、<具体的な運動>で三つの要素がすべて<具体的>なものの<場所における変化>を表す移動動詞(come, go)の場合である。」と記す。ここで取り上げている「N1 이/가 i/ga (N1 が) N2 이/가 i/ga (N2 が) 되다 doeda (なる)」(N1 が N2 に なる)で、「N1」は<変化するもの>、「N2」は<到達点>を表す(<起点>は表現しない)。また、<具体的な運動>ではなく、<抽象的な運動><sup>22</sup>であり、その中でも典型的な<状態における変化>に該当し、そのような状態への到達を意味すると言える。

上記の(11)と(12)は、太郎という人物における身分上および時間的な経過という変化の結果について述べていることになる。つまり、「先生に」と「20才に」というのは、

<sup>22</sup> <抽象的な運動>には、ほかに<所有権における変化>がある。

太郎の変化の＜到達点＞であり＜結果＞である。また、それぞれ「太郎が先生になった」ということは「太郎は先生だ」ということを含意し、「太郎が20才になった」とは「太郎は20才だ」ということを含意すると言える。

一方、(12)の「氷が水になった」は、「水に」という氷の＜変化＞における＜結果＞について言うことはできるが、「氷は水だ」ということを含意することはできない。

(14) 신호등이 {a 빨간색이 /b 빨간색으로} 되었다.

Sinhodeungi {a ppalgansaeki/b ppalgansaekeuro} doeeotda

信号が {a 赤色が /b 赤色に} なった

信号が赤色になった

(14)は副詞語説をとなえている최현배(1937)の主張通り、後ろの名詞句の助詞が「(으)로 (eu)ro に、へ」にも交替する例である。(14a)は、「信号(の色)」が「赤色ではない色」という変化においての＜起点(前の状態)＞から、「赤色」という＜到達点(到達点)＞になったという意味を表す。ただし、「信号は赤色だ」ということを含意しているわけではない。一方、(14b)は「信号」の色として考えられる「赤」、「黄」、「青」の中の一つである「赤色」へ変わったという、＜変化＞の意味を表している。このように(14a)と(14b)は、究極的な意味はあまり変わらないと思うかも知れないが、細部をみると、その意味することにおいて違いがあることが分かる。つまり、「信号」を中心に考えると、その出来事が、「信号」という場所に起こったことを表すか(14a)、変化の起こりうる＜種類の一つ＞になるか(14b)の違いがあると言える。次の(15)も同様の説明が可能である。

(15) 계절이 {a 여름이 /b 여름으로} 되었다.

Gyejeoli {a yeoreumi/b yeoreumeuro} doeeotda

季節が {a 夏が /b 夏に} なった

季節が夏になった

(15a)も(14a)と同じく、「季節」自体に、「夏になる」という出来事が起こったという意味があるのに対して、(15b)では「季節」がその変わることの可能な種類の一つである「夏」という＜到達点＞になったという意味となる。

これは、次のように、池上(1975)にも表れている。「成績評語としての「可」の意味はそ

れと対立する評語としてどのようなものがあるかが分からないと決めようがない。他に「秀」、「優」、「良」、「不可」があるのか、「優」、「良」、「不可」なのか、あるいは「不可」だけなのか、などによって「可」の価値は変わってくる。つまり、「可」の意味は成績評語という「場」の中に置いて初めて明確になるのである。」

(16) a 그의 사진이 매스컴에 게재되더니 유명인사가 되어 있었다.

Geuui sajini maeseukeome gejaedoedeoni yumyeonginsaga doeeo isseotda

彼の 写真が マスコミに 掲載されてから 有名人が なって いた

彼の写真がマスコミに掲載されてから有名人になっていた

B 중립을 내세운 자는 승자에게 뿐 아니라 패자에게도 적이 된다.

Jungnibeul naeseun janeun seungjaege ppun anira paejaegedo jeogi doenda

中立を 掲げた 者は 勝者に だけでなく 敗者にも 敵が なる

中立を掲げた者は勝者だけでなく敗者にも敵になる

c 봉우는 한 발자국도 내딛을 수 없는 처지가 됐다.

Bonguneun han baljagukdo naediteul su eopneun cheojiga dwaetda

ボンウは 一歩も 踏み出すことの出来ない 立場が なった

ボンウは一歩も踏み出すことの出来ない立場になった

(16a) は、「彼が有名人になった」という意味で、「彼」において「有名人になる」という事態が起きたと捉える事ができるので、二つ目の名詞句である「유명인사가 有名人が」は「유명인사로 有名人に」へと置き換えることができる。また、(16b) も「中立を掲げた者」において「敵になる」ということが起きるという意味として、「적이 敵が」は「적으로 敵に」へと「(으)로 (eu)ro」の交替が可能である。一方、(16c) は、「ボンウ」において「～立場になった」ということが起きたのではなく、ボンウ自体がそのような立場に置かれたということなので、「처지가 立場が」の「처지로 立場に」への交替は出来ない。ここで、(11) をもう一度取り上げて、名詞が先行する「되다 doeda」をまとめる。

(11) a 太郎が {a 선생님이 / b\*선생님으로} 되었다.

Tarouga {a seonsaengnimi / b\*seonsaengnimeuro} doeeotda

太郎が {a 先生が / b 先生に } なった

太郎が先生になった

(1 1 a) の場合は、「太郎」自体に「先生になる」といった出来事が起こったのであり  
 <変化>の場所である。「太郎」が変化することの可能な種類の中でその一つをあげて (1  
 1 b) のように「(으) 로 (eu)ro に、へ」で表現すると非文となる。「太郎」は別のもの  
 としての「先生」になったのではないからであると考えられる。

以上をまとめると、「되다 doeda」の前にくる二つ目の名詞は、「(으) 로 (eu)ro に、へ」  
 へ助詞の置き換えが可能なのか不可能なのかによって、主語<全体>が<あるもの>に変  
 化する全体的な変化の場合と主語の<一部>が限られた種類のなかの一つである<ほかの  
 もの>に変化する部分的な変化の場合があると考えられる。部分的な変化の場合、「되다  
 doeda」の意味は「変わる、変化する」意味へと拡張すると思われる。

### 3. 1. 4 方向性を表す「(으) 로 (eu)ro」と「へ、に」

ここでは、「(으) 로 (eu)ro」と「へ」からあげることにする。

(1 7) a 철수가 학교 {에 / 로} 간다.

Cheolsuga hakgyo {e / ro} ganda

チョルスが 学校 {に / へ} 行く

b 철수는 학교 {에 / \*로} 도착했다.

Cheolsuneun hakgyo {e / \*ro} dochakhaetda

チョルスは 学校に {に / へ} 到着した (着いた)

c 철수는 학교 {\*에 / 로} 걸었다.

Cheolsuneun hakgyo {\*e / ro} georeotda

チョルスは 学校 {に / へ} 歩いた

「에 e に」と「(으) 로 (eu)ro へ」の用法において、まず、(1 7 a) の「学校に」は、  
 「学校」という目標点を念頭においた移動で、「学校へ」は、学校の方角に向かった移動  
 ということで、日韓両語とも共通している。서정수 (1996) は、「(으) 로 (eu)ro へ」に  
 ついて、ある方向に向かう移動は到達点に至るまでは必ずしも含意しないが、「에 e に」  
 は到達することまでを含意するとしている。また、(1 7 b)、(1 7 c) は動詞の意味によっ  
 て制約がある点まで両語は共通する。一方、日本語の「に」について國廣 (1985) では、「格  
 助詞「に」は、一方向を持った動きと、その動きの結果密着する対象物あるいは目的の全  
 体を本来現わしている。」と記述している。堀川 (1988) では、この記述に基づいて、次の

例をあげている。

(18) a 太郎は的に矢を射た (方向)

b 太郎は的に矢を射たが、はずれてしまった。

c 太郎は的に矢を射た。

d 太郎は的に向かって矢を射た。

(18a) は、的に向かって矢を射ただけであって、必ずしも実際に的にあたる必要はない。つまり、「的に」は密着の対象ではなく、単に方向を示しているに過ぎない。「的に」に必ずしもあたる必要はないとして、(18b) をあげている。また、動きの方向だけが認知され、密着する対象という意味が抑圧されているものと考えられるとしている。方向性に重点がある表現であることを (18c)、(18d) の「へ」と「に向かって」のように置き換えられることであるとする。

また、寺村 (1982) は、変化の述語の補語<sup>23</sup>「～に」について、「名詞＋に」と変わらないことと副詞との境界が問題になるとして、「茶碗が二つに割れた」の場合、割れた結果「二つ (の破片)」になったという意味としては結果の状態を示す補語であると言えるが、「割れ方」を描写した副詞であるとし、結果の状態が、状態や性質を表すものであると、意味的には様態を表す副詞にいつそう近づくとしている。また、述語の動詞が、「なる、変わる、する、変える」のようなく変化>を表すタイプのものであるときは、「～に」という形の補語が必須的であり、普通は「名詞＋に」の形をとるが、「名詞的形容詞＋に」がその役をすることもあるとして次の (19) をあげている。(19) の「名詞＋に」と「名詞的形容詞＋に」の用法は異質のものではないとする。

(19) a 病気になる

b 元気になる

このように、名詞が先行する「되다 doeda」の「N2 이/가 i/ga (N2 が)」が「N2 (으) 로 (eu)ro に、へ (N2 に)」に交替し副詞にもなれるということは、次の 3. 2 で取り上げる形容詞の先行する「되다 doeda」につながるものと考えられる。

<sup>23</sup> 述語を中心として描かれる事象や心象に登場する人、物、概念などを表す。

3. 2 形容詞 -게 ge + 되다 doeda (イ形容詞-く+なる、ナ形容詞-に+なる)

「되다 doeda」の前に形容詞がくる場合は、「形容詞の語幹+게 (ge) 되다 doeda」の形をとり、形容詞による<状態変化>の意味を表し、日本語にすると、「～になる、～くなる」に当たる表現である。形容詞が先行する場合について考察するが、これは、「게 ge」副詞形に「되다 doeda」がつづく構文である。次の例は、「木の葉」が「赤くない」状態から「赤い」状態に変化したという意味を表す。

(20) 나뭇잎이 빨강게 되었다. (= (9))

Namunnipi ppalgake doeeotda

木の葉が 赤い-ge なった

木の葉が赤くなった

このように「되다 doeda」に形容詞が先行する場合は、主語の<状態変化>を表すのである。しかし、(20)は、季節が秋になっておこる自然現象として捉えられる一方、「赤色のペンキを塗って」のようなく変化>が起こるための何らかの理由があつての「木の葉」の変化を表すこともある。この場合は、「木の葉が赤く出来た」という意味を表す。次にあげる(21)は、「되다 doeda」が「なる」だけでなく、「出来る、出来上がる」の意味として捉えられる例である。

(21) a 이야기가 재미있게 되었다.

Iyagiga jaemiitge doeeotda

お話が 面白い-ge なった

お話が面白くなった/出来上がった

b 밥이 맛있게 되었다.

Babi masitge doeeotda

ご飯が おいしい-ge なった

ご飯がおいしくなった/出来た

(21)はそれぞれ「面白くなった」、「おいしくなった」という変化の意味のほかに、「面白く出来上がった」、「おいしく出来上がった」という意味を表すこともできる。(21a)では、お話が出来上がった結果(の状態)が、(21b)では、ご飯の出来上がった結果が、



「게 ge」によって表現されるのである。何かを出来上げるには、手を加えるなり、影響を与えるなりの何らかの作用が必要であり、このような作用が「出来上がるもの」への何らかの原因・理由となると言える。例えば、原因・理由となるものとして、(2 1 a) では「新しい登場人物が現れることで」、「少し話の展開を変えて」、(2 1 b) では「火加減の調節で」、「新米に変えて」などがある。

(2 2) a 교실이 조용하게 되었다.

Gyosiri joyonghage doeeotda

教室が 静かだ-ge なった

教室が静かになった

b 기분이 좋게 되었다.

Gibunijoke doeeotda

気分が よい-ge なった

気分がよくなった

(2 2 a) の例は、教室が「静かではない状態から静かな状態に」変わったという意味を表すが、この状態変化は「チャイムが鳴って」、「先生が現れて」などの理由があつての<変化>である。また、「静かになってほしい」のような願望があつた場合は、「静かにできた」という意味を表すこともできる。(2 2 b) は、気分が「よくない状態からよい状態に」変わったという意味を表し、この状態変化は「いい知らせを聞いて」、「運動をして」などをあげることができる。また、(2 2 a) 同様、「よくなってほしい」のような願望があつた場合は、「よくできた」と意味を表すのである。次の(2 3) は、自然現象のような単純な状態変化というよりも「仕事の量が増えて」、「急にお客さんがきて」などのあることが加えられ、この理由によって変化が起きるという意味を表している。

(2 3) a 일이 바쁘게 되었다.

Iri bappeuge doeeotda

仕事が 忙しい-ge なった

仕事が忙しくなった

b 太郎가 바쁘게 되었다.

Tarougayeppeuge doeeotda

太郎が 忙しい-ge なった

太郎が忙しくなった

一方、「ge」は形容詞の語幹について事柄の様相を具体化する副詞の機能をする（日本語の「～く、～に」に対応する）ことから、「忙しく」の代わりに、情態副詞のうち、時と数量に関する「ほとんど、全部、すでに」などの副詞に入れ替えた例を（24）にあげる。

（24）a 일이 {거의 /다 /벌써} 되었다.

Iri {geoui /da /beolsseo} doeeotda

仕事が{ほとんど/全部/すでに} なった

仕事が{ほとんど/全部/すでに}出来た

b\* 太郎가 {거의 /다 /벌써} 되었다.

Tarouga {geoui /da /beolsseo} doeeotda

太郎が {ほとんど/全部/すでに} なった

\* 太郎が{ほとんど/全部/すでに}出来た

無情物主語である（24a）の「되다 doeda」は「出来る、出来上がる、完成する」という意味を表し、有情物主語の（24b）は非文となる。以上を見ると、形容詞が先行する「되다 doeda」は、＜なる＞、＜変化する＞のほか、作品等の結果を含む無情物主語の場合には＜出来る＞の意味を表すことがわかる。

### 3. 3 動詞 -게 ge 되다 doeda（動詞-に+なる）

「되다 doeda」に動詞が先行する場合、「動詞+게 ge 되다 doeda」（以下、＜되다 doeda 構文＞とする）の前にくる動詞は自動詞でも他動詞でもよい。このようなく되다 doeda 構文＞は、様々な文法書および辞書などで日本語の「～ようになる、～ことになる」という意味を表すとしている。

（25）a 아기가 걸었다.

Agiga georeotda

赤ちゃんが 歩いた

赤ちゃんが歩いた

b 아기가 걷게 되었다.

Agiga geotge doeeotda

赤ちゃんが 歩く-ge なった

赤ちゃんが歩くようになった

(2 5 a) は事態(主語の行為)を淡々と述べているのに対して、(2 5 b) は同じ「걸다 geotga 歩く」を意味する動詞を<되다 doeda 構文>にすることで、「歩く」ことだけでなく歩けるまでに成長したという意味までをも含む表現となる。すなわち<되다 doeda 構文>という形式によって、「歩く」行為が行われるように至った原因あるいは理由があることが考えられるのである。また、(2 5 b) は「赤ちゃん」が生まれてすぐは「歩けなかったが、やっと歩けた」という状態変化を表すこともできる。しかし、「赤ちゃん」自身に歩こうとする気持ちがあったかどうかは曖昧である。ここで「赤ちゃん」を大人である「太郎」にしてみる。

(2 6) a 太郎가 걸었다.

Taroga georeotda

太郎が 歩いた

太郎が歩いた。

b 太郎가 걷게 되었다. (= (1 0))

Taroga geotge doeeotda

太郎が 歩く-ge なった

太郎が歩くようになった/歩くことになった/歩いた

(2 6 b) で、「歩くようになった」の場合は、何らかの理由で「歩けなかったが、歩けるようになった」という意味を表していて不可能であったことが可能になったという意味を含んでいる。また、この解釈だけでなく、「歩くことになった」の場合は、太郎は歩こうとしなかったが、何らかの事情によって歩いたという意味としても捉えることができる。森田・松木(1989)によると、「ようになる」は、次第に事態が変化しながら何らかの状態・帰結に達する、その過程そのものに重点が置かれ、「ことになる」は、何らかの決定や事態の変化といった帰結に重点があるとしている。(2 6 b) の「게 되다 ge doeda」は、「ようになる」と「ことになる」の両方の意味を表すと思われる。次は、「太郎が歩く」という行為を引き起こす何らかの事情を具体的に表す内容を入れた例をあげる。

(2 7) a 太郎는 차가 없어서 걷게 되었다.

Taroneun chaga eobeoseo geotge doeeotda

太郎は 車が ないので 歩く-ge なった

太郎は車がないので歩いた/歩くしかなかった

b 太郎는 경치가 좋아서 해변을 걷게 되었다.  
 Taroneun gyeongchiga johaseo haebyeoneul geotge doeeotda  
 太郎は 景色 いいので 海沿いを 歩く-ge なった  
 太郎は景色のいい海沿いを歩いた

(27a) の日本語の訳文の「太郎は車がないので歩いた」は、太郎が自分の意図で行為を行うという意味であるのに対して、韓国語の文では、太郎自身の心からわいてきた気持ちではなく、「차가 없다 chaga eopda 車がない」という理由によって「걷다 geotga 歩く」行為の意図が生じ、その結果「歩く」行為が行われるのである。(27a) を <되다 doeda なし構文>にしても<仕方なく、やむを得ず>という意味になる場合はあるが、<되다 doeda 構文>にすることで行為者<sup>24</sup>である「太郎」は、「車がない」という事情によって「歩く」意図が生じると考えられる。

<典型的な動作主>の場合は、自発的に生じた意図にしたがって行為が行われるのに対して、<되다 doeda 構文>の場合は、行為者自身のそれを問わないことから意志的な動作の主体である<典型的な動作主>ではないと言える。このように(27a)では、<仕方なく、やむを得ず>という表現が文の中になくても、その意味が現れる。また(27b)も<되다 doeda なし構文>にした場合は、積極的に「歩く」行為が行われる意味を表すのが普通であるのに対して、<되다 doeda 構文>は「景色がいい」という外的な事情によって「歩いた」ことを表す。結果的には「歩いた」が、「景色がいい」ということによって始めて「歩く」という意図が生じ、その結果行為が実現することを表している。このように<되다 doeda 構文>にすると、行為者の行為は「車がない」、「景色がいい」などという何らかの事情によって生じた意図によるものである。一方、<되다 doeda なし構文>の場合は、自発的に生じた意図によって行為が実現されるという解釈と、外的な事情によって生じた原因によって意図が生じ、その結果行為が実現するという解釈に関して、中立的である。(27b)は、(27a)のようなく仕方なく、やむを得ず>の意味ではなく、日本語の場合と同じく「景色がいい」ことによって「歩く気が起こった」という意図がもたらされるのである。(27b)の<되다 doeda 構文>での行為は、「景色がいい」という原因によって行為が引き起こされると考えられる。

行為動詞の<되다 doeda なし構文>は、意図がどうやって生じたかということを問わな

<sup>24</sup> ここでは、ただ単に行為を行う者という意味で用いることにする。

い（自発的に生じる場合もある）行為を表すのに対して、行為動詞を<되다 doeda 構文>で用いると、外的な出来事が原因となって意図が生じ、特別な事情がなければ、その結果行為が実現する意味を表す。

行為動詞が<되다 doeda 構文>に現れた場合、普通は行為の実現までを含意するが、特別な事情がある場合は、行為が実現しないこともあり得るのである。行為の実現を含まない例として、次の(28)をあげる。(28)は、第1章の先行研究であげた우인혜 (Woo 1997)の例で、「게 되다 ge doeda」は「未来の決定事項」を表すとしている。(第1章の(19c))

(28) 이번 결혼식은 성대히 거행하게 됐다. 그러나 성대히  
Ibeon gyeolhonsigeun seongdaehi geohaenghage dwaetda. geureona seongdaehi  
今回の 結婚式は 盛大に 行う-ge なった しかし 盛大に  
거행되지 않았다.  
geohaengdoeji anatda  
行われなかった  
今回の結婚式は盛大に行うことになった。しかし、盛大に行われなかった

(28)は、日本語の訳文も適格な文である。「ことになる」は、外的な事情、例えば話し合いや命令などの結果、行為を行うという方針が決まったことを表し、「ことになる」につづく打ち消しから、実際には行われていないことを表すこともある(小谷 1997)。次の4.節では、行為を引き起こす力である<外的事情>と関連して<되다 doeda 構文>について考察する。

#### 4. <되다 doeda 構文>

次は、村上春樹の『海辺のカフカ(上)』(pp.8-9)と韓国語の翻訳本である。見ての通り、翻訳では「게 되다 ge doeda」の表現にしているところが多い。

そしてもちろん、君はじっさいにそいつを a くぐり抜けることになる。そのはげしい砂嵐を。形而上的で象徴的な砂嵐を。でも形而上的であり象徴的でありながら、同時にそいつは千の剃刀のようにするどく生身を b 切り裂くんだ。何人もの人たちがそこで血を流し、君自身もまた血を c 流すだろう。温かくて赤い血だ。君は両手にその血を d 受

けるだろう。それは君の血であり、ほかの人たちの血でもある。そしてその砂嵐が終わったとき、どうやって自分がそいつをくぐり抜けて生きのびることができたのか、君にはよく e 理解できないはずだ。いやほんとうにそいつが去ってしまったのかどうかも f たしかじゃないはずだ。

그리고 물론 너는 실제로 그놈으로부터 a 빠져나가게 될 거야. 그 맹렬한 모래

くぐり抜ける-ge

폭풍으로부터, 형이상학적이고 상징적인 모래 폭풍을 뚫고 나가야 하는 거다. 그렇지만 동시에 그놈은 천 개의 면도날처럼 날카롭게 네 생살을 b 찢게 될 거야.

切り裂く-ge

몇몇 사람들이 그래서 피를 흘리고, 너 자신도 별수 없이 피를 c 흘리게 될 거야.

流す-ge

뜨겁고 새빨간 피를 너는 두 손으로 d 받게 될 거야. 그것은 네 피이고 다른

受ける-ge

사람들의 피이기도 하지. 그리고 그 모래 폭풍이 그쳤을 때, 어떻게 자기가 무사히 빠져나와 살아남을 수 있었는지, 너는 잘 e 이해할 수 없게 되어 있어. 아니,

理解できない-ge

정말로 모래 폭풍이 사라져버렸는지 아닌지도 f 확실하지 않게 되어 있어.

確かじゃない-ge

以下では、＜되다 doeda 構文＞を動詞の種類によって考察する。その際、青木（1997）であげている「コントロール概念」を取り入れることにする。青木（1997）では、自動詞における＜可能＞の表現形式をコントロールの概念と主体の意志性の観点に注目し、Comrie（1981）を以下のようにまとめて説明する。「私が倒れた（I fell）」という文では、「私」のコントロールの度合いは示されていないのに対して、「故意に倒れた」という文では動作の結果までを、また「不注意で倒れた」では主体の意志はあるとしても潜在的なものであり、最後の「押し倒された」では主体のコントロールは関与しない。要するに、Comrie（1981）では、主体の意図・意志性と行為の行使において、コントロールの概念が用いられている。

1. Full Control : We deliberately fell down.

2. Potential Control not Exercised : We fell owing to our carelessness.
3. No Control : We inadvertently succumbed to a hostile universe or were pushed.

#### 4. 1 行為動詞

<되다 doeda 構文>が成立するためには、行為動詞の意図を生じさせる外的事情が表現されたほうがよい。外的事情が文中に表現されないと、非文とまでは言えないとしても、意味的に不十分な感じがすることがある。行為の意図が如何にして生じたかという原因を問わない（自発的な行為）こともあり得るが、何らかの事情に当たる表現がないと、話者の伝えたい意味がはっきりと伝えられないことが多い。つまり、<되다 doeda 構文>においての何らかの事情は、文として落ち着いた表現とするために必須であるといえる。行為動詞が<되다 doeda なし構文>で用いられた場合には、自発的な行為を表すことがあるが、<되다 doeda 構文>で行為動詞が用いられた場合は、行為の意図が外的事情によって生じたことが意味に含まれる。

<되다 doeda なし構文>の行為： 意図 → 行為

<되다 doeda 構文>の行為： 原因 → 意図 → 行為

ここからは<되다 doeda 構文>における意図がどのように生じたかを表す<外的事情>を、<仕方なく>、<目的>、<外的理由>、<あやまって>の4つに分けて詳しく検討する。これら4つの用法に共通しているのは、<外的事情>が原因となって行為の意図が生じるという意味をもつ表現である。それぞれの例を挙げながら、<되다 doeda 構文>の本来的に持つ意味・性質を探る。

##### 4. 1. 1 <仕方なく、やむを得ず>

この用法は、行為者がもともとはその行為をしたくなかった（元来は行為の意図が存在しなかった）ことを表す。<되다 doeda 構文>は、文中に「할 수 없이 hal su eopsi 仕方なく」という表現がなくても、<되다 doeda 構文>にするだけで「仕方なく」の意味が表れる場合がある。

(29) a 太郎은 내일이 시험이라서 책을 폈다.

Taroneun naeiri siheomiraseo chaegeul pyeotda

太郎は 明日が 試験なので 本を 開いた

太郎は明日が試験なので本を開いた

b 太郎는 내일이 시험이라서 책을 펴게 되었다.  
 Taroneun naeiri siheomiraseo chaegeul pyeoge doeotda  
 太郎は 明日が 試験なので 本を 開く-ge なった  
 太郎は(勉強したくなかったが)明日が試験なので(仕方なく)本を開いた

(29a) は<되다 doeda なし構文>で、自発的が行為の意味を表す場合と「明日の試験」という<外的事情>によって生じた意図によって「本を開く」行為が行われる意味を表す場合がある。なお、<되다 doeda なし構文>の行為は、必ず実現される。一方、(29b) の<되다 doeda 構文>は、「明日の試験」という外的事情が原因となって「本を開く」意図が生じ、その結果、特別な事情がなければ、「本を開く」行為が行われることを表す。

次の(30)は、(29b)に否定文がつづく例で、特別な事情によって<되다 doeda 構文>の行為が実現しない例である。

(30) a 太郎는 내일이 시험이라서 책을 펴게 되었다. 그러나 펴지 않았다.

Taroneun naeiri siheomiraseo chaegeul pyeoge doeotda. Geureona pyeoji anatda  
 太郎は 明日が 試験なので 本を 開く-ge なった しかし 開かなかった  
 太郎は明日が試験なので本を開く気になった。しかし、開かなかった

b 왜 책을 펴게 됐어요?

Wae chaegeul pyeoge dwaesseoyo?  
 どうして 本を 開く-ge になりましたか  
 どうして本を開く気になりましたか

(30a) は、「내일이 시험이라서 naeiri siheomiraseo 明日が試験なので」という外的な出来事が原因となって意図が生じ「책을 펴다 chaegeul pyeoda 本を開く」という行為が行われるはずだったのだが、「試験日の変更によって」、「急に目が痛くなって」などの特別な事情があつて、「結局本を開かなかった」という意味で、否定文がつづくことで行為が実現しないことを表す。なお、(29a) の<되다 doeda なし構文>には否定文がつづくことができない。(30b) は、普段は本を読まない人が本棚から本を取り出しているのを見て、何故「책을 펴다 chaegeul pyeoda 本を開く」意図が生じたのかについて聞く<되다 doeda 構文>の疑問文である。



(31) a 太郎는 자리가 없어서 싫어하는 학생 옆에 앉게 되었다.

Taroneun jariga eobeoseo sireohaneun haksang yeope ange doeetda

太郎は 席が なくて きらいな 学生 隣に 座る-ge なった

太郎は(空いている)席がないので(仕方なく)きらいな学生の隣に座った

b 太郎는 학교에 갈 시간이 돼서 텔레비전을 끄게 되었다.

Taroneun hakgyoe gal sigani dwaeseo tellebijeoneul kkeuge doeetda

太郎は 学校に 行く 時間が なって テレビを 消す-ge なった

太郎は学校に行く時間になったので(仕方なく)テレビを消した

c 선생님은 학생들이 떠들어서 한 대씩 때리게 되었다.

Seonsaengnimeun haksangdeuri tteodeureoseo han daessik ttaerige doeetda

先生は 学生たちが 騒いだので 一 回ずつ 叩く-ge なった

先生は学生達があまりにも勉強しないので(仕方なく)一回ずつ叩いた

(31)の日本語訳では、文の中に「仕方なく」という表現がなければ、行為者の自発的な行為の意味を表すことも可能であるのに対して、韓国語の文では「仕方なく」に当たる「할 수 없이 hal su eopsi」という表現がなくても、<되다 doeda 構文>にするだけで何らかの事情によって意図がもたらされ、その結果、行為が実現するという意味になる。(31a)では「空いている席がない」、(31b)では「学校に行く時間になる」、(31c)では「学生達が騒ぐ」という<外的事情>によって行為者の行為が引き起こされている。一方、(31)も<되다 doeda なし構文>にした場合は、日本語と同じく「仕方なく」などの表現がないと自発的な行為を意味するのが普通である。

#### 4. 1. 2 目的

目的と理由・原因とは意味の上で似ているところがある。日本語の「ため」は、目的および理由・原因を表していることから分かるだろう。奥津(1986)では、目的の副詞を含む文を「目的構文」とし、次のような四つの制限をあげている。

- 1) 補文の主語と主文の主語とは同一でなければならない。
- 2) 補文・主文いずれの主語も有生(+animate)のものでなければならない。
- 3) 補文および主文の動詞は、有生の主語による意志的動作を表すもの(+volitional)という素性を持つものでなければならない。

4) 補文のテンスは未完了形でなければならない。

ここで、「目的」と分類した<되다 doeda 構文>は、上記の条件を全部満たしている。それを満たしているのは、あくまでも動詞の意味までであり、<되다 doeda 構文>を使って表現することによって行為者が行う動作自体は行為者自身の内発的な意図ではなく外的要因によって生じることを表しているのである。ここでも「仕方なく、やむを得ず」という意味と重なる場合もあるが、<外的事情>として取り上げている「目的」によって、行為者の意図が生じることを表す。また「目的」とは言っても、<되다 doeda 構文>を用いることによって行為者の行為は、行為者自身の意図によって行われるというよりは、「目的」が原因となって行われるということを表現する。

(3 2) a 太郎는 건강을 위해서 운동장을 달리게 되었다.

Taroneun geongangeul wihaeseo undongjangeul dallige doeeotda

太郎は 健康を ために 運動場を 走る-ge なった

太郎は健康のために運動場を走った

b 太郎는 건강을 위해서 운동장을 달렸다.

Taroneun geongangeul wihaeseo undongjangeul dallyeotda

太郎は 健康を ために 運動場を 走った

太郎は健康のために運動場を走った

c 太郎는 건강을 위해서 운동장을 달리게 되었다.

Taroneun geongangeul wihaeseo undongjangeul dallige doeeotda

太郎は 健康を ために 運動場を 走る-ge なった

그러나 달리지 않았다.

Geureona dalliji anatda

しかし 走らなかった

\* 太郎は健康のために運動場を走った。しかし、走らなかった

(3 2 a) は、太郎による行為ではあるが、<外的事情>によって走ったという<非能動>を表し、「健康のために」という目的が、動作を引き起こす力となって「走る」行為を行うことを表す<되다 doeda 構文>で、(3 2 b) は<되다 doeda なし構文>である。日本語の場合は両方とも「走った」と動作主の意図を含む表現となる。また、(3 2 c) は、(3 2 a) の<되다 doeda 構文>に否定文がつづく例で、「健康のために走ることを決めたけど、

今日は走らなかった」のように、適格な文となる。(3 2 b) の<되다 doeda なし構文>には否定文がつづくことはできない。次にあげる (3 3) も、「～のために」という目的によって生じた意図で行われる行為を表す<되다 doeda 構文>の例である。

(3 3) a 太郎는 학교에 가기 위해서 버스를 타게 되었다.

Taroneun hakgyoe gaji wihaeseo beoseureul tage doeeotda

太郎は 学校に 行く ために バスを 乗る-ge なった

太郎は学校に行くためにバスに乗った

b 太郎는 마음을 안정시키기 위해서 음악을 듣게 되었다.

Taroneun maeumeul anjeongsikigi wihaeseo eumageul deutde doeeotda

太郎は 心を 安定させる ために 音楽を 聞く-ge なった

太郎は心を安定させるために音楽を聴いた

c 太郎는 커피를 마시기 위해서 물을 끓이게 되었다.

Taroneun keopireul masigi wihaeseo mureul kkeurige doeeotda

太郎は コーヒーを 飲む ために 水を 沸かす-ge なった

太郎はコーヒーを飲むためにお湯を沸かした

(3 3 a) は、「버스를 타다 beoseureul tada バスに乗る」行為の意図が「학교에 가기 위해서 hakgyoe gaji wihaeseo 学校に行くために」という目的が原因となって生じることを表す。行為を引き起こした力は太郎自身ではなく、「학교에 가다 hakgyoe gada 学校に行く」という目的である。(3 3 b) は「心を安定させる」目的が「音楽を聴く」行為を、(3 3 c) では「コーヒーを飲む」という目的が「お湯を沸かす」行為を引き起こしている。日本語訳では、その「目的」のために行う行為になるので能動的な意味を表すのに対して、韓国語の場合は、内発的な意図によるものではなく<外的事情>に生じた意図によって行為が行われることを表す。なお、(3 3) の<되다 doeda 構文>も、(3 2 c) の場合と同じく否定文がつづくことが可能であるということで、<되다 doeda なし構文>との違いをみせる。

#### 4. 1. 3 外的理由

ここであげる「外的理由」とは、行為者のコントロールできない理由を指す。例えば、(3 4 a) の「배가 고프다 baega gopeuda おなかが空く」、(3 4 b) の「재미있다 jaemiitda 面

白い」のようなことは、行為者である「太郎」が感じることはあるが、太郎自分ではコントロールできないことである。(3 4 a) は、「먹다 meokda 食べる」行為の意図が「배가 고프다 baega gopeuda おなかがすく」という「外的理由」が原因となって生じ、その結果行為が実現することを表す。

(3 4) a 太郎는 배가 고파서 밥을 먹게 되었다.

Taroneun baega gopaseo babeul meokge doeeotda

太郎は おなかが すいて ご飯を 食べる-ge なった

太郎はおなかが空いたのでご飯を食べた

b 太郎는 책이 너무 재미있어서 밤새도록 읽게 되었다.

Taroneun chaegi neomu jaemiisseoseo bamsaedorok ikge doeeotda

太郎は 本が とても 面白くて 一晩中 読む-ge なった

太郎は本があまりにも面白くて一晩中読んだ

c 太郎는 백화점이 세일을 해서 옷을 마음껏 고르게 되었다.

Taroneun baekhwajeomi seireul haeseo oseul maeumkkeot goreuge doeeotda

太郎は デパートが セールを して 服を 思い切り 選ぶ-ge なった

太郎はデパートがセールをして服を思い切り選んだ

d 太郎는 정전이었다가 불이 들어와서 촛불을 끄게 되었다.

Taroneun jeongjeonieotdaga buri deureowaseo chotbureul kkeuge doeeotda

太郎は 停電だったのが 電気が 入ってきて ろうそくを 消す-ge なった

太郎は停電だったが電気がきたのでろうそくを消した

e 太郎는 비가 와서 우산을 펴게 되었다.

Taroneun biga waseo usaneul pyeoge doeeotda

太郎は 雨が きて 傘を 開く-ge なった

太郎は雨が降ったので傘をさした

行為者自身の力でコントロールができない (3 4 c) の「デパートのセール」、(3 4 d) の「電気がきたので」、(3 4 e) の「雨が降ったので」という「外的理由」によって意図が生じ、その結果行為が実現されるのである。次の (3 5 a) は、(3 4 a) の<되다 doeda 構文>に否定文がつづく例であり、(3 5 b) は<되다 doeda なし構文>の場合は否定文がつづくとは非文となる例である。

(35) a 太郎は 배가 고파서 밥을 먹게 되었다. 그러나 먹지 않았다.

Taroneun baega gopaseo babeul meokge doeeotda Geureona meokji anatda

太郎は おなかが すいて ご飯を 食べる-ge なった しかし 食べなかった

\*太郎はおなかが空いたのでご飯を食べた。しかし、食べなかった

b\* 太郎は 배가 고파서 밥을 먹었다. 그러나 먹지 않았다.

Taroneun baega gopaseo babeul meogeotda Geureona meokji anatda

太郎は おなかが すいて ご飯を 食べた しかし 食べなかった

\*太郎はおなかが空いたのでご飯を食べた。しかし、食べなかった

#### 4. 1. 4 <あやまって、不注意で>

この用法は、「あやまって、不注意で」という表現が文の中になくても、意図していなかった行為が実現することを表す。

(36) a 太郎는 컴퓨터를 사용하고 있었는데 자료를 지우게 되었다.

Taroneun Keompyuteoreul sayonghago isseotneunde jaryoreul jiuge doeeotda

太郎は パソコンを 使って いたが 資料を 消す-ge なった

太郎はパソコンを使っていたが(あやまって)すべての資料を消した

b 太郎는 고기를 썰다가 손가락을 베게 되었다.

Taroneun gogireul sseoldaga songarageul bege doeeotda

太郎は 肉を 切っていたが 指を 切る-ge なった

太郎は肉を切っていたが(あやまって)指を切った

c 太郎는 샌드백을 치고 있다가 옆 사람을 때리게 되었다.

Taroneun saendeubaegaul chigo itdaga yeop saramaul ttaerige doeeotda

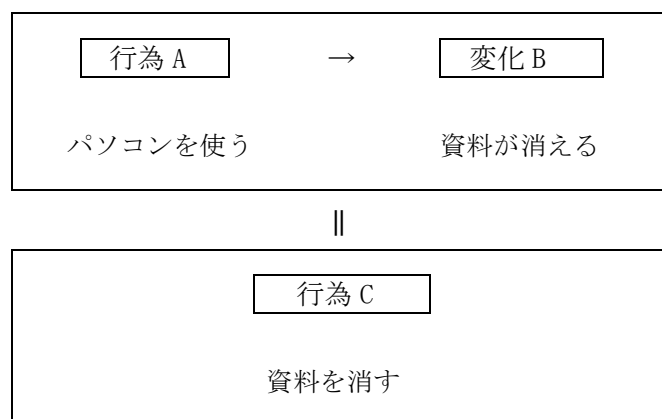
太郎は サンドバックを 叩いて いたが 隣の 人を 殴る-ge なった

太郎はサンドバックを叩いていたが(あやまって)隣の人に当たった

行為動詞の表す行為は、典型的には意図的に行われるが、(36 a) の「자료를 지우다 jaryoreul jiuda 資料を消す」行為は意図的に行われたことではない。意図的に行われた「컴퓨터를 사용하다 keompyuteoreul sayonghada パソコンを使う」という行為によって、意図しなかった「자료가 지워지다 jaryoga jiwojida 資料が消える」という変化が生じるのである。ここでも、4. 1. 1 の「仕方なく」と同じく、「あやまって」という表現がな

くても、＜되다 doeda 構文＞を用いることで、行為者の「資料を消す」という意図性は解除される。(36b) は、「고기를 썰다 gogireul sseolda 肉を切る」行為を行った結果、「손가락이 베이다 songaragi beida 指が切れる」という変化が生じたことを、(36c) は、「샌드백을 치다 saendeubaegul chida サンドバックを叩く」行為から「옆 사람이 맞다 yeop sarami matda 隣の人が殴られる」という変化が生じたことを表す。要するに、意図的に行われた[行為 A] (例えば、35a の「パソコンを使う」) によって、意図していなかった[変化 B] (例えば、35a の「資料が消える」) が生じ、[行為 A] と [変化 B] をあわせて [行為 C] (例えば、35a の「資料を消す」) が起きてしまうということを表すために、＜되다 doeda 構文＞を用いるのである。この＜되다 doeda 構文＞を図式化すると、次の (37) である。

(37) 4. 1. 4 の＜되다 doeda 構文＞



行為動詞の＜되다 doeda なし構文＞の場合、[行為 A] および [変化 B] が意図に含まれるのが普通であるのに対して、＜되다 doeda 構文＞を用いると、[変化 B] は意図に含まれないことを表す。その際、「あやまって、不注意で」という表現がなくても、意図的ではないことを意味することができる。次にあげる (38) は、否定文がつづく例である。

(38) \* 太郎은 컴퓨터를 사용하고 있었는데 자료를 지우게

Taroneun Keompyuteoreul sayonghago isseotneunde jaryoreul jiuge

太郎は パソコンを 使って いたが 資料を 消す-ge

되었다. 그러나 지우지 않았다.

doeeotda. Geureona jiuji anatda

なった しかし 消さなかった

\* 太郎はパソコンを使っていたが (あやまって) 資料を消した。しかし、消さなかった

[行為 A]を行った時点で、すでに[行為 B]は起こっているので、4. 1. 1～4. 1. 3 までの〈外的事情〉の場合とは違って、否定文がつづくとは非文となる。また、(3 6 c) の「殴る」という行為は自分から意図しようとしなくても自然に起こることではないが、少なくとも「隣の人を殴る」という意図はなかったのにもかかわらず、その行為をしてしまうという意味で自分の意図に反していると言える。

このように、〈되다 doeda 構文〉にすると「あやまって」の意味が生じる表現は、日本語の「～てしまう」に似ている。鈴木(1972)は、感情・評価的意味としての「～てしまう」について「好ましくない結果になって残念だ」、「思いがけない結果になって照れくさい」などのように述べている。「好ましくない結果」、「思いがけない結果」ということから、話し手の意図とは関係なくいつの間にか出来事が起こったということを表す表現となる。また、(3 6 c) であげた「때리다 ttaerida 殴る」という同じ動詞であっても、行為の意図を生じさせる原因・理由が何によるのかによって異なり得るとして、(3 9) をあげる。(3 9 b) は、すでにあげた (3 1 c) に否定文がつづく例である。

(3 9) a\* 太郎은 샌드백을 치고 있다가 옆 사람을 때리게 되었다.

Taroneun saendeubaeggeul chigo itdaga yeop saram-eul ttaerige doeetda

太郎は サンドバックを 叩いて いたが 隣の 人を 殴る-ge なった

그러나 때리지 않았다.

Geureona ttaeriji anatda

しかし 殴らなかった

\* 太郎はサンドバックを叩いていたが(あやまって) 隣の人に当たった。しかし、  
当たらなかった

b 선생님은 학생들이 떠들어서 한 대씩 때리게

Seonsaengnimeun haksagdeuri tteodeureoseo han daessik ttaerige

先生は 学生たちが 騒いだので 一 回ずつ 殴る-ge

되었다. 그러나 때리지 않았다.

doeetda Geureona ttaeriji anatda

なった しかし 殴らなかった

\* 先生は学生達が騒いだので一回ずつ叩いた。しかし、叩かなかった

(39)は、「때리다 殴る、叩く」という動詞による<되다 doeda 構文>であるが、(39b)の場合は否定文がつづいても適格な文となるのに対して、(39a)は否定文がつづく  
と非文になる。なお、いずれも日本語訳は非文である。(39a)は「サンドバックを叩く」  
という行為を行ったことによって「隣の人を殴る」ことが起こってしまったことを表し、(39b)は「学生たちが騒ぐ」ことが原因となって「叩く」意図が生じることを表す<되다 doeda 構文>である。次の4.2では、思考動詞および知覚動詞の<되다 doeda 構文>について  
考察する。

#### 4.2 思考動詞および知覚動詞

ここでは、「생각하다 saenggakhada 思う・考える、알다 alda 分かる、느끼다 neukkida  
感じる」などの思考動詞と知覚動詞に現れる<되다 doeda 構文>についてみる。

(40) a 지는 해를 보며 점점 삶과 죽음을 생각하게 되었다.

Jineun haereul bomyeo jeomjeom sangwa jugeumeul saenggakhage doeetda

沈む 太陽を 見て だんだん 生と 死を 考える-ge なった

沈みかけている太陽を見てだんだん生と死を考えるようになった。

b 그가 처제를 달리 생각하게 된 것은 그 이야기를 들은 다음이었다.

Geuga cheojereul dalli saenggakhage doen geoseun geu iyagireul deureun daeumieotda

彼が 義理の妹を 異なって 考える-ge なった のは その 話を 聞いた 次だった

彼が義理の妹に対する考え方が変わったのは、その話を聞いてからだった

c 넌 질투라는 것이 어떤 건지, 이제 이해하게 될 거야.

Neon jilturaneun geosi eotteon geonji, ije ihaehage doel geoya

君は 嫉妬という のが どういう ものなのか そのうち 理解する-ge なるだろう

君は嫉妬というのがどういうものなのか、そのうち理解することになるだろう

d 나중에야 그것이 기미가 아니라 명자국이라는 것을 알게 되었다.

Najungeya geugeosi gimiga anira meongjagugiraneun geoseul alge doeetda

あとになって それが シミではなく アザだという ことを 分かる-ge なった

あとになって、それがシミではなくアザだということが分かった

e 나이가 들수록 점점 말하는 것의 어려움을 느끼게 된다.

Naiga deulsurok jeomjeom malhaneun geosui eoryeoumeul neukkige doenda

年をとるにつれ だんだん 話す ことの 難しさを 感じる-ge なる

年をとるにつれだんだん話すことの難しさを感じるようになる



思考および知覚動詞の場合も行為動詞同様、＜되다 doeda 構文＞にすると、ある原因・理由等の＜外的事情＞によって「考える、分かる」ことが成り立つと思われる。(40a)の「だんだん」、(40b)の「その話を聞いてから」、(40c)の「そのうち」、(40d)の「あとになって」、(40e)の「年をとるにつれ」に表れているように、「時間的経過」を含む＜外的事情＞と共起する。これは、최현배 (Choe 1937) の「게 ge は、常に将来どのようなのかという様子を表す」という「게 ge」と関係があると思われる。また、行為動詞の4. 1. 4同様、＜되다 doeda 構文＞のあとに否定文がつづくことができない。(40)の例はすべて＜되다 doeda なし構文＞への置き換えも可能であり、その意味の差はあまりでない。しかし、次の(41－43)の例は、＜되다 doeda なし構文＞を＜되다 doeda 構文＞に置き換えると、自然ではない文となる。

(41) a 太郎는 번호를 잘못 썼다고 생각했다.

Taroneun beonhoreul jalmot sseotdago saenggakhaetda

太郎は 番号を 間違って 書いたと 思った

太郎は番号を書き間違えたと思った

b? 太郎는 번호를 잘못 썼다고 생각하게 됐다.

Taroneun beonhoreul jalmot sseotdago saenggakhage dwaetda

太郎は 番号を 間違って 書いたと 思う-ge なった

太郎は番号を書き間違えたと思うようになった

(42) a 부조리한 현실을 고발하는 것이 문학의 역할이라고 생각한다.

Bujorihan hyeonsireul gobalhaneun geosi munhagui yeokharirago saenggakhanda

不条理な 現実を 告発する ことが 文学の 役目だと 思う

不条理な現実を告発することが文学の役目だと思う

b? 부조리한 현실을 고발하는 것이 문학의 역할이라고 생각하게 된다.

Bujorihan hyeonsireul gobalhaneun geosi munhagui yeokharirago saenggakhage doenda

不条理な 現実を 告発する ことが 文学の 役目だと 思う-ge なる

不条理な現実を告発することが文学の役目だと思うようになった

(43) a 太郎는 그것이 혼인신고라는 것을 알았다.

Taroneun geugeosi honinsingoraneun geoseul aratda

太郎は それが 婚姻届だという ことを 分かった

太郎はそれが婚姻届であるということが分かった

b? 太郎는 그것이 혼인신고라는 것을 알게 되었다.

Taroneun geugeosi honinsingoraneun geoseur alge doeeotda

太郎はそれが婚姻届だということを分かる-ge なった

太郎はそれが婚姻届であるということが分かるようになった

上記の(4 1 b) – (4 3 b) が自然な表現になるためには、すでにあげた(4 0) の例のように「時間的経過」を表す副詞句が必要である。その際、(4 1 b) では「시험을 보고 siheomeul bogo 試験を受けてから」、(4 2 b) では「문학의 역할이란 무엇인가라는 연구를 하며 munhagui yeokhariran mueosingaraneun yeongureul hamyeo 文学の役目とは何かという研究をして」、(4 3 b) では「구청에 가서 gucheonge gaseo 区役所に行って」などの状況変化の伴う「時間的経過」をも含まれる。

## 5. 第2章のまとめ

韓国語の「되다 doeda」は、おおまかにまとめると、日本語の「される、なる」に対応する。また、「되다 doeda」の用法は次の三通りがある。

1. [名詞 -이 i/가 ga + 되다 doeda(名詞-に+なる)]
2. [形容詞 -게 ge + 되다 doeda (イ形容詞-く+なる、ナ形容詞-に+なる)]
3. [動詞 -게 ge + 되다 doeda (動詞-に+なる)]

本章は、1. ～3. の「되다 doeda」の用法について、とりわけ、形容詞と動詞が先行する「게 ge + 되다 doeda」の用法を<되다 doeda 構文>として考察した。

形容詞の<되다 doeda 構文>の場合、自然現象のような状態変化の意味を表すだけでなく、何らかの理由があって起こる変化の意味をも表すとまとめ、動詞の<되다 doeda 構文>については、先行する動詞を「行為動詞」と「思考動詞・知覚動詞」にわけ、<되다 doeda なし構文>との相違点をあげる一方、<되다 doeda 構文>独自の意味について述べている。行為動詞の<되다 doeda 構文>については、行為を引き起こす<外的事情>によって意図が生じ、その結果、行為が行われるという意味を表すこと(4. 1. 1～4. 1. 3)、また、意図的な[行為 A]をすることで意図しなかった[変化 B]が生じる(4. 1. 4)表現としてまとめる。行為の意図の原因となる<外的事情>を、<仕方なく>、<目的>、<外的理由>の3つに分けて考察した。また、これらは、否定文のつづくことが可能で、<되다 doeda 構文>を用いることで、元来行為動詞の表す行為の表現が必ずしも含意されないこと

がわかった。一方、4. 1. 4の<あやまって>で扱った用法では、意図的に行われた[行為 A]が、意図していなかった[変化 B]を生じさせてしまう意味を表すことがわかった。これら行為動詞の<되다 doeda 構文>に共通しているのは、意図のあり方が、典型的な行為動詞の意図とは違う点であると言える。

最後の4. 2は、行為動詞の<되다 doeda 構文>のうち、4. 1. 4の場合同様、否定文がつづくことかできない思考動詞および知覚動詞の<되다 doeda 構文>で、「時間的経過」を表す副詞句を伴うという特徴がある。

### 第3章 「지다 jida」と<지다 jida 構文>

#### 1.はじめに

第1章であげた次の(1a)は、形容詞に付いて「木の葉が赤くなった」という状態変化の意味を表す「지다 jida」で、(1b)と(1c)は動詞「만들다 mandeulda 作る」と「지다 jida」が結合して、それぞれ受動と可能の意味を表す例である。ここで用いられる「지다 jida」は、形容詞・動詞の語幹に「아 a / 어 eo」という連用形(日本語の「て」)が付く(以下、<지다 jida 構文>とする)。

#### (1) a 나뭇잎이 빨개졌다. (= 1b)

Namusipi ppalgaejyeotda

木の葉が 赤く jida-過去

木の葉が赤くなった

#### b 전문가들의 연구에 의해 우리나라에 해저통로가 만들어졌다. (= 2b)

Jeonmungadeurui yeongue uihae urinarae haejeotongnoga mandeureojyeotda

専門家たちの 研究に よって 我が国に 海底通路が 作る-a jida-過去

専門家たちの研究によって我が国に海底通路が作られた

#### c 크리스마스 트리가 정말 잘 만들어졌다. (= 2c)

Keuriseumaseu teuriga jeongmal jal mandeureojyeotda

クリスマス ツリーが 本当に うまく 作る-a jida-過去

クリスマスツリーが本当にうまく作れた

「지다 jida」を受動と捉えない先行研究としては、起動相および起動化(우인혜 Woo 1997)、自動詞化という文法的機能を持ち、その本質的な意味は状態の変化とする(송창선 Song 2005)、変化を「지다 jida」の基本意味とする(손세모들 Son 1996)などについてすでにあげた。これらの先行研究は、「지다 jida」のもつ受動の意味までを否定する。その一例として、우인혜 (Woo 1997)であげている他動詞の起動化の例をあげる。

#### (2) a 그 김치 항아리는 땅 깊숙히 묻어졌다.

Geu gimchi hangarineun ttang gipsukhi muteojyeotda

その キムチの 壺は 土 深く 埋める-jida

そのキムチの壺は土深く埋められた

b ? 밥이 먹어진다.

Babi meogeojinda

ご飯が 食べる－jida

ご飯が食べられる

(2a) の「묻어지다 muteojida 埋められる」とは、「묻다 mutma 埋める」動作が行われる始まりを表すことも、また埋める動作が可能になったという様相の変化を意味することができる。また、受動の意味が現れることを認めるが、この受動の意味も起動相のもつ状態や動作の始まりあるいは変化が受動的に生じることからであるとしている。また、(2b) のように、他動詞であっても受動文を作ることのできない例をあげ、「지다 jida」を起動相<sup>25</sup>とすることで説明できるとしている。

しかし、上の(1b)の他動詞「만들다 mandeulda 作る」に付く<지다 jida 構文>に対して、次の(3)のように能動文が成立するので、「지다 jida」のもつ受動の意味を否定するには無理があると思われる。

(3) 전문가들(의 연구가)이 우리나라에 해저통로를 만들었다.

Jeonmungadeul(ui yeonguga)i urinarae haejeotongnoreul mandeureotda

専門家たち(の研究が) 我が国に 海底通路を 作った

専門家たち(の研究が)が我が国に海底通路を作った

成光秀(1976)は受動を、動作すなわち作為の方向に対する受動(直接受動)と、結果的な状態や起動的な過程すなわち非動作の受動(間接受動)とわける。(4a-b)の例をあげ、動詞の結果あるいは状態などの過程に関わる「ほとんど、ひとりでに」という副詞と共起する(4a)の「jida 受動」を間接受動とし、動詞の動作に関わると副詞「乱暴に」と共起する(4b)の接尾辞受動を直接受動としている。

しかし、(4a)の「벗다 beotda 脱ぐ」に「지다 jida」の付いた「벗어지다 beoseojida 脱げる」が、(4c)では可能の意味を表す。

(4) a 옷이 { 거의 /저절로 /??난폭하게 } 벗어진다.

Osi {geoui /jeojeollo /?? nanpokhage } beoseojinda

服が {ほとんど/ひとりでに/??乱暴に} 脱ぐ－jida

服が {ほとんど/ひとりでに/??乱暴に} 脱げる。

<sup>25</sup> 우인혜 (Woo 1997) の起動相は、伝統的な意味の「ある動作や状態の始まりを表す」とどまらず、この始まりで現れる変化の様相にまで拡大して捉えている。

- b 옷이 {??거의 /??저절로 /난폭하게} 벗긴다.  
 Osi {??geoui /??jeojeollo /nanpokhage} beotginda  
 服が {??ほとんど/??ひとりでに/乱暴に} 脱がれる  
 服が {??ほとんど/??ひとりでに/乱暴に} 脱がれる
- c 이 옷은 잘 벗어진다.  
 I oseun jal beoseojinda  
 この 服は よく 脱げる  
 この服は簡単に脱げる

韓国語の場合、＜受動＞になるのは他動詞の場合のみであり、また他動詞であっても＜受動＞の意味の他に、＜可能＞の意味などの意味を表す場合もある。

최현배 (Choe 1937) は、動詞の＜지다 jida 構文＞を、便宜上受動法の一つとして扱っており、その意味するところは「可能的受動」と「自然的受動」のみで、「利害受動」の意味はないとした。また形態上、「아(a)/어(eo)지다 (jida)」の形を取っていても、元の動詞がもはや意識されないものは本動詞と見なし、その例として「떨어지다 ttolajida (落ちる)、넘어지다 neomeojida (倒れる)、깨지다 kkaejida (割れる)、꺼지다 kkeojida (消える)」などをあげている。この動詞類はそのままの形で辞書に載っているが、次の三つに分けることができる。

(5) a 元の動詞が存在しないのでそれが意識されない場合

떨어지다 ttolajida 落ちる  
 쓰러지다 sseureojida 倒れる  
 부러지다 bureojida 折れる  
 사라지다 sarajida 消える、(い) なくなるなど

b 元の動詞の意味が意識されない場合

넘어지다 neomeojida 倒れる : 넘다 neomda 越す・越える－jida

c 元の動詞が存在しているので意識されないと言にくい場合

깨지다 kkaejida 割れる : 깨다 kkeda 割る－jida  
 꺼지다 kkeojida 消える : 끄다 kkuda 消す－jida  
 없어지다 eobeojida (い) なくなる : 없다 eopsda (い) ない－jida など

(5a-b) の場合は、本動詞とすることができるが、(5c) のように元の動詞が存在し、その意味を含んでいる場合は<지다 jida 構文>にした動詞を本動詞とは言いにくい例である。

## 2. 研究対象

(6) a 이 책은 太郎에 의해 쓰였다. (接尾辞受動)

I chaekun taroe uihae sseuyeossda

この本は 太郎に よって 書かれた

この本は太郎によって書かれた

b 이 책은 太郎에 의해 써졌다.

I chaekun taroe uihae sseojyeossda

この本は 太郎に よって 書く－jida

この本は太郎によって書かれた。

c 太郎는 요즘 글이 잘 써졌다.

Taroneun yojeum geuri jal sseojyeotda

太郎は 最近 文が よく 書く－jida

太郎は最近文がよく書けた

d 이 책은 太郎에 의해 쓰여졌다.

I chaekun taroe uihae sseueoyeossda.

この本は 太郎に よって 書かれる－jida

この本は太郎によって書かれた

動詞「쓰다 sseuda 書く」に対して、(6a) は接尾辞受動、(6b) は<지다 jida 構文>による受動表現の例であるが、いずれも「書かれた」という意味となるけれども、形が異なることからその意味の差があると思われるので、検討する必要がある。また、(6b) と同じ「書く－jida」でありながら「書ける」という可能の意味を表す (6c)、「書かれる－jida」<sup>26</sup>で受動の意味を表す (6d) についても考察することで、<지다 jida 構文>の本質的な意味を明らかにする。

<sup>26</sup> 成光秀 (1976) は、接尾辞受動を「直接受動」、「지다 jida」による受動を「間接受動」とし、「接尾辞受動－jida」を二重受動とする。

### 3. 「지다 jida」の意味

先行研究で、主に受動を表すと言われてきた「jida」は、本動詞としてではなく、補助動詞として用いられる場合である。本動詞「jida」の辞書的意味について、『朝鮮語大辞典』（1986）、『우리말큰사전』（1991）、『最新 ハ ン グ ル 大辞典 우리말 큰사전』（1986）、『국어대사전』（1991）、『연세한국어사전』（1998）を参考にして、以下のようにまとめる。

- ①（花や葉などが）散る、落ちる      ②（太陽、月が）沈む、暮れる
- ③（垢・しみなどが）消える、取れる      ④（露などが）なくなる、乾く
- ⑤（胎児がお腹の中で）死ぬ      ⑥ 生じる、できる

すなわち、本動詞としての「jida」は、「自然にそうなる」あるいは「ある事柄に対して、人間の意図とは無関係に、自然に起きる」という＜自発＞がその基本的な意味であると考えられる。＜自発＞について寺村（1982）は、「あるものが、自然に、ひとりでにある状態を帯びる、あるいはあるもの X を対象とする現象が自然に起きる」としている。また、「ガラスが割られた」などの受動が、文中に主体が言及されていなくてもその事象が誰かによって惹き起されたという意識が存在しているという印象があるのに対して、「ガラスが割れた」の自発は、動作の主体が不明か不問の場合のみ可能であるとしている。

### 4. 「지다 jida」の用法

#### 4. 1 [名詞－jida]

- (7) a 기름지다 Gireumjida [油－jida] : 油っこい、(肉などに) 脂気が多い
- b 값지다 Gapjida [値段－jida] : めばしい、高価だ、貴重だ
- c 멋지다 Meotjida [粹－jida] : 素晴らしい、見事だ
- d 세모지다 Semojida [三角－jida] : 三角になっている
- (8) a 그늘지다 Geuneuljida [陰－jida] : 陰ができる、陰になる
- b 얼룩지다 Eollukjida [染み－jida] : 染み付く
- c 장마지다 Jangmajida [梅雨－jida] : 梅雨になる

(7)と(8)は、[名詞－jida]の形で一語になっている例であるが、(8)は以下の(8)′のように、名詞と「지다 jida」の間に助詞が入ることで、本動詞「지다 jida」の意味



の一つの「消える、終わる」という意味を表すこともできる<sup>27</sup>。

- (8) ' a 그들이 졌다      b 얼룩이 졌다      c 장마가 졌다  
Geuneuli jyeotda      Eolluki jyeotda      Jangmaga jyeotda  
陰ができた/消えた      染みができた/消えた      梅雨になった/終わった

#### 4. 2 形容詞の<지다 jida 構文>

形容詞が先行する<지다 jida 構文>は、形容詞の意味する状態になることを表し、本動詞の意味の中で「生じる」と密接な関連があると言われている。「지다 jida」の機能を起動化とする우인혜 (Woo 1997) では、形容詞が先行する場合の「지다 jida」は、新しい状態や動作の始まりに焦点をおくとする。

- (9) a 도로가 최근      넓어졌다.      이제는      도로가      넓다.  
Doroga choegeun neolbeojyeotda. ijeneun doroga neolda  
道路が 最近      広い-jida      今は      道路が 広い  
道路が最近広くなった。今は道路が広い。
- b 공사가      끝나면      도로가 {넓어진다.      /\*넓다.}  
Gongsaga kkeutkkamyeon doroga {neolbeojinda/ neolda}  
工事が      終わったら      道路が {広い-jida / 広い}  
工事が終わったら道路が広くなる

우인혜 (Woo 1997) は、(9a) をあげて、「넓어지다 neolbeojida 広くなる」は、広くなかった状態から広い状態に変わったことを表し、新しい状態の始まりに焦点をおく起動化と説明する。

しかし、起動化で説明している変化の始まりに焦点をおくというよりは、変化の過程を経ての結果にも焦点があると捉えられる。(9b) で見るように、「工事が終わる」という条件に続く場合で、工事が完了すると「道路が広くなる」ことが予想できるという意味であり、動きが終了した段階に焦点を当てるので、「지다 jida」は新しい状態の始まりというよりは、変化した結果の状態に焦点があると言える。

<sup>27</sup> 「숨지다 Sumjida[息-jida]：息を引き取る、死ぬ」の場合は、「숨이 지다 Sumi jida[息が jida]」にしても「지다 jida」の意味は変わらない。

(10) 담이 높아진다.

Dami nopajinda

塀が 高い-jida

塀が高くなる

(10) は、송창선 (Song 2005) であげている例で、形容詞「高い」に「지다 jida」が付いて、自動詞化という文法的な機能をするほか、元々高くなかった状態から高い状態に変わる「状態変化」を意味するとしている。形容詞が先行する<지다 jida 構文>は、<状態変化>とまとめることにする。

#### 4. 3 動詞の<지다 jida 構文>

上でも述べたように、<지다 jida 構文>には、本動詞が持っている<自発>の意味に基づいて<可能>、<受動>、<状態変化>の意味が生じると思われる。ただし、形容詞に「지다 (jida)」がついた場合は<状態変化>の意味のみであり、したがって、問題になるのは、動詞の<지다 jida 構文>である。その意味は、<可能>と<受動>に分けることができる。しかしながら、この<지다 jida 構文>はこれらのうちの一方だけの意味を表す場合もあるが、両方の意味を表す場合もある。また、どちらの意味も表さない場合もある。では、どの意味が中心になるかによって動詞を分けてみる。

##### 4. 3. 1 <受動>の意味が中心になる<지다 jida 構文>

###### 【A タイプ】

지키다 jikida 守る、돕다 dobda 助ける、기르다 gileuda 育てる、고치다 gochida なおす、버리다 beolida 捨てる、이루다 iluda 成す、만들다 mandeulda 作る、전하다 jeonhada 伝える、정하다 jeonghada 決める、가하다 gahada 加える、더하다 deohada 加える・足す、칠하다 chilhada 塗る、그리다 geurida 描く など

このタイプには、対応する自動詞をもたない他動詞である。すなわち、典型的な受動法である「接尾辞受動」はない。<지다 jida 構文>にする場合は、「에 의해 e uihae によって」という動作主が必要である。「～によって」にくるものは「人間」である場合が多く、また「人間」でない場合であっても(11c)のように、「人間」によるものの場合には可

能となる。(1 1 a-b) の場合は、「～によって」も「에게 ege に」も用いることができる。

(1 1) a 평화는 {모두에 의해 /모두에게} 지켜졌다.

Pyeonghwaneun {modue uihae /moduege} jikyeo jyeotda

平和は {みんなに よって/みんなに} 守る-jida

平和はみんなによって守られた

b 太郎는 {엄마에 의해 /엄마에게} 버려졌다.

Taroneun {eommae uihae /eommaege} beoryeojyeotda

太郎は {母に よって/母に} 捨てる-jida

太郎は母に捨てられた

c 전문가들의 연구에 의해 우리나라에 해저통로가 만들어졌다. (= (2

b))

Jeonmungadeurui yeongue uihae urinarae haejeotongnoga mandeureojyeotda

専門家たちの 研究に よって 我が国に 海底通路が 作る-jida

専門家たちの研究によって我が国に海底通路が作られた

최현배 (Choe 1937) では、動詞の<지다 jida 構文>を受動法の一つとし、その意味するところは「可能的受動」と「自然的受動」のみで「利害」の意味はないとしている<sup>28</sup>が、(1 1 b) の「捨てる-jida」の場合は、動作主の「母」によって「太郎」が被害を受ける「利害受動」の意味を表している。また、<受動>の意味を中心とするこのタイプの動詞の中で「만들다 mandeulda 作る」は、すでにあげた (1 c) の「크리스마스 트리가 정말 잘 만들어졌다. 크리스마스ツリーが本当にうまく作れた」のように、<可能>の意味を表すこともある。つまり、「～によって」の動作主が背景化することで、<受動>の意味から<可能>の意味になると思われる。「만들다 mandeulda 作る」は対応する自動詞がないことから【Aタイプ】に入れる。

<sup>28</sup> 발견해지다 balgyeonhaejida : 능히 / 절로 발견되다 Neunghi / jeollo balgyeondoeda  
[発見する-jida] 十分発見できる/おのずと発見される

증명해지다 jeungmyeonghaejida : 능히 / 절로 증명되다 Neunghi / jeollo jeungmyeongdoeda  
[証明する-jida] 十分証明できる/おのずと証明される

막아지다 magajida : 능히 / 절로 막히다 Neunghi / jeollo makhida  
[塞ぐ-jida] 十分塞がる/おのずと塞がる

꺾어지다 kkeokkeojida : 능히 / 절로 꺾게 되다 Neunghi / jeollo kkeokkge doeda  
[折る-jida] 十分折れる/おのずと折れる

4. 3. 2 <可能>と<受動>の意味を同時に持つ<지다 jida 構文>

【B タイプ】

쓰다 sseuda 書く、찍다 jjikda 撮る、깎다 ggakkda 削る、닦다 dakkda 拭く、덮다 deopda かぶせる、걸다 geolda (電話を) かける、열다 yeolda 開ける、닫다 datda 閉める、담다 damda 盛る、찢다 jjitda 破る、자르다 jaleuda 切る など

このタイプの動詞は、対応する自動詞が<受動>の意味をもつ類である(接尾辞受動)。  
<지다 jida 構文>が<受動>の意味を持つことができるのは他動詞の場合のみであるが、  
【B タイプ】の動詞は<지다 jida 構文>にすることによって、<受動>の意味に加えて  
<可能>の意味も表すことができるのである。

(1 2) a 이 책은 太郎에 의해 써졌다.

I chaegeun taroe uihae sseojyeossda

この本は 太郎に よって 書く-jida

この本は太郎によって書かれた

b 이 책은 太郎에게 써졌다.

I chaegeun taroege sseojyeossda

この本は 太郎に 書く-jida

この本は(誰かによって) 太郎に書かれた(本である)

<受動>の意味が中心になる【A タイプ】の動詞は「에게 ege ～に」を用いることも可能であるが、【B タイプ】の動詞が<受動>の意味を表す場合は(1 2 a)のように、「에 의해 e uihae ～によって」という動作主が必要である。(1 2 b)のように「에게 ege ～に」を用いると、「太郎」は動作主ではなく「この本は誰かによって太郎宛てに書かれた」という意味として捉えられる。一方、「쓰이다 sseuida 書く-受動の接尾辞(書かれる)」、「쓰여지다 sseuyeojida 書く-受動の接尾辞-jida」は、「에 의해 e uihae によって」、「에게 ege ～に」の場合も動作主を表す。

(1 3) a 이 책은 {太郎에 의해 / 太郎에게} 쓰였다.

I chaegeun {taroe uihae / taroege} sseuyeossda

この本は {太郎に よって/ 太郎に} 書かれた(書く-受動の接尾辞)

この本は{太郎によって/ 太郎に} 書かれた

b 이 책은 {太郎에 의해 /太郎에게} 쓰여졌다.

I chaegun {taroe uihae/taroege} sseuyeojyeossda

この本は {太郎に よって/太郎に} 書かれる－jida

この本は{太郎によって/太郎に}書かれた

(1 2 a) と (1 3) は、「써지다 sseojida 書く－jida」、「쓰이다 sseuida 書く－受動の接尾辞（書かれる）」、「쓰여지다 sseuyeojida 書く－受動の接尾辞－jida」が＜受動＞の意味を表し、動作主である「太郎」によって書かれる「本」についての表現である。次の (1 4) は、書くために用いられる「鉛筆」という道具を主語にする例である。

(1 4) a 이 연필은 글씨가 잘 써졌다.

I yeonpileun geulssiga jal sseojyeossda

この鉛筆は 字が うまく 書く－jida

この鉛筆は字がうまく書けた

b \*이 연필은 글씨가 잘 쓰였다.

I yeonpireun geulssiga jal sseuyeossda

この鉛筆は 字が うまく 書かれた

この鉛筆は字がうまく書かれた

c \*이 연필은 글씨가 잘 쓰여졌다.

I yeonpireun geulssiga jal sseuyeojyeossda

この鉛筆は 字が うまく 書かれる－jida

この鉛筆は字がうまく書かれた

(1 3-1 4 a) は、「쓰다 sseuda 書く」という動詞の<지다 jida 構文>であるが、(1 3 a) は「書ける」という意味で、「鉛筆」が潜在的に持っていると思われる能力について表現するので、＜可能＞の意味を表す。一方、「쓰이다 sseuida 書かれる」の場合は、(1 3 b) のように、「쓰다 sseuda 書く」行為の結果、できあがる「もの主語」は適格な文であるが、「쓰다 sseuda 書く」行為で用いられる「道具主語」の (1 4 b) は非文である。なお、道具として「紙」、「黒板」なども同様である。

(15) a 太郎는 글씨가 잘 써졌다.

Taroneun geulssiga jal sseojyeotda

太郎は 字が うまく 書く－jida

太郎は文がうまく書けた

b \*太郎는 글씨가 잘 쓰였다.

Taroneun geulssiga jal sseuyeosda

太郎は 字が うまく 書かれた

太郎は文がよく書かれた

c\*太郎는 글씨가 잘 쓰여졌다.

Taroneun geulssiga jal sseueojyeosda

太郎は 字が うまく 書かれる－jida

太郎は文がよく書かれた

(15) は、「쓰다 sseuda 書く」動作主を主語とする例である。まず、(15a) は「太郎는 글씨가 잘 써졌다 太郎neun geulssiga jal sseojyeotda 太郎は字がよく書けた」という太郎の能力可能についての表現で、(15b-c) の「쓰이다 sseuida 書かれる(接尾辞受動)」と「쓰여지다 sseueojida 書かれる－jida」の用いられた例は非文となる。(13-15) を次の(16) でまとめる。

(16) 「쓰다 sseuda 書く」の<지다 jida 構文> (パターン1)

	써지다 書く－jida	쓰이다 書かれる	쓰여지다 書かれる－jida
動作の結果産物主語	○<受動1>	○<受動2>	○<受動3>
道具主語	○<可能1>	×	×
動作主主語	○<可能2>	× <sup>29</sup>	×

<sup>29</sup> 動作主主語と接尾辞受動形の「쓰이다 sseuida 書かれる」が可能な場合があるが、次の例のように過去形にすると、非文である。

(나는) 술에 취하면 시가 잘 {쓰인다/\*쓰였다}  
 (Naneun) sure chwihamyeon siga jal {sseuinda/\*sseuyeotda}  
 (私は) 酒に 酔うと 詩が うまく {書かれる/\*書かれた}  
 (私は) お酒に酔うと詩がうまく書ける

(16) の表をみると、「쓰다 sseuda 書く」の<지다 jida 構文>は、主語に対する制約がないのに対して、「쓰이다 sseuida 書かれる」と「쓰여지다 sseuyeojida 書かれる－jida」の主語になれるものは動作の結果産物のみである。

寺村 (1982) は、可能について、動作主が主語となる「能動的可能表現」(この魚は木にのぼれる) と、対象が主語として取り上げられる「受動的可能表現」(この魚は食べられる) をあげている。

「쓰다 sseuda 書く」動詞の<지다 jida 構文>で、<可能 1>は「受動的可能表現」で、<可能 2>は「能動的可能表現」である。

韓国語の<可能>表現には、次の「～するすべがある／～することができる」という表現がある。

・可能 : 「～을 수(가) 있다」  
 ～eul su(ga) itda  
 未来連体形 方法・すべ(が) ある

また、<不可能>の場合は、存在詞である「있다 itta (いる・ある)」の代わりに、否定の存在詞(不存在を表す)「없다 eopta (ない)」を用いて表現する。

・不可能 : 「～을 수(가) 없다」  
 ～eul su(ga) eopda  
 未来連体形 方法・すべ(が) ない  
 ～するすべがない／～することができない

この表現による<可能>、<不可能>は、動作主についての能力または可能を表すので、<可能 2>の「能動的可能表現」と意味がほぼ対応している。なお、「道具主語」の<可能 1>は、「～을 수(가) 있다 ～eul su(ga) itda ～することができる」で表すことはできない。次の(17)は、(13)の「～によって」動作主を省いた例で、<受動 1～3>の相違が現れる。

(17) a 이 책은 1 달에 {써졌다 / 쓰였다 / 쓰여졌다}  
 I chaegun 1 dare {sseojyeotda/sseuyeotda/sseuyeojyeotda}  
 この本は 1 か月で {書く－jida / 書かれた / 書かれる－jida}  
 この本は 1 か月で {書けた / 書かれた / 書きあげた}

b 이 책은 1 달에는 {안 써진다 /\*안 쓰인다 /안 쓰여진다}  
 I chaegeun 1 dareneun {an sseojinda/\*an sseuinda/an sseuyeojinda}  
 この本は 1 か月では {書けない /書かれない /書かれない-jida}  
 この本は1 か月では書けない

このように、<지다 jida 構文>で現れる<可能 1~2>と関連して、<受動 1>は「可能を含む受動」、<受動 2>は典型的な受動、<受動 3>は「受動を含むと可能」とする。  
 次の(18)は、「찍다 jjikda 撮る」動詞の<지다 jida 構文>について、「쓰다 sseuda 書く」同様、主語を中心にあげる。

- (18) a 이 사진은 太郎에 의해 {찍어졌다 /찍혔다 /찍혀졌다}.  
 I sajineun taroe uihae {jjigeojyeotda/jjikyeotda/jjikhyeojyeotda}  
 この写真は 太郎によって{撮る-jida /撮られる /撮られる-jida}  
 この写真は太郎によって撮られた
- b 이 카메라는 사진이 잘 {찍어졌다 /찍혔다 /찍혀졌다}.  
 I kameraneun sajini jal {jjigeojyeotda/jjikyeotda/jjikhyeojyeotda}  
 このカメラは 写真が うまく{撮る-jida /撮られる /撮られる-jida}  
 このカメラは写真がうまく撮れた
- c 太郎는 사진이 잘 {찍어졌다 /\*찍혔다 /\*찍혀졌다}.  
 Taroneun sajini jal {jjigeojyeotda/jjikyeotda/jjikhyeojyeotda}  
 太郎は 写真が うまく {撮る-jida /撮られる /撮られる-jida}  
 太郎は写真がうまく撮れた

(18) をまとめたものを、次の(19)の表に示す。

(19) 「찍다 jjikda 撮る」の<지다 jida 構文> (パターン2)

	찍어지다 撮る-jida	찍히다 撮られる/撮れる	찍혀지다 撮られる/撮れる-jida
動作の結果産物主語	○<受動 1>	○<受動 2>	○<受動 3>
道具主語	○<可能 1>	○	○
動作主主語	○<可能 2>	×	×



<受動 1~3>と<可能 1~2>については、「쓰다 sseuda 書く」の場合同様と考える。  
「찍히다 jjikhida」は、「撮られる、撮れる」の意味があるため、「쓰다 sseuda 書く」  
の場合とは違って、道具主語を用いることができる。(18b)の「撮る-jida」は、「カメ  
ラ」の持つ能力として「写真がうまく撮れる」ということを意味している。

(20) a 이 사진은 1 시간에는 {안 찍어진다 / \*안 찍힌다 / 안 찍혀진다}

I sajineun 1siganeneun {an jjigeojinda/\*an jjikinda /an jjikhyeojinda}

この写真 1時間では {撮れない / 撮られない / 撮られない-jida}

この写真は1時間では撮れない

b 이 사진에 太郎가 {\*찍어졌다 / 찍혔다 / 찍혀졌다}

I sajine taroga {jjigeojyeotda/jjikyeotda/jjikhyeojyeotda}

この写真に 太郎が {撮る-jida /撮られる /撮られる-jida}

この写真に太郎が撮られた (写っている)

(20a)は、「1時間では写真を撮ることができない」という意味として「撮る」と「撮  
れる」の<지다 jida 構文>を用いた表現である。(20b)は、「写真が撮られる」という  
<受動>で非文となる「撮る」の<지다 jida 構文>である。

また、動作主主語で非文としている「\*太郎은 사진이 잘 찍혔다/찍혀졌다 Taroneun  
sajini jal jjikyeotda/jjikhyeojyeotda 太郎は写真がよく撮れた」は、「太郎」が写真を  
撮られる対象であれば、「写真写りがいい」という適格な文となる。

次の(21)は、「열다 yeolda 開ける」の例で、「쓰다 sseuda 書く、찍다 jjikda 撮る」  
のような動作の結果産物を持たない。主語として、「開ける」動作を行う動作主と「開く」  
ものがある。これを【Bタイプ】のうちのパターン3にする。

(21) a 문이 太郎에 의해 {열어졌다 / 열렸다 / 열려졌다}

Muni taroe uihae {yeoreojyeotda/yeollyeotda/yeollyeojyeotda}

ドア가 太郎에 의해 {開ける-jida /開いた /開く-jida}

ドアが太郎によって開けられた

- b 문이 바람에 { \*열어졌다 / 열렸다 / 열려졌다 }
- Muni barame { yeoreojyeotda/yeollyeotda/yeollyeojyeotda }
- ドアが 風で { 開ける－jida / 開いた / 開く－jida }
- ドアが風で開いた
- c 太郎은 문이 잘 { 열어졌다 / \*열렸다 / \*열려졌다 }
- Taroneun muni jal { yeoreojyeotda/yeollyeotda/yeollyeojyeotda }
- 太郎は ドアが よく { 開ける－jida / 開いた / 開く－jida }
- 太郎にはドアが簡単に開けた

(2 1 a) は、「ドア」というもの主語に「太郎によって」という有情物の動作主による<受動>で、「열어지다 yeoreojida 開ける－jida、열리다 yeollida (接尾辞受動) 開く、열려지다 yeollyeojida 開く－jida」とも可能であるのに対して、(2 1 b) は「風で」「ドアが開いた」場合で、「열어지다 yeoreojida 開ける－jida」は非文となる。一方、(2 1 c) は<지다 jida 構文>のみが適格な文で、「太郎にはドアを開けることができる」という太郎の能力可能を表す「能動的可能表現」である。(2 1) を次の (2 2) の表でまとめる。

(2 2) 「열다 yeolda 開ける」の<지다 jida 構文> (パターン 3)

	열어지다 開ける－jida	열리다 開く (接尾辞受動)	열려지다 開く－jida
もの主語 (太郎によって)	○<受動 1>	○<受動 2>	○<受動 3>
もの主語 (風で)	×	○	○
動作主主語	○<可能 2>	×	×

(2 1 a) は「太郎がドアを開けた」の受動文で、それぞれ<受動 1～3>に当たると思われる。(2 1 b) は「太郎によって」の代わりに、「風で」が用いられ「ドアが開いた」の意味を、動作主主語の (2 1 c) は、「開ける－jida」のみが適格な文で、すでにあげた「書く、撮る」同様、<可能 2>の「能動的可能表現」である。

ここまでをまとめると、【B タイプ】であげている例の中で、表 (1 6)、表 (1 9)、表 (2 2) に共通する点は、動作主主語の場合<可能 2>の「能動的可能表現」とする<지다 jida 構文>のみに適格な文であるということである。各々の例を次の (2 3) であげる。

(23) a 太郎는 글씨가 잘 써졌다.

Taroneun geulssiga jal sseojyeotda

太郎は 字が うまく 書く－jida

太郎は文がうまく書けた

b 太郎는 사진이 잘 찍어졌다.

Taroneun sajini jal jjigeojyeotda

太郎は 写真が うまく 撮る－jida

太郎は写真がうまく撮れた

c 太郎는 문이 잘 열어졌다

Taroneun muni jal yeoreojyeotda

太郎は ドアが うまく 開ける－jida

太郎にはドアが簡単に開けた

また、(23a-c)の「글씨가 geulssiga 字が」、「사진이 sajini 写真が」、「문이 muni ドアが」をもの主語にすると、次の(24)のように「저절로 jeojeollo ひどりでに」との共起が可能である。

(24) a 글씨가 저절로 써졌다.

Geulssiga jeojeollo sseojyeotda

字が ひどりでに 書く－jida

字がひどりでに書けた

b 사진이 저절로 찍어졌다.

Sajini jeojeollo jjigeojyeotda

写真が ひどりでに 撮る－jida

写真がひどりでに撮れた

c 문이 저절로 열어졌다

Muni jeojeollo yeoreojyeotda

ドアが ひどりでに 開ける－jida

ドアがひどりでに開いた

影山（2001）は、英語の自動詞には3つの種類があるとしている。

1) 非能格動詞：＜行為・活動＞

2) 非対格動詞：＜変化＞→＜結果状態＞

3) 能格動詞：＜行為・活動＞→＜変化＞→＜結果状態＞

次の4. 3. 3節からは、自動詞の＜지다 jida 構文＞をあげる。

#### 4. 3. 3 ＜可能＞の意味が中心となる＜지다 jida 構文＞

##### 【Cタイプ】

앉다 anjda 座る、걷다 geodda 歩く、달리다 dallida 走る、서다 seoda 立つ、자다 jada 寝る、쉬다 swida 休む、가다 gada 行く、오다 oda 来る、살다 salda 生きる<sup>30</sup>など

このタイプに属する動詞は、意図的な行為・活動を表す非能格動詞で、＜지다 jida 構文＞で＜可能＞の意味を表す。

(25) a 이 의자는 太郎が 앉아진다.

I uijaneun taroga anjajinda.

この椅子は 太郎が 座る－jida

この椅子（に）は太郎が座れる。

b 太郎은 이 의자에 잘 앉아진다.

Taroneun i uijae jal anjajinda

太郎は この 椅子に よく 座る－jida

太郎はこの椅子によく座る

c 太郎은 이 의자에 잘 앉는다.

Taroneun i uijae jal anneunda

太郎は この 椅子に よく 座る

太郎はこの椅子によく座る

(25a) は「앉다 anda 座る」の＜지다 jida 構文＞で、「太郎」がどんなに太っていても「座る」ことのできるほど丈夫であるという、「椅子」の潜在的な能力を表す。森山（1988）は、「可能表現は、一種の性質の叙述なので、何かの特性を帯びることが必要である。単に

<sup>30</sup> 他に、「죽다 jukda 死ぬ」もこのタイプに入る。

「?この看板は立つことができる」と言うより、「この看板は斜面でも立つことができる」のように、特性記述の要素があるほうが自然である」としているが、(25a)は「太っている太郎でも」という表現がなくても<지다 jida 構文>にするだけで、「椅子」の潜在的に持っている能力によって「座る」ことを可能とする表現である。これは、「이 의자는太郎가 앉을 수 있다. I uijaneun taroga anjeul su(ga) issda この椅子は太郎が座ることができる」とも解釈できる。動作を行うもの(行為者)の能力による<可能>を表している。また、(25c)の<지다 jida なし構文>('지다(jida)')が付いてない文を<지다 jida なし構文>とする)は、太郎の座ろうとする意図によって行われる意味を表すのに対して、(25b)の「앉다 anda 座る」の<지다 jida 構文>は、「知らないうちにおのずと、座ることになる」という意味を表す。

(26) 이 신발은 빨리 달려진다.<sup>31</sup>

I sinbaleun bballi dallyeojinda.

この靴は 速く 走る-jida

この靴は速く走れる

(26)の「この靴」は、それを履くと誰であっても「速く走る」ことが可能であるという意味であり、「この靴」が潜在的に「速く走る」ことが可能であるという能力を持っていることについて語っている。「履いた人が速く走る」ことを可能にする性質を持っているとも言える。

(27) 이 방은 10 명이 자진다.

I bangeun 10myeongi jajinda

この部屋は 10 人が 寝る-jida

この部屋は10人が寝られる

「寝る」ということをするのは「10人」であるが、ただ単に「10人が寝られる」という意味ではなく、「10人が寝る」ということが「이 방 i bang この部屋」で起こることが可能であったことを表現している。すなわち、「이 방 i bang この部屋」は潜在的に「1

<sup>31</sup> (23b)を「~することができる」の可能表現にすると、以下のように非文となる。

\*이 신발은 빨리 달릴 수 있다.

I sinbareun ppalli dallil su itda

この靴は速く走ることができる

0人が寝る」ということをもたらす能力を持っていたと言える。「10人が寝る」ことのできるぐらいの大きさを最初から持っていて、現実になんかことが起きたのである。潜在的に持っている能力によってそのことが「自然に」起こるという意味を表すのである。

これは大野（1977）の「レル・ラレル」に似ている。「レル・ラレル」の根本には自然発生、自然展開（自発）があるとし、＜可能＞というのも＜自然展開＞の過程であるという観念で把握したので、「レル・ラレル」を＜可能＞の意味にも使うようになったと述べている。「지다 (jida)」自体にも「自然に、おのずから」などのような自然発生の意味を元々含んでいることから＜可能＞の意味を持つという点が、日本語の「レル・ラレル」文の性質と共通すると言えるだろう。

尾上（1998）では＜可能＞という意味を「動作主がその行為をしようという意図を持った場合にその行為が実現するだけの許容性、萌芽がその状況の中に存在する」と述べている。

（27）の「この部屋」は、「10人が寝られる」という出来事とその＜可能の場＞としての「この部屋」において起こったということである。次は（27）を「～することができる」という表現にした例である。

（28）이 방은 10 명이 잘 수(가) 있었다.

I bangeun 10myeongi jal su(ga) isseotda

この部屋は 10 人が寝ることができた。

この部屋は 10 人が寝ることができた

（28）の「この部屋」は「10人が寝られる」ことのできる場所としての意味になり、＜지다 jida 構文＞による（27）の「この部屋」が潜在的に持っている能力を表す表現とは違うのである。では、（27）を＜지다 jida なし構文＞にして、＜지다 jida 構文＞との違いをみる。

（29）이 방은 10 명이 잔다.

I bangeun 10myeongi janda

この部屋は 10 人が寝る

この部屋は 10 人が寝る

（29）の「この部屋」は単に場所として取り上げているだけであり、（27）のようにその能力などについては表現できない。「10人が寝る」ということが起こる場所としての

「部屋」だけの意味である。この表現は日本語の可能文における、場所の中で＜可能動作の主体による可能動作＞が起こりうる＜可能の場＞である。

#### 4. 3. 4 ＜状態変化＞の意味が中心になる＜지다 jida 構文＞

##### 【D タイプ】

얼다 eolda 凍る、녹다 nokda 溶ける、닳다 dalhda 擦れる、줄다 julda 減る、  
늘다 neulda 増える、썩다 sseokda 腐る、닮다 dalmda 似る、변하다 byeonhada 変わる、끓다 ggeulda 沸くなど

このタイプの動詞は自動詞であるため、＜지다 jida 構文＞は＜受動＞の意味を表すことができない。また、動詞自体が＜状態変化＞の意味を持っているため、形容詞とも類似する。

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| (30) a 얼음이 얼었다.    | b 얼음이 얼어졌다.            |
| Eoleumi eoleosdda. | Eoleumi eoleojyeosdda. |
| 氷が凍った              | 氷が凍る－jida              |
| 氷が凍った              | 氷が凍った                  |

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| (31) a 신이 닳았다.  | b 신이 닳아졌다.         |
| Sini dalhassda. | Sini dalajyeosdda. |
| 靴が擦り減った         | 靴が擦り減る－jida        |
| 靴が擦り減った         | 靴が擦り減った            |

このタイプの＜지다 jida 構文＞は、動詞自体では表せない＜自発＞の意味を強めるために用いられると思われる。次の例はそれぞれ、「氷が凍っていない状態から凍る状態になった」、「靴が擦り減っていない状態から擦り減る状態になった」という意味を表す。ただし、4. 2の形容詞の＜지다 jida 構文＞との異なる点としては、次の(32)のように＜지다 jida なし構文＞の場合も変化の過程を経ての結果状態に焦点をおくことができることである。

- |   |
|---|
| (32) a 기온이 영하로 떨어지면 얼음이 {얼어진다./언다.}                         |
| Gioni yeongharo tteoreojimyeon eoreumi {eoreojinda./eonda.} |
| 気温が零下に下がると氷が {凍る－jida/凍る}                                   |
| 気温が零下に下がると氷が凍る  |

- b 운동량이 많아지면 신이 빨리 {닿아진다./닿는다.}  
 Undongnyangi manajimyeon sini ppalli {darajinda./dalneunda.}  
 運動量が 増えると 靴が はやく {擦り減る－jida/擦り減る}  
 運動量が増えると靴がはやく擦り減る

また、＜状態変化＞の意味を中心とする【D タイプ】の動詞においての<지다 jida 構文>と<지다 jida なし構文>との違いを（33－34）であげる。

- （33）a 기온이 영하로 떨어지면서 얼음이 얼었다. 이제는 얼음이 얼었다.

Gioni yeongharo tteoreojimyeonseo eoreumi eoreojyeotda. ijeneun eoreumi eoreotda  
 気温が 零下に 下がるにつれ 氷が 凍る－jida 今は 氷が 凍った。  
 気温が零下に下がるにつれ氷が凍ってきた。今は氷が凍った。

- b \*기온이 영하로 떨어지면서 얼음이 얼었다. 이제는 얼음이 얼어졌다.

Gioni yeongharo tteoreojimyeonseo eoreumi eoreotda. ijeneun eoreumi eoreojyeotda  
 気温が 零下に 下がるにつれ 氷が 凍った 今は 氷が 凍る－jida  
 気温が零下に下がるにつれ氷が凍った。今は氷が凍ってきた。

- （34）a 운동량이 많아서 신이 빨리 닳아졌다. 이제는 신이 닳았다.

Undongnyangi manaseo sini ppalli darajyeotda. ijeneun sini daratda  
 運動量が 多くて 靴が はやく 擦り減る－jida 今は 靴が 擦り減った  
 運動量が多くて靴がはやく擦り減ってきた。今は靴が擦り減った。

- b \*운동량이 많아서 신이 빨리 닳았다. 이제는 신이 닳아졌다.

Undongnyangi manaseo sini ppalli daratda. ijeneun sini darajyeotda  
 運動量が 多くて 靴が はやく 擦り減った 今は 靴が 擦り減る－jida  
 運動量が多くて靴がはやく擦り減った。今は靴が擦り減ってきた。

一方、円山（2009）は、＜状態変化＞の意味をあらわす<지다 jida 構文>について、すべての先行用言が状態アスペクトに該当するという顕著な特徴が見られるとして、以下の例をあげている。

- （35）a 햇볕에 타서 얼굴이 빨개졌다.

Haetbyeote taseo eolguri ppalgaejyeotda  
 日差しに 焼けて 顔が 赤い－jida  
 日に焼けて顔が赤くなった



b \*얼굴이 빨갱고 있다.

Eolguri ppalgako itda

顔が 赤くて いる

顔が赤くている

c 햇볕에 타서 얼굴이 {일주일동안/\*일주일만에} 빨갱다.

Haetbyeote taseo eolguri {iljuildongan/\*iljuilmane} ppalgaetda

日差しに 焼けて 顔が {一週間/\*一週間で} 赤かった

日差しに焼けて顔が {一週間/\*一週間で} 赤かった

(3 5a) は「빨갱다 ppalgata 赤い」という形容詞を先行用言とする状態変化文で、この形容詞は (3 5b) のように動作の継続・進行を表す「고 있다 go itda ている」と共起できないとする。また、(3 5c) をあげ、時間的幅を表す副詞「일주일동안 iljuildongan 一週間」と共起できるのに対して、限定された時間を表す副詞「일주일만에 iljuilmane 一週間で」とは共起できないとしている<sup>32</sup>。

しかし、本稿で<状態変化>の意味を表す<지다 jida 構文>の【D タイプ】の動詞らは円山 (2009) で共起できないとする動作の継続・進行を表す「고 있다 go itda ている」との共起も、限定された時間を表す副詞「일주일만에 iljuilmane 一週間で」との共起も以下の (3 6 – 3 7) に見るように可能である。

(3 6) a 얼음이 얼고 있다.                      b 얼음이 일주일만에 얼었다.

Eoreumi eolgo itda

Eoreumi iljuilmane eoreotda

氷が 凍って いる

氷が 一週間で 凍った

氷が凍っている

氷が一週間で凍った

(3 7) a 신이 닳고 있다.                      b 신이 일주일만에 닳았다.

Sini dalsso itda

Sini iljuilmane daratda

靴が 擦り減って いる

靴が 一週間で 擦り減った

靴が擦り減っている

靴が一週間で擦り減った

<sup>32</sup> 他に「없다 eopda ない、덜하다 deolhada なくなる、닳다 damda 似ている」を状態変化用法の例としてあげている。

4. 3. 5 <自発>の意味が中心になる<지다 jida 構文>

【E タイプ】

떨어지다 ddeoleojida 落ちる、사라지다 salajida (い) なくなる、쓰러지다 sseuleojida/넘어지다 neomeojida 倒れる、부러지다 buleojida 折れる、빠지다 bbajida おぼれる、무너지다 muneojida 壊れる、퍼지다 peojida/벌어지다 beoreojida 広がる、터지다 teojida 破裂する・破れる、미끄러지다 mikkeureojida 滑る、일그리지다 ilgeureojida 歪む、흐트러지다 heuteureojida 散る・乱れる、찌부러지다 jjibureojida 潰れる、부서지다 buseojida 壊れる、구부러지다 gubureojida 曲がる など

このタイプは、動詞自体に既に「jida」が含まれているため、さらに<지다 jida 構文>を用いることはできない。また、対象・被動者を主語にとる非対格動詞であるから、主語になるものはその動作に対しては意図的な関与ができないのである。

(38) a 나뭇잎이 떨어졌다.

Namunnipi ddeoleojyeossda.

木の葉が 落ちた

木の葉が落ちた

b 전봇대가 쓰러졌다.

Jeonsinjug a sseuleojyeossda.

電柱が 倒れた

電柱が倒れた

成光秀(1976)は、「떨어지다 ddeoleojida 落ちる、쓰러지다 sseuleojida 倒れる、깨지다 ggaejida 割れる、꺼지다 ggeojida 消える」のように、形態上、<지다 jida 構文>を取りながらも、元の動詞が意識されないものは本動詞と見なしているが、「깨지다 ggaejida 割れる、꺼지다 ggeojida 消える」は、(5c) であげた通り、元の動詞(깨다 kkeda 割る、끄다 kkuda 消す)が存在する。次の(39)は、コップを割ろうとするつもりも、火を消そうするつもりもなかったのに、そのようになった、という意味を表す。

(39) a 컵이 깨졌다.

Keobi ggaejyeossda.

컵이 깨어－jida

컵이割れた

b 촛불이 꺼졌다.

Chosbuli ggeojyeossda.

蠟燭の火が消す－jida

蠟燭の火が消えた

一方、(40)は、動作主がカップを割ったり火を消したりする意図があった場合で、文中に「에 의해 euihae によって」動作主が示されると、＜受動＞の意味を表すことになる。

(40) a 컵이 太郎에 의해 깨졌다.

Keobi taroe uihae ggaejyeossda.

컵이 太郎に よって 割る－jida

컵이 太郎によって割られた

b 촛불이 太郎에 의해 꺼졌다.

Chosbuli taroe uihae ggeojyeossda.

蠟燭の火が 太郎に よって 消す－jida

蠟燭の火が 太郎によって消された

#### 4. 3. 6 <지다 jida 構文>が用いられない動詞

以上、<지다 jida 構文>が用いられる動詞の分類を行ってきたが、韓国語の動詞の中には、<지다 jida 構文>が用いられない動詞の一群もある。これを【Fタイプ】とする。

##### 【Fタイプ】

보다 boda 見る、듣다 deudda 聞く、모르다 moleuda 分らない

このタイプの動詞は、<지다 jida 構文>を用いることができない。このタイプのうち、「보다 boda 見る、듣다 deudda 聞く」には、＜自発＞の意味を表す「보이다 boida 見える、들리다 deullida 聞こえる」という動詞がある。一方、「알다 alda 分かる、모르다 moleuda 分らない」の場合は、「～ようとする」という意図を持つ表現が不可能であり、主語にくるものによる「コントロール」のできない動詞である。

ただし、「보아지다 boajida 見る－jida」は、本来の意味である「見る」の意味ではない場合、以下の例のように<지다 jida 構文>を用いることも可能である。

(4 1) A:너 요새 선배랑 자주 만나더라.

Neo yosae seonbaerang jaju mannadeora

あなた 最近 先輩と よく 会ってるのね

あなた、最近先輩とよく会ってるのね

B:너무 깊게 생각 안하려고 하니까 편하게 봐지네.

Neomu gipge saenggak anharyeogo hanikka pyeonhage bwajine

あまり 深く 考えないようにしたら 気楽に 見る-jida

あまり深く考えないようにしたら気楽に会えるよ

(4 2) a 비안도 해저유물은 제작기법으로 보아 12 세기의 유물로 보아진다.

Biando haejeoyumureun jejakgibeobeuro boa 12segiui yumullo boajinda

飛雁島（地名）海底遺物は 制作技法で 見て 12 世紀の 遺物と 見る-jida

飛雁島の海底遺物は制作技法で見て おおよそ 12 世紀の遺物と考えられる

b 시란 쓰기 쉽다면 쉽고 어렵다면 어렵다고 보아진다.

Siran sseugi swipdameon swipgo eoryeopdameon eoryeopdago boajinda

詩は 書きやすいと思えば 書きやすく 難しいと思えば 難しいと 見る-jida

詩は書きやすいと思えば書きやすく、難しいと思えば難しいと思われる

(4 1) は、「会う」の意味として、(4 2) は「考えられる、思われる」の意味として用いられた「보다 boda 見る」の<지다 jida 構文>の例である。

## 5. 第3章のまとめ

우인혜 (Woo 1997) によると、<지다 jida 構文>は肯定文よりは否定文の場合がもっと自然であるとしている。

(4 3) a ?나는 울어진다.

Naneun ureojinda

私は 泣く-jida

私は泣ける

b 나는 울려고 해도 안 울어진다.

Naneun ullyeonggo haedo an ureojinda

私は 泣こうと しても 泣けない

私は泣こうとしても泣けない

(44) a ?아이가 업어진다.

Aiga eobeojinda

子供が おんぶする－jida

子供がおんぶできる

b 아이가 쉽게 업어지지 않는다.

Aiga swipge eobeojiji aneunda

子供が 簡単に おんぶできない

子供が簡単におんぶできない (子供をおんぶすることが簡単にできない)

(43b－44b) は、「울다 ulda 泣く」「업다 eopda おんぶする」の<지다 jida 構文>の否定文であり、不可能の意味を表している。なお、本章で取り上げた【A～E タイプ】の動詞も否定文にすると、不可能の意味を表す。これは、渋谷 (1993) の自発についての言及とも関係があると思われる。渋谷 (1993) は自発について、肯定の場合は、話し手の期待 (待ち望み) に反するあるいは関与しないかたちでことがらが起こるが、否定の場合は、話し手の期待に反するあるいはしないかたちでことがらが起こらないことを表すとしている。

以上、本動詞「jida」の持っている<自発>の意味に基づく<지다 jida 構文>が、どのような意味を持つかについて見てきた。<지다 jida 構文>がどのような意味を持つかは、元々の動詞自体の性質と関係があることが分かった。以下に一覧として示すことでまとめとする。

(45) 動詞のタイプによる<지다 jida 構文>

	受動	可能	状態変化	自発	動詞
A タイプ	◎	×	×	○	他動詞 (対になる自動詞が存在しない他動詞)
B タイプ	○	○	×	○	他動詞 (対になる自動詞が存在する他動詞)
C タイプ	×	◎	×	○	自動詞 (非能格動詞)
D タイプ	×	×	◎	○	自動詞 (状態変化動詞)
E タイプ	×	×	×	◎	自動詞 (非対格動詞)
F タイプ					보다 boda 見る、듣다 deudda 聞く、모르다 moleuda 分らない

## 第 4 章 「てくる・ていく」そして、<되다 doeda 構文>と<지다 jida 構文>

### 1. はじめに

池上 (1981) は、起こった出来事の中から動作主 (=使役主) を取り出し、それに焦点を当てる形で表現する<「スル」的表現>に対して、<「ナル」的表現>とはそれを表に出さないで事の成り行きだけに注目する表現であると述べている。すなわち、<「スル」的表現>が<行為>に注目する表現であるのに対して、<「ナル」的表現>は<変化>に注目する表現であり、したがって、ある出来事が起こったという現象を表すのである。本章は、「てくる」「ていく」という補助動詞を中心にして、<되다 doeda 構文>と<지다 jida 構文>について検討する。

補助動詞とは、他の語について補助的に用いられ、独立して用いられる時とは異なる意味を表す動詞である。この補助動詞の用法が<「ナル」的表現>とつながるものとして寺村 (1984) があげられる。

寺村 (1984) には、「てくる」をアスペクト形式としてみなすことに、二つの判定の条件をあげている。(V は先行動詞を表す)

(i) 「X が～テクル」はいえるが、「X がクル」とはいえないもの (つまり X が V と共起関係をもち、「クル」とはもっていない)

(ii) 「～テクル」が、X の物理的移動でなく、「X が V スル」という現象の話し手への接近を表すものである。V の表す事象をひとつの幅のある事象、線的な事象、しかもその線の片端に話し手がおり、事象がその線上を話し手のほうに向かって進行する、ということを表す文法形式に変身している。また、「V テクル」のアスペクト的意味については、V の表す事象が、物理的・心理的に、自分に向かって次第に接近するとみている。事象全体をひとつの幅をもったものと捉える点でアスペクトの一種であり、その幅の片端 (‘こちら側’) に自分が立っている、という点で他のアスペクトとは区別されるとしている。現象の接近には、対象 (‘てくる」の主体) が移動し接近してくる場合と、感覚で捉えられた現象の変化 (物理的変化、心理的変化) の場合があるが、この変化に関わる「てくる」を韓国語にすることは、<되다 doeda 構文>と<지다 jida 構文>が用いられる。

韓国語にも日本語と同じように、補助動詞という形式によって表現にある意味を添加する場合がある。動詞が補助動詞と結合し、各補助動詞の表す機能が作用することで具体的な意味を添えるのである。その形式は連結語尾「고 go ・ 아 a/어 o」(以下、「고 go ・ 아

a) とする) と補助動詞の結合形で成り立つのである。この「고 go ・ 아 a」は、日本語の「て」に当たるものである。まず、「고 go ・ 아 a」と「오다 oda くる」の例をあげる。

(1) a 太郎은 학교에서 돌아 오는 길에 라면을 먹고 왔다.

Taroneun hakgyoeseo dora oneun gire ramyeoneul meokgo watda

太郎は 学校から 帰って 来る 道で ラーメンを 食べる-go きた

太郎は学校の帰りにラーメンを食べてきた

b 일본인은 옛날부터 쌀을 주식으로 먹어 왔다.

Ilboneun yetnalbuteo ssareul jusigeuro meogeo watda

日本人は 昔から 米を 主食として 食べる-a きた

日本人は昔から米を主食として食べてきた

日本語の文では「食べてきた」という一つの表現で、移動の意味もアスペクトの意味も表すことができるのに対して、韓国語の文では(1a)の移動の意味を表す場合は「고 go」を、(1b)のアスペクトを表す場合は「아 a」のように使い分けていることがわかる。しかし、このような例だけで移動の意味を表す場合は「고 go」が用いられ、アスペクトを表す場合は「아 a/어 o」が用いられるという断定はできない。生越(1987)は、「て」に対応する「고 go ・ 아 a」について次の(2)のようにまとめる。

(2) 接続助詞「て」と連結語尾「고 go ・ 아 a」

a 並列・対比を表す「て」には「고 go」が対応する

① 日本は、夏は暑くて、冬は寒い。

② 일본은 여름은 덥고 겨울은 춥다.

Ilboneun yeoreumeun deopgo gyeoureun chupda

暑い-go

b 因果関係を表す「て」には「아 a」が対応する

① 海は山に遮られて見えなかった。

② 바다는 산으로 막혀 보이지 않았다.

Badaneun saneuro makhyeo boiji anatda

遮る-a

c 継起・状況を表す「て」には「고 go」が対応したり、「아 a」が対応したりする

(i) ① 春生は彼女に従いて、歩道橋を渡り、湖畔の道路を歩き始めた。

②하루미는 마꼬를 따라 콘크리트 다리를 건너 호반의 도로를 걷기 시작했다.

Harumineun makkoreul ttara konkeuriteu darireul geonneo hobanui dororeul geotgi sijakhaetda

従う-a

(ii) ①さて父は私を導いて、うやうやしく法水院の縁先に上がった。

②그러자 아버지는 나를 이끌고 정중하게 호즈이잉 마루로 올라섰다.

Geureoja abeojineun nareul ikkeulgo jeongjunghage hojeuiing maruro ollaseotda

導く-go

(2 a-b) は、連結語尾「고 go」と「아 a」が明らかに異なる意味を表しているのに対して、(2 c) の継起・状況を表す「て」に対応する場合は、連結語尾「고 go」と「아 a」の中で、どちらを用いることも可能であり両者の意味の差がはっきりと見えないのである。次は、吉川（1989）の「てくる」「ていく」の用法・分類に基づいて「고 go・아 a」について詳しくみる。

吉川（1989）は、「てくる」「ていく」について、空間的移動を表す場合とアスペクトを表す場合との二つに分けている。まず、空間的移動を表す場合の「て」に対応する「고 go・아 a」についてみる。(3) は吉川（1989）によるもので、「てくる」が空間的移動を表す場合を次の三つのパターンで分類している。

(3) 空間的移動を表す「てくる」

a 「クル」前にする動作

(例) ご飯を食べてくる

(i) 먹고 (ii) \*먹어

食べる-go 食べる-a

b 「クル」方法

(例) 歩いてくる

(i) \*걸고 (ii) 걸어

歩く-go 歩く-a

c 「クル」時の状態

(例) 本を持ってくる

(i) 가지고 (ii) 가져

持つ-go 持つ-a

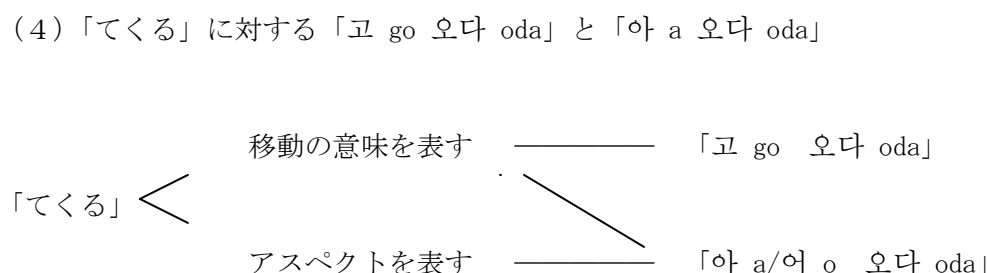


(3a) は「クル」という移動の前に「食べる」という動作が行われている。(3b) は移動の「クル」と「歩く」という動作が一緒に行われるのである。(3c) は、「고 go ・ 아 a」が両方とも用いられるのは、先行する動詞の意味によると考えられる。「持つ」という動作が「クル」の前に行くことまでで終わるのか、「クル」時の状態まで及ぶのかによって両方とも使われるのである。(i) の「고 go」は「持つ」ことを「クル」前にする動作として表していて、(ii) の「아 a」は「クル」時の状態を表しているのである。(3c) に関しては、日本語においても韓国語と同じように二つの意味があると考えられる。松本 (1996) は、複合動詞述語である「持って行く」を例として説明している<sup>33</sup>。「彼はその本を学校に持って行った」という例文である。その際、「しっかり」という副詞を入れて説明している。

(i) の場合は、「彼はその本をしっかり持って、学校に行った」のように、「しっかり」という副詞は「持つ」だけに関わっている。また「持つ」と「イク」の間に他の語の挿入が可能である。それに対して、(ii) は「彼はその本を学校にしっかり持って行った」のように、「て」形と移動動詞が表す内容の間に一つの出来事とみなされるような密接な関係(意味的に一語となり得る場合)があるとしている。「学校に行く」という移動と「本を持っている」という状態とが同じ持続時間において成立しなければならない、すなわち最後まで本を持って学校に到達しなければならないとしている。

ここまでは、「てくる」の移動の意味を表す場合の「고 go ・ 아 a」についてみたが、アスペクトを表す場合は連結語尾として「고 go」を使わず、「아 a」のみ用いられる。

「고 go」と「아 a」というのは、上記の生越 (1987) にも見るように、その用法が重なる場合があるが、「てくる」に対する「고 go 오다 oda」と「아 a 오다 oda」はおおむね次の (4) のように表すことができる。



<sup>33</sup> 松本 (1996) は「くる」ではなく、「いく」をあげているが、移動動詞であることから説明には差し支えがないものとする。

本章は、補助動詞の中でも「てくる」「ていく」のアスペクト的機能とこれに対応する韓国語の「아 a 오다 oda」「아 a 가다 gada」<sup>34</sup>の機能についての考察に焦点を当てるので、(4)の中で、「てくる」の「て」に対応するのは「아 a」のみに限ることになる。

## 2. 研究の対象

「てくる」「ていく」を韓国語と対照する際、次のような相違点が生じる。

第一に、「てくる」とそれに対応する「아 오다 a oda」の場合である。

(5) 太郎はその問題の解き方がだんだん分かってきた。

\*太郎는 그 문제의 풀이법을 점점 알아 왔다.  
Tarouneun geu munjeui puribeobeul jeomjeom ara watda  
太郎は その 問題の 解き方を だんだん 分かる-a きた

一般に、アスペクトを表す「てくる」が「아 오다 a oda」に対応するとされているが、(5)のように韓国語は非文である。「아 오다 a oda」にすると非文になる動詞として「分かる」の他、「変わる、異なる、違う、似る」などがある。この類の動詞の場合、何故非文になるのか、またその代わりにどのような表現を用いるのかについて4. 1. 5節で検討する。

第二に、「ていく」とそれに対応する「아 가다 a gada」の場合である。

(6) a 太郎は学校にご飯を食べていった。

太郎는 학교에 밥을 먹고 갔다.

Tarouneun hakgyoe babeul meokgo gatda

太郎は 学校に ご飯を 食べる-go いった

b 太郎는 밥을 거의 다 먹어 갔다.

Tarouneun babeul geoui da meogeo gatda

太郎は ご飯を ほとんど すべて 食べる-a いった

\*太郎はご飯をほとんど全部食べていった

(太郎はご飯をほとんど食べ終わっている)

<sup>34</sup> 以下、「아 오다 a oda」、「아 가다 a gada」と省略して表す。

移動を表す(6a)の場合は、「ていく」と「아 가다 a gada」が対応しているが、(6b)の場合、日本語は「ていく」は用いることができないのである。

第三に、「てくる」「ていく」は「クル」「イク」に先行するのが主に動詞であるが、形容詞は直接先行することができず、「～くなって、～になって」の形を用いるのである。しかし、韓国語の場合は形容詞の場合も動詞と同じ形をとっている。

(7) 방이 점점 밝아 왔다. / 잤다.

Bangi jeomjeom balga watda / gatda

部屋が だんだん 明るい-a きた / いった

\*部屋がだんだん明るくきた/いった

(意識：部屋がだんだん明るくなってきた / いった)

このような両語の相違点が何に起因するのかのついては、まず(i)「クル」と「오다 oda 来る」あるいは「イク」と「gada」の意味自体の違いによる可能性、(ii)＜変化＞に対する捉え方の違いと点に注目する。その際、先行する動詞の種類にも関係があるとみる。次の2節では、「てくる」「ていく」と対応する韓国語の「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」の先行研究をあげる。

### 3. 「てくる」「ていく」の先行研究

「てくる」「ていく」の先行研究としてあげた吉川(1989)は、「てくる」「ていく」の用法として、移動を表す場合とアスペクトを表す場合に分けている。同じような立場で「てくる」「ていく」を研究したものとして森山(1988)があげられる。3.1では、「てくる」「ていく」が移動を表す場合とアスペクトを表す場合に分けている吉川(1989)と森山(1988)をみる。3.2では、吉川(1989)と森山(1988)に対し、その一部に注目して捉え直している森田(1994)についてみる。3.3では「てくる」「ていく」が各々一つの構文で表れる場合、先行する動詞と「クル」「イク」との関係が継起的であるか非継起的であるかという捉え方をしている益岡(1992)をみる。

#### 3.1 <アスペクト>を表す

吉川(1989)と森山(1988)は、「てくる」「ていく」を、移動を表す場合とアスペクト

を表す場合に分けている。まず、アスペクトを表す「てくる」「ていく」について、吉川（1989）を（8）の表で示す。

（8）アスペクトを表す「てくる」「ていく」

「てくる」	「ていく」
(A) 出現の過程 (例) ことばは生活の中から生まれてきます。	(A) 消滅の過程 (例) 心細く思いながら、きえていく白鳥のむれを見送りました。
(B) 過程（動作・作用）のはじまり (例) そのうちに、雨が降ってきました。	
(C) 変化の過程 (例) だんだんお腹がすいてきました。	(C) 変化の過程 (例) けれども、病気は、ますます重くなっていきました。
(D) ある時点までの継続 (例) おたがいにはげまし合ってきた、この年月。	(D) ある時点からの継続 (例) うまく宣伝して、新しい観光地として発展させていけばいい……

吉川（1989）は＜（C）変化の過程＞の場合、変化動詞に「てくる」のついたものが＜（B）過程のはじまり＞を表す意味になることがあり、さらに＜（A）出現の過程＞を表す動詞に「てくる」がついたものが＜（B）過程のはじまり＞を表す意味になることがあるとしている。ということは、（A）、（B）、（C）は＜変化＞という意味でつながっているとも言えるだろう。次に、「てくる」「ていく」を、＜移動・方向表現の場合＞、＜アスペクト的な意味を表す場合＞に分けていることから、吉川（1989）と同じように分類しているとみなされるものとして、森山（1988）をあげる。森山（1988）は、アスペクト的な「てくる」「ていく」の意味を四つに分類している。

（9）アスペクト的な「てくる」「ていく」の意味の四分類

①変化の漸次的な進行である進展的な意味を表すもの。これは、動きが変化を含むものであり、過程があることが前提となっている。「だんだん」などの副詞句と共起する点がその特徴となる。（例文：秋が深まるにつれて、次第に私の心からもセキセイインコのことは薄れていった）

②ある時点以前（視点が現在ならば過去）からの動作あるいは、ある時点以後（視点が現

在ならば未来) への動作の継続を表すもの。「今まで」、「今から」などの副詞句と共起する点がその特徴となる。

③自然現象の始まりを表すもの。出来事の出現を表す用法では、「雨が降ってきた」のように、出現することは自然的なものである。ただし、出現を表すというところが、同時に過程を持つ(継続的)という条件を必要としている。

④もともと性質を表す述語が、変化的に使われる場合。例えば「様子が違ってくる」のように、動き的でないものを変化としてとらえるが、ある意味で始発的な意味である。

森山(1988)の分析によれば、アスペクト的な意味のものは、時間的に過程を有するものとし、過程がない動き(例えば、「死んでいく」)であると判断できるならば、アスペクト形式でないとしている。また、このような意味決定の条件がない場合は、多義的な意味になっていると認めざるをえないとしている。例えば「新聞配達してきた」のように、過程のある移動動作なら、アスペクト的なのかどうかは、極めて判断しにくいことになり、この場合の「てくる」は、多義的ということにしている。

森山(1988)を吉川(1989)と比べてみると、吉川(1989)の<(A)出現の過程>と<(B)過程のはじまり>は③として一つにまとめているが、一方<(C)変化の過程>は①と④に分けられており、<(D)ある時点までの継続・ある時点からの継続>は②に相当すると言える。次の3.2では吉川(1989)と森山(1988)に対して、その一部に注目して捉え直している森田(1988)についてみる。

### 3.2 <話し手側の意識と状況>を表す

森田(1988)は、<移動の目的を表す言い方><sup>35</sup>と<話し手側の意識と状況の変化を表す言い方>という二つに分類している。すなわち、森田(1988)は、吉川(1989)と森山(1988)のアスペクトを表す「てくる」「ていく」を<話し手側の意識と状況の変化を表す言い方>として捉え直していると考えられる。

<sup>35</sup> <移動の目的を表す言い方>については、先行する動詞(「て」形)は行為であり、その後に付く「くる」「いく」は移動を表しているとし、動詞の種類によって次のように分類されている。

(A) 行為と移動が別々に行われる場合

集める、洗う、言う、おく、教わる、調べる、食事する、捨てる、取る、残す、見るなど

(B) 行為と移動が同時に行われる場合

a. 移動の手段や状態を表す 歩く、泳ぐ、走る、這う、送る、抱く、連れる、乗る、運ぶなど

b. 移動そのものを表す 上がる、降りる、落ちる、変える、訪ねる、登る、戻るなど

c. 移動の目的を表す 散歩するなど

＜話し手側の意識と状況の変化を表す言い方＞については先行する動詞（「て」形）の表す動作や現象に対して、話し手側に向かって来る現象には「てくる」を、話し手側から遠ざかって行く現象には「ていく」が用いられ、同じ現象でありながら「てくる」「ていく」が使い分けられているのは、その現象に対する話し手の意識や捉え方の違いに由来すると述べている。その際、「てくる」は、状況の出現や新たな状況変化を迎え受け止める気分を表現するとしている。また「ていく」はすでに生じた事態の進展・進行意識が強く、それを見つめる気持ちになることから、話し手の意志を越えた力として事態を捉えるとしている。外的な力、話し手の意思を越えた意識のある「ていく」で自身の心境や感覚を表すことによって、第三者的に自己を眺める態度が生まれると述べている。

次の3. 3では、「てくる」「ていく」に先行する動詞と「クル」「イク」との関係が、継起的であるか非継起的であるかという捉え方をしている、益岡（1992）をみる。

### 3. 3 一つの構文の中での「てくる」「ていく」

益岡（1992）は、「構文の内的連関」という用語を用いて、一つの構文が表す意味は、いくつかの個別的な意味の集合として捉えられるので、このような個別的な意味相互の間にはいかなる関係が構成され、全体としてどのような意味のつながりが見出されるのかというのを問題とし、その対象として「てくる」「ていく」をあげている。

まず、先行する動詞と「クル」「イク」の間に「それから」のような語の挿入が可能である場合を＜継起型＞とし、それが不可能な場合を＜非継起型＞として分けている。以下、これを（10）に示す。

#### （10）＜非継起型＞と＜継起型＞の分類

＜非継起型＞（「それから」のような語の挿入が不可能な場合）

A. 空間的接近・離反 …「クル」「イク」が補助動詞構文を構成する一方で、本動詞としての性質も保持している （例）ボールがベンチから転がってきた。

B. 継続・状態変化 …「これまで」「これから」などを用いる

（例）この問題をこれまでずっと考えてきた。 これからも考えていきたいと思う。

C. 出現・消滅 …この意味は、「生じる」「消える」などの動詞によって表されていることであり「クル」「イク」は接近と離反のイメージを付加することによってVに内在する出現・

消滅の概念を強調する働きをもつにすぎない

D. 行為の受領（「てくる」のみ）<sup>36</sup>…「クル」が付加することで、行為が当事者に向けてなされるという状態が比喩的に表される（例）委員会が調査結果を知らせてきた。

<継起型>（「それから」のような語の挿入が可能な場合）

E. 空間的接近・離反を伴う行為を表すもの

（例）太郎が土産を買ってきた。きょうは、山田屋で弁当を買っていきなさい。

F. 異なる時空間での行為・出来事を表す（「てくる」のみ）

…「先週、琵琶湖で水上スキーを楽しんできた」という文で、「クル」を除いても客観的な意味内容の面で大差はないが、「クル」の付加によって異なる時空間で起こった事態を表現の場に結びつける働きをしている

益岡（1992）は、本動詞としての「クル」「イク」は「空間的方向性」を表すが、「てくる」「ていく」において本動詞としての性質が保持されるのはAの<空間的接近・離反>とEの<空間的接近・離反を伴う行為を表すもの>だけであって、その他は空間性に代わる時間・心理的方向性を表しているとみている。そのまとめとして、「てくる」「ていく」構文に見られる意味の連関を次のような意味の拡張という観点から捉えている。

<本動詞 → 空間的方向性(A, E) → 時間的方向性(B, C) → 心理的方向性(D, F)>

#### 4. 「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」の先行研究

韓国語の「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」は、一般に<持続相>を表すとされている。ここでは、日本語との対照のため、(8)の吉川（1989）のアスペクトを表す「てくる」「ていく」を簡略化してあげる。

(A) 出現・消滅の過程

(B) 過程（動作・作用）のはじまり

(C) 変化の過程

(D) ある時点までの継続・ある時点からの継続

<sup>36</sup> 古賀（2008）で詳しく扱っている。

韓国語の場合、손세모돌 (Son 1996)、서정수 (Seo 1996) は、「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」を補助動詞の中でも<持続>の範疇に属するものとしている。特に、손세모돌 (Son 1996) は、「아 오다 a oda」の基本的な意味を「時間的指向点」を持つ「持続」としている。以前から現在までの持続を表すことによって「現在」という基準点を持つと述べている。これは吉川 (1989) の<(D) ある時点までの継続>と言えるだろう。「아 가다 a gada」については、「完成という到達点指向」の「持続」としている。この中には「時間的な指向点」も含まれているので、吉川 (1989) の<(D) ある時点からの継続>とつながる。また、その他に文脈の意味として①進行、②状態変化の持続をあげているが、これは<(C) 変化の過程>と関係があると思われる。

したがって、アスペクトを表す日本語の「てくる」と韓国語の「아 오다 a oda」をくらべると、日本語の<(A) 出現の過程>と<(B) 過程 (動作・作用) のはじまり>は、韓国語にはないことが分かる。それを表現するときは他の表現 (「～始める」) を用いるのである。一方、アスペクトを表す日本語の「ていく」に対する「아 가다 a gada」の用法は<(A) 消滅の過程>を表すのに用いられる。

次節では、日本語と韓国語との対照の際、その違いが分かりやすいと思われる吉川 (1989) の分類にしたがって説明を行う。また、両語において相違点があることとして、益岡 (1992) の<心理的方向性>を表す「てくる」を用いる。これは、3. 2の森田 (1988) の<話し手側の意識と状況の変化を表す言い方>ともつながるものとする。では、次の5節では、日本語と韓国語との対照の際に生じる問題点についてみる。

## 5. 「てくる」と「아 오다 a oda」

まず、補助動詞の意味を記述するため、3. 1. 1で「クル」と「오다 oda 来る」の基本的な意味を明らかにし、それに基づいて補助動詞の意味と機能について述べることにする。そして3. 1. 2からは「てくる」と「아 오다 a oda」についてみるが、その際先行研究として取り上げた吉川 (1989) の分類にしたがって説明する。

### 5. 1 「クル」と「오다 oda 来る」の辞書的意味<sup>37</sup>

本動詞「クル」と「오다 oda 来る」は、<動作が基本点である話し手自身の領域に入る

<sup>37</sup> 主な辞書として、『国語辞典言泉』(1986 小学館)、『朝鮮語大辞典』(1986 角川書店)、『우리말 큰사전』(1992 어문각)を参考にした。



>という意味を表す。人間の行動の基本的な構造は<いま・ここ・私>が原点であると言える。言語事象においても、話し手の<いま・ここ>を中心にして、聞き手を含む他者や話題になっている出来事が相対的に位置づけられるのである。すなわち、空間的な移動を表す「クル」は、話し手の<ここ>を着点にした移動であるのに対して、アスペクトを表す場合は、時間軸において<いま>を着点にすると言える。本来の意味が「移動」である「クル」は、移動を展開する過程で、抽象的な意味に転移されるのである。このように日本語の「クル」と韓国語「오다 oda 来る」の基本的な意味が同じであるにもかかわらず、アスペクトを表す場合に異なる点が生じるということは、その基本的な用法からの意味の拡張の仕方が両語において異なると考えられる。空間的移動を表す典型的な動詞である「クル」とそれに対応する韓国語の「오다 oda 来る」の辞書的な意味は、次の(11)のようにまとめられる。

(11) 「クル」と「오다 oda 来る」の辞書的な意味のまとめ

	「クル」	「오다 oda 来る」
①空間的移動	学校にくる	학교에 오다 Hakgyoe oda
②時間的移動	春がくる	봄이 오다 Bomi oda
③生理的な現象の生起・出現	痛みが/?眠気がくる	아픔이/졸음이 오다 Apeumi/joreumi oda
④原因・由来	英語からきた言葉	영어에서 온 말 Yeongeoeseo on mal
⑤心理的な現象の生起・出現	頭にくる、ぴんとくる	×

(11③)の<生理的な現象の生起・出現>の例としては、「잠이 오다 Jami oda 眠りがくる」という表現がある。また韓国語の「오다 oda 来る」は(11⑤)の<心理的な現象の生起・出現>を表す意味を持たない。また、日本語では、話し手が存在していない場所に対しても、「クル」が使える場合がある。話し手は自分の視点を移動の終了点におくことによって、その終了点にいない聞き手に対して「クル」を使うことが可能である。

『新潮国語辞典』(第1版)に「クル」は、<1. こちらをめざして近づく>の他に、<2. 他の場所に向かって近づく(心をその場所に置いた気持ちでいう)>と記されている。次の(12)は、<2. 他の場所に向かって近づく(心をその場所に置いた気持ちでいう)>例である。

(1 2) 今から京都に行くけど、一緒に来る? (東京駅で偶然会った友達との会話)

韓国語の場合、話し手は自分がいる領域以外に対しては「クル」を用いることができない。したがって、(1 2) のような場合には「クル」が使えなく、これを表現するときは(1 2)' のように「イク」の意味である「가다 gada」を用いる。

(1 2)' 지금부터      京都에 가는데      같이      { \*올래? / 갈래? }

Jigeumbuteo      京都 e      ganeunde      gachi      { \*ollae? / gallae? }

今から      京都に      行くけど      一緒に      くる      いく

すなわち、日本語のように移動の終了点への視点移動は不可能である。ただし、話し手の領域として認められている「家、勤め先など」は例外である（この点に関しては日本語も同じである）。このように「クル」と「오다 oda 来る」の辞書的意味をまとめた上で、5. 2からは「てくる」と「아 오다 a oda」についてみることにする。その際、吉川(1989)のアスペクトを表す「てくる」の分類にしたがって、5. 2では<出現の過程>、5. 3では<過程のはじまり>、5. 4では<ある時点までの継続>、最後の5. 5では<変化の過程>について考察する。

## 5. 2 <出現の過程>

吉川(1989)の分類に基づいて韓国語との違いをみる。(1 3a)の「生まれる」は韓国語にすると、「태어나다 taeonada」であり、(1 3b)の「あらわれる」は「나타나다 natanada」である。「태어나다 taeonada」と「나타나다 natanada」には、「나다 nada 出る」という意味が含まれているので、「오다 oda 来る」とは共起できない。

(1 3) a 子供が生まれてくる。

\*아이가 태어나 오다.

Aiga      taeona      oda

子供が      生まれる-a      くる

b 薬の効果があらわれてきたらしい。

\*약효가가 나타난 온 것 같다.

Yakhyogwaga      natanan      on      geot      gatga

薬の効果が      あらわれる-a      きた      の      ようだ

(14) a 聞こえる → 聞こえてくる : 들리다 → 들려 오다  
deullida deullyeo oda  
聞こえる-a くる

(13)のように、＜生起・出現＞の意味を持つ動詞と「오다 oda 来る」は結びつかない。(14c)の「나다 nada 出る」という動詞の場合も同じである(他に、「소리가 나다 soriga nada 音がする」もある)。したがって、感覚を表す動詞であっても、動詞の中に＜生起・出現＞の意味が入っていると、「오다 oda 来る」と共起できないのである<sup>39</sup>。

「雨・雪」の「降る」は、韓国語にする時、「내리다 naerida 降る」あるいは「오다 oda 来る」の両方が用いられ、これらは同じ意味を表す<sup>40</sup>。したがって、「降ってくる」のように表現すると、同じ「降る」を繰り返すことになるので、非文になる。

94

「雨が降ってきた」のような＜始動アスペクト＞を表す表現を韓国語にするときは、「비가 내리기 시작했다 Biga naerigi sijakhaetda（雨が降り始めた）」のように「始める」という動詞を使わなければならないのである。なお、堀江・塚本（2008）は、5. 2の＜出現の過程＞と5. 3の＜過程のはじまり＞を、各々＜出現＞と＜開始＞とし、韓国語の文の「아 오다 a oda」の成立が困難となるのは、日本語よりも元の物理的な移動の意味が保持されて、文法化が生じていないとしている。

#### 5. 4 ＜ある時点までの継続＞

「てくる」と「아 오다 a oda」は、両語とも＜過去のある時点から今まで＞という意味を表している。손세모돌 (Son 1996) は、韓国語の「아 오다 a oda」の基本的な意味を「時間的指向点」を持つ行為などの「持続」としている。＜ある時点までの継続＞（以前から現在までの持続）を表す用法は、「아 오다 a oda」の用法がよく分かるところである。次の（1 6 a）は「一年前から」という副詞句を入れた例で、（1 6 b）は、時間的意味を表す副詞句を省いた例である。

（1 6）a 太郎は一年前からその薬を飲んできた。

太郎는 일년 전부터 그 약을 먹어 왔다.  
 Tarouneun illyeon jeonbuteo geu yageul meogeo watda  
 太郎は 一年 前から その 薬を 飲む-a きた

b 太郎はその薬を飲んできた。

太郎는 그 약을 먹어 왔다.  
 Tarouneun geu yageul meogeo watda  
 太郎は その 薬を 飲む-a きた

（1 6 b）の日本語の場合は、二通りの解釈が可能である。すなわち、（i）「太郎は薬を飲んで、それからきた」<sup>41</sup>という空間的移動としての解釈と（ii）＜継続アスペクト＞<sup>42</sup>としての解釈である。つまり、本動詞「クル」の典型的な意味は空間的移動であるけれども、

<sup>41</sup> 韓国語で空間的移動を表す場合は、「飲んで」の「て」形が「고 go」になる。

（例）太郎는 그 약을 먹고 왔다.  
 太郎neun geu yageul meokgo watda  
 太郎は その 薬を 飲んで きた

<sup>42</sup> （ii）の解釈は、「今まで」などの時間的副詞がなくても可能である。

補助動詞「てくる」になると、空間的移動の意味も＜継続アспект＞の意味も表すことができる。一方、韓国語の場合は、「一年前から」という時間的経過を表す副詞句がない（16b）も＜継続アспект＞の意味のみを表す。次の（17）は、移動の様態を表す動詞の例である。

（17）a ここまで走ってきた。

여기까지 뛰어 왔다.

Yeogikkaji ttwiewo watda

ここまで 走って きた

b ここまで歩いてきた。

여기까지 걸어 왔다.

Yeogikkaji georeo watda

ここまで 歩いて きた

「クル」は話し手のいる場所（中心点）への移動を表すが、（17）のように、「てくる」（韓国語の場合は、「아 오다 a oda」）になると、移動するときどういう動きをしているのかという動きの様態を表す一方、過去のある時点から行われていた行為が今の時点で終了したということで、空間的移動のみならず時間性も含まれていると考えられる。移動を含む「クル」が完了したところで、移動のための動きである「走る」ことも完了するが、話し手の領域に着いた時点まで「走る」ことは継続していたという意味を表す。次の（18）は、「取り組む」という抽象的な意味としての「走る」の例である。

（18）会社のために1年前から走ってきた。

회사를 위해서 1년 전부터 뛰어 왔다.

Hoesareul wihaeseo lnyeon jeonbuteo ttwiewo watda

会社を ために 1年 前から 走って きた

（18）の「てくる」は、元々の空間的移動の意味から、「ずっと走って（取り組んで）今に至った」という意味のうち「走る（取り組む）」行為のみに焦点が残り、空間的移動の意味がなくなった例である。次の（19）は、移動の様態を表す行為として、「歌う、見る」の例である。

(19) a ここまで歌を歌ってきた。

\*여기까지 노래를 불러 왔다

Yeogikkaji noraereul bulleo watda

ここまで 歌を 歌って きた

b ここまで景色を見てきた。

\*여기까지 경치를 봐 왔다

Yeogikkaji gyeongchireul bwa watda

ここまで 景色を みて きた

(19) の「てくる」は、「ここ」という到達点に着くまでつづいた「歌う、見る」動作を表すのに対して、韓国語の場合は「아 오다 a oda」を用いると非文である。「クル」移動の様態としての意味を表すためには「-면서 -myeonseo ～しながら」という表現を用いるしかない<sup>43</sup>。移動の様態であっても、(17) の「走る、歩く」のような移動に欠かせない行為との差を見せる例である。韓国語の「아 오다 a oda」は、話し手の領域という空間的概念との結びつきにおいて制約があるといえる。「아 오다 a oda」に、もはや空間的移動の意味はない。次の(20)は、「아 오다 a oda」の継続アスペクトの例である。

(20) a 1年前からこの歌を歌ってきた。

1년 전부터 이 노래를 불러 왔다.

1yeon jeonbuteo i noraereul bulleo watda

1年 前から この 歌を 歌って きた

b 1年前からこの景色を見てきた。

1년 전부터 이 경치를 봐 왔다.

1yeon jeonbuteo i gyeongchireul bwa watda

1年 前から この 景色を みて きた

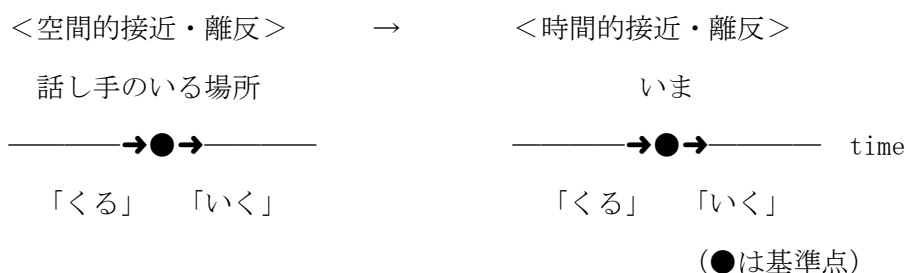
韓国語の「아 오다 a oda」は、「오다 oda 来る」という移動における様態のうち、移動するために欠かせない様態は時間的な概念および空間的な概念との結びつきが可能であるが、

<sup>43</sup> 「ここまでバスに乗ってきた」の場合は、「乗って」の「て」形は、「고 go」を用いる。

(例) 여기까지 버스를 타고 왔다.  
Yeogikkaji beoseureul tago watda  
ここまで バスを 乗って きた

移動と直接的に関係しない様態の場合は、時間的概念のみに共起する。しかし、日本語の場合は、(19)の時間性を含む空間的移動の「クル」に焦点をおく意味から、時間性だけに焦点が当てられると、(20)のように＜継続アスペクト＞を表すことになる。益岡(1992)は、「てくる」「ていく」も含む)が＜空間的方向性＞を表す意味から＜時間的方向性＞を表す意味に拡張するとしている。これを次の(21)に示す(「イク」については6.節でみる)。

(21) ＜空間的移動＞から＜時間的移動＞の意味の拡張



以上、「てくる」に対応すると思われる韓国語の「아 오다 a oda」についてみたが、＜出現の過程＞と＜過程のはじまり＞の場合は日本語のみにあることが分かる。それに対して、＜ある時点までの継続＞は「てくる」と「아 오다 a oda」は両方で表すことができる。

## 5. 5 ＜変化の過程＞

＜変化の過程＞の例として、吉川(1989)は「だんだんお腹がすいてきました」をあげている。「(おなかが) すく」は変化動詞のひとつであるが、「おなかがすいた」では変化の過程を表しているとは認めにくく、「てくる」が付くことによって、変化の過程の意味がはっきりとするとしている。韓国語の場合、「(おなかが) すく」<sup>44</sup>は動詞ではなく形容詞である。これは形容詞に「아 오다 a oda」が来る場合として、7.節で扱うことにする。ここでは両語の動詞を中心にして詳しくみる。寺村(1984)は、次の(22)の例をあげて＜心理的な変化＞としている。

(22) a その仕組みが分かってくる。

b 気持ちが沈んでくる。

<sup>44</sup> 他に、「重くなってくる、悲しくなってくる」などがあるが、これらも7.節で取り上げる。

寺村（1984）は、「クル」に先行する動詞の表す現象が心理的に自分に向かって次第に接近するとしている。また「てくる」とは、事象全体をひとつの幅をもったものと捉える点で、アスペクト性を表し、その幅の片端に自分が立っているという点で他のアスペクトとは区別されるとしている。したがって、（2 2 a）は、「仕組みが分かる」という事象全体が、「てくる」の付加によってひとつの幅をもった過程として捉えられ、またその事象が自分に向かって接近することで＜心理的变化＞としているのである。これは益岡（1992）が述べている「てくる」構文に見られる意味の拡張（＜本動詞→空間的方向性→時間的方向性→心理的方向性＞）のなかで、＜心理的方向性（「てくる」のみ）＞と共通する点であると考えられる。また、森田（1988）の＜話し手側の意識と状況の変化を表す＞も同じであると考えられる。日本語の「てくる」でこのような用法が可能であるのに対して、韓国語の場合（2 2）は「てくる」に対応する「아 오다 a oda」が用いられないのである<sup>45</sup>。「아 오다 a oda」が用いられない動詞として、「分かる、異なる、違う、似る、疲れる、混雑する、なれる、思えるなど」がある。このような動詞は「아 오다 a oda」の代わりに、＜되다 doeda 構文＞と＜지다 jida 構文＞を用いる。次の（2 3）は、（2 2 a）でもあげている「分かる」という動詞の例である。

（2 3）それを聞いているうちに、おおよその事情がわかってきた。

\* 그것을 듣고 있는 동안에, 대중의 사정을 알아 왔다.  
 Geugeoseul deutdo itneun dongane, daechungui sajeongeul ara watda  
 それを 聞いて いる 間に おおよその 事情を 分かる-a きた

主語として一人称である「私」を入れると、「私はそれを聞いているうちに、おおよその事情が分かってきた」になる。ここでの「てくる」は、寺村（1984）に基づく、＜おおよその事情が分かる＞という現象の「私」の方への接近を表し、その現象が主語である「私」において起こるという＜全体的状況＞として捉えられると思われる。これは話し手による積極的な行為を表すのではない現象あるいは事象に注目してそれが話し手のほうに心理的に接近すると考えられる。これに対して、（2 3）の韓国語の場合は、「クル」の意味を持つ「오다 oda 来る」を用いると非文となる。これは、（1 9）の移動の様態のうち、時間的概念との結びつきの可能な「아 오다 a oda」の場合とは異なって、「오다 oda 来る」は「クル」よりも空間的移動の意味生が強いといえる。（2 3）の韓国語の文を適格な文に

<sup>45</sup> あとの 7. 節の形容詞が先行する場合を除く。



したのを、次の（２４）に示す。これは「分かるようになった」という表現である。

（２４） 그것을 듣고 있는 동안에, 대중의 사정을 알게 되었다.

Geugeoseul deutdo itneun dongane, daechungui sajeongeul alge doeeotda

それを 聞いて いる 間に おおよその 事情を 分かる-ge なった

それを聞いているうちに、おおよその事情が分かるようになった。

この表現は＜分からなかった状態＞から＜分かる状態＞になったという意味になるので、「てくる」とは違う意味となる。（２４）は、第２章にあげた時間的経過を表す表現と共起する思考および知覚動詞の＜되다 doeda 構文＞に当てはまる例である。「分かる」と同じような例として、次の（２５）では、「似る」動詞に「クル」がついた表現をみる。韓国語の場合は「아 오다 a oda」がつくと非文となるので、その代わりに「似るようになる」という表現を用いる文を（２５b）に示す。

（２５）a 二人で長い間一緒に暮らすと、互いに似てくる。

\*둘이 오랫동안 함께 살면, 서로 답아 온다.

Duri oraetdongan hamkke salmyeon, seoro dalma onda

二人で 長い間 一緒に 暮らすと 互いに 似る-a くる

b 둘이 오랫동안 함께 살면, 서로 답게 된다.

Duri oraetdongan hamkke salmyeon, seoro damge doenda

似る-ge なる

二人で長い間一緒に暮らすと、互いに似るようになる。

「似る」は主に、＜AはBに似る＞のように、視点をBにおいて＜AはBの方に变化する＞という意味として捉えることができる。（２５）は「二人で、お互いに」があって、相互作用として捉えられるので、（２６）で方向性のある例をあげる。しかし、（２６a）も韓国語の場合は非文となり、その適格な文としては（２６b）のように「似るようになる」という表現が用いられるのである。

（２６）a 子供は親に似てくる。

\*아이는 부모를 답아 온다.

Aineun bumoreul dalma onda

子供は 親を 似る-a くる

b 아이는 부모를 닮게 된다.

Aineun bumoreul damge doenda

似る-ge なる

子供は親に似るようになる。

(26) をみると、日本語の場合、「てくる」を用いることで、＜変化の過程＞を表しているのに対して、韓国語の場合は、「아 오다 a oda」が用いられず、その代わりに「～ようになる」という意味である＜되다 doeda 構文＞を用いる。しかし、＜되다 doeda 構文＞を用いることで、「てくる」に含まれている＜変化の過程＞の意味は持たないのである。(24) は＜分からなかった状態＞から＜分かる状態＞への変化を表し、(25) と (26) は＜似ていない状態＞から＜似ている状態＞への変化を表す。

次の(27) は「아 오다 a oda」の代わりに、＜지다 jida 構文＞が用いられる例をみる。「混雑する」という動詞をあげるが、韓国語の場合は非文になるので、(27b) で適格な文をあげる。

(27) a 世の中が 混雑して くると、いろんな ことが 起こる ものだ。

\* 세상이 혼잡해 오면, 여러가지 일이 일어나는 법이다.

Sesangi honjapae omyeon, yeoreogaji iri ireonaneun beobida

世の中が 混雑する-a くると いろんな ことが おこる ものだ

b 세상이 혼잡해 지면, 여러가지 일이 일어나는 법이다.

Sesangi honjapae jimyeon, yeoreogaji iri ireonaneun beobida

混雑する-a jida

世の中が混雑するようになると、いろんなことが起こるものだ。

(27a) を適格な表現にした (27b) は、＜混雑しない状態＞から＜混雑する状態＞への変化を表し、日本語でみられるようなく＜変化の過程＞としての意味はないのである。次の(28) も、「아 오다 a oda」の代わりに、＜지다 jida 構文＞が用いられる例である。

(28) a 太郎は しゃべりながら、うまい 口説きではなかったように思えて きた。

\* 太郎은 이야기하면서, 능숙한 설득이 아닌 것 같이 생각되어 왔다.

Taroneun iyagihamyeonseo, neungsukhan seoldeugi anin geot gachi saenggakdoeeo watda

次郎は 話しながら うまい 説得ではないように 思える-a きた

b 太郎는 이야기하면서, 능숙한 설득이 아닌 것 같이 생각되어 졌다.

Taroneun iyagihamyeonseo, neungsukhan seoldeugi anin geot gachi saenggakdoeeo jyeotda

思える-a jida

二郎はしゃべりながら、うまい口説きではなかったように思えるようになった。

(28b) は、＜思えない状態＞から＜思える状態＞へのただの＜状態変化＞を表している。以上の(24)～(28)は、「아 오다 a oda」の代わりに、＜되다 doeda 構文＞あるいは＜지다 jida 構文＞を用いる表現であるのに対して、次の(29)は、「아 오다 a oda」の代わりに、＜되다 doeda 構文＞と＜지다 jida 構文＞の両方が用いられる例である。ここでは、「変わる」というそれ自体に変化の意味が含まれている動詞をあげる。韓国語の適格な表現を(30)に示す。

(29) 私に対する感情も変わってくるかもしれないでしょう？

\*나에 대한 감정도 변해 올 지도 모르잖아?

Nae daehan gamjeongdo byeonhae ol jido moreujana

私に 対する 感情も 変わる-a 「クル」の未来連体形

(30) a 나에 대한 감정도 변하게 될 지도 모르잖아?

Nae daehan gamjeongdo byeonhage doel jido moreujana

変わる-ge 「doeda」の未来連体形

b 나에 대한 감정도 변해 질 지도 모르잖아?

Nae daehan gamjeongdo byeonhae jil jido moreujana

変わる-a 「jida」の未来連体形

私に対する感情も変わるようになるかもしれないでしょう？

(30) は、＜ある一定の状態＞から＜変わる状態＞への変化を表している。動詞「変わる」にはすでに＜変化＞の意味が含まれているが、「てくる」に＜変化の過程＞という意味があるとした場合、＜変化の過程＞が動詞によって引き起こされた意味ではないということを示しておかなければならない。寺村(1984)を参考にすると、これらの事象全体は、「てくる」の付加によってひとつの幅をもった過程として捉えられ(すなわち、＜変化の過程＞になり)、またその事象が自分に向かって接近することで＜心理的变化＞としているのである。これに対して、韓国語の「아 오다 a oda」は、＜変化の過程＞を表すことができ

ない。したがって、その＜変化の過程＞という全体事象が自分に向かって接近するという＜心理的变化＞も表すことができないのであろう。では、益岡（1992）で「てくる」の意味拡張としてあげているものを、韓国語の「아 오다 a oda」と一括して次の（31）に示す。

（31）「てくる」と「아 오다 a oda」の意味

	テクル	a oda
空間的方向性	○	○
時間的方向性	○	○
心理的方向性	○	×

（31）の表でみるように、日本語においての「てくる」は、話し手の＜空間的・時間的方向性＞だけでなく、＜心理的方向性＞までを表すことができるのに対して、韓国語の「아 오다 a oda」は＜心理的方向性＞を表すことができないのである。これは、「아 오다 a oda」が＜変化の過程＞表すことができず、＜되다 doeda 構文＞と＜지다 jida 構文＞を用いることともつながると考えられる。

6. 「ていく」と「아 가다 a gada」

まず、補助動詞の意味を客観的に記述するため、6. 1で「イク」と「가다 gada」の基本的な意味を、6. 2では「ていく」と「아 가다 a gada」についてみる。

6. 1 「イク」と「가다 gada」の辞書的意味<sup>46</sup>

移動を表す典型的な動詞である「クル」と同様、「イク」とそれに対応する韓国語の「가다 gada」の辞書的な意味は、次の（32）のようにまとめられる。本動詞「イク」と「가다 gada」は、動作が基本点である領域から移動して離れていく意味を表すことで共通するが、「가다 gada」は「イク」よりその意味範囲が広いと言える。

（32）「イク」と「가다 gada」の辞書的意味のまとめ

	「イク」	「gada」
①空間的移動	学校に行く	학교에 가다 Hakgyoe gada

<sup>46</sup> 主な辞書として、『国語辞典言泉』（1986 小学館）、『朝鮮語大辞典』（1986 角川書店）、『우리말 큰사전』（1992 어문각）を参考にした。

②時間的移動	いく年を惜しむ	가는 세월을 아쉬워하다 Ganeun seworeul aswiwohada
③心理的变化	*好感がいく	호감이 가다 Hogami gada
④物理的变化	*ひびが/*味がいく	금이/맛이가다 Geumi/ Masi gada

次は、補助動詞としての意味と用法について検討する。その際、先行研究としてすでに取り上げた吉川（1989）の aspekto を表す「ていく」の分類にしたがって説明する。しかし、＜ある時点からの継続＞の場合は、「これから」というという時間的方向性を表すものとして「ていく」と「아 가다 a gada」が共通することから説明は省略する。6. 2では＜消滅の過程＞と＜変化の過程＞についてみる。

## 6. 2 ＜消滅の過程・変化の過程＞

ここに属する動詞としては「消える、死ぬ、失うなど」のように、動詞自体に＜消滅＞の意味が含まれているのである。（33）は「消える」を例としてあげた吉川（1989）の分類である。

（33）「消える」と「てくる・아 오다 a oda /ていく・아 가다 a gada」

	「てくる」と「아 오다 a oda」	「ていく」と「아 가다 a gada」
消滅の過程	×	火が <u>消えて</u> <u>いった</u> 불이 <u>꺼져</u> <u>갔다</u> Buri kkeojyeo gatda
変化の過程	（だんだん）火が <u>消えて</u> <u>きた</u> *（점점）불이 <u>꺼져</u> <u>왔다</u> （jeomjeom）buri kkeojyeo watda	（だんだん）火が <u>消えて</u> <u>いった</u> （점점） 불이 <u>꺼져</u> <u>갔다</u> （jeomjeom）buri kkeojyeo gatda
過程のはじまり	火が <u>消えて</u> <u>きた</u> * 불이 <u>꺼져</u> <u>왔다</u> Buri kkeojyeo watda	×

（33）をみると、日本語は「てくる」「ていく」と動詞との共起が自由であるのに対して、韓国語はまず動詞の種類によって「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」が決まるとも考えられる。動詞の中で、プラス的な意味を表していると思われるものには「오다 oda 来

る」を、マイナス的な意味を表しているものには「가다 gada 行く」を用いるのである<sup>47</sup>。マイナス的な意味を表している動詞として「消える、減る、変わる、沈む、死ぬなど」があげられる。「아 가다 a gada」は、「完成という到達点指向」の「持続」であり、＜消滅の過程＞と＜変化の過程＞の意味を表すことができるのである。また、「てくる」が表している＜変化の過程＞の場合にも、「아 가다 a gada」を用いることによって＜変化の過程＞が表せるのである。5. 5で取りあげたの例をもう一度示す。

(34) それを聞いているうちに、おおよその事情がわかってきた。(＝(23))

\*그것을 듣고 있는 동안에, 대충의 사정을 알아 왔다.  
 Geugeoseul deutdo itneun dongane, daechungui sajeongeul ara watda  
 それを 聞いて いる 間に おおよその 事情を わかる-a きた

(34)の場合、「아 오다 a oda」を用いると非文になるので、(24)「알게 되었다 alge doeotda 分かるようになる」という表現をあげることによって適格な文にしたが、「分かるようになる」には、＜分からない状態＞から＜分かる状態＞という＜変化＞の意味しか持たないことを述べた。日本語の「てくる」の＜変化の過程＞、すなわち、全体事象をひとつの幅をもったものとして捉える場合に、韓国語は「ていく」に対応する「아 가다 a gada」を用いるのである。これを(35)にあげる。

(35) 그것을 듣고 있는 동안에, 대충의 사정을 알아 갔다.

Geugeoseul deutdo itneun dongane, daechungui sajeongeul ara gatda  
 わかる-a いった  
 それを聞いているうちに、おおよその事情が分かっていった。

(35)の韓国語の「아 가다 a gada」の場合、日本語の「ていく」と同じく、自分(話し手)から次第に遠ざかるという意味となるのである。これは、本動詞「イク」と「가다 gada」が、動作の基本点である領域から移動して離れていく意味をその基本的な意味としている

<sup>47</sup> 一方、「マイナス的な意味」をもつ動詞であっても、「오다 oda 来る」と共起可能な場合はある。例としては、「死ぬ」と「아 오다 a oda」との共起があげられる。この場合の「아 오다 a oda」は、「～して、今になった」あるいは「今まで～して」という意味を表し、時間性に関わると考えられる。

(例) 전쟁으로 인해 많은 사람들이 죽어 왔다.  
 Jeonjaengeuro inhae maneun saramdeuri jugeo watda  
 死ぬ-a oda  
 戦争で大勢の人が死んできた

のに関連すると思われる。

森田（1988）は、「ていく」を使うことによって、すでに生じた事態の進展・進行意識が強く、それを見つめる気持ちになることから話し手の意志を越えた力として事態を捉えるとしている。話し手の意志を越えた意識のある「ていく」で、自身の心境や感覚を表すことによって第三者的に自己を眺める態度が生まれると述べている。つまり、自身の意志を越えて結果がそうなったことを表すという意味をもつのである。次の6. 3では、「아 가다 a gada」のみにある（「ていく」にはない）と思われる用法をみる。

### 6. 3 <完成指向的持続>

これは1. 2で、第二の問題点として取り上げたものである。もう一度例をあげる。

(36) 太郎는 밥을 거의 다 먹어 갔다. (= (6b))

Tarouneun babeul geoui da meogeo gatda

太郎は ご飯を ほとんど すべて 食べる-a いった

\*太郎はご飯をほとんど全部食べていった。

(太郎はご飯をほとんど食べ終わっている。)

<食べなければならない食べものの量 (=目標、着点)>があって、それに向かって「食べる」という動作が行われているということを表している。すなわち、「아 가다 a gada」は目標としている地点に向かっていう方向性を表している。これは「아 가다 a gada」が「完成という到達点指向」の「持続」をその基本的な意味としているからである。「完成という到達点指向」の「持続」には、「時間的方向」もしくは「コトに対する完了」も含まれていると考えられる。(36)と同様の例として、次の(37)をあげる。

(37) 책을 거의 다 읽어 가니까 조금만 기다려 주세요.

Chaegeul geoui da ilgeo ganikka jogeumman gidaryeo juseyo

本を ほとんど すべて 読む-a いくから すこし 待って ください

\*本をほとんど全部読んでいくからすこし待ってください。

(本をもうすぐ読み終わるからすこし待ってください。)

7. 「てくる」「ていく」に形容詞が先行する場合

「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」は先行するのが動詞だけでなく、形容詞を用いる場合がある。「てくる」「ていく」に形容詞が先行するときは、「～くなって、～になって」の形を用いるのに対して、「아 오다 a oda」は動詞が先行する場合と同じく、連結語尾「a / o」と結合した形を用いるのである。

(38) 방이 점점 밝아 왔다 / 갔다. (= (7))

Bangi jeomjeom balga watda / gatda

部屋が だんだん 明るい-a きた / いった

\*部屋がだんだん明るく きた / いった。

(部屋がだんだん明るくなってきた / いった)

(38) は、「だんだん」という漸次的副詞句があることで「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」が用いられるのである。次の(39)の例は、「寒い」という形容詞に「아 오다 a oda」がついた文である。

(39) 점점 추워 왔다.

Jeomjeom chuwo watda

だんだん 寒い-a きた

だんだん寒くなってきた。

(39) の例文をみると、「だんだん」という漸次的副詞句がある。韓国語ではこの副詞句があることによって「아 오다 a oda」の表現が来ることが可能である。次に、漸次的意味をもたない「최근 choegeun 最近」のような語を入れると、非文になる。これを(39)'に示す。

(39)' \*최근 추워 왔다.

Choegeun chuwo watda

最近 寒い-a きた

最近寒くなってきた。

(39)' でみるように、日本語では「寒くなる」という＜変化＞の意味に「てくる」を付加することで、その＜変化の過程＞までを表す意味になるのである。しかし、韓国語



において「아 오다 a oda」は、それだけでは＜変化の過程＞を表すことができず、「だんだん」のような漸次的副詞句がその役割をしていると考えられる。「てくる」が＜変化の過程＞の意味を表しているのに対して、「てくる」に対応する「아 오다 a oda」はそれができず、「아 가다 a gada」（日本語の「ていく」）が「아 오다 a oda」の代わりに＜変化の過程＞を表すことができるとしたが、これは動詞の場合に限ることであって、形容詞が先行することは不可能である。次の（３９）＂にこの例をあげる。

（３９）＂ \*최근 추워 갔다.  
 Choegeun chuwo gatda  
 最近 寒い-a いった  
 最近寒くなっていった。

このように、「아 오다 a oda」は動詞が先行する場合と同様、形容詞が先行する場合も、＜変化の過程＞の意味を表すことができないのである。（４０）は「아프다 apeuda 痛い」という形容詞が「아 오다 a oda」に先行する例である。

（４０）그 독액이 타고 도는지 온몸이 아파 왔다.  
 Geu dogaeagi tago doneunji onmomi apa watda  
 その 毒が 回っているのか 体中が 痛い-a きた  
 その毒が回っているのか体中が痛くなってきた。

（４０）の例には「だんだん」という漸次的な意味を表す副詞句はないにもかかわらず、「아 오다 a oda」が用いられるのである。これは「아 오다 a oda」の前に、時間的な経過を表していると考えられる「毒を飲んで、その毒が回る」という表現があるからであると考えられる。

## 8. 第４章のまとめ

以上、本章では、補助動詞として用いられる、日本語の「てくる」「ていく」と韓国語の「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」を中心にして考察した。その際、両語の対照のために、吉川（１９８９）の分類にしたがって説明を行っている。

まず、補助動詞の意味を客観的に記述するため、本動詞の基本的な意味を明らかにすることで、「てくる」「ていく」とこれに相当する「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」は、

本動詞「クル」「イク」(「오다 oda 来る」「가다 gada 行く」)が空間的移動を表す典型的な移動の意味から、時間的移動までその意味が広がることが分かった。

また、研究の対象としてあげた三つについて、次のようにまとめる。

第一に、「아 오다 a oda」にはない「てくる」の表現として「分かってきた」などの例をあげ、「てくる」には<心理的变化(心理的方向性)>の意味が含まれていることと、これが韓国語の「아 오다 a oda」にはない表現であるという点に注目して考察を行った。

この場合の「てくる」は、寺村(1984)によると、「XガVスル」という現象がひとつの幅をもったものとして、話し手への接近を表すとしている。これは話し手による積極的な行為ではないことであり、事象、事態などに注目し、それが話し手という場所に接近するとも考えられる。これは<変化の過程>をもつことと、その現象が主語たるものにおいて起こるということ、すなわち<全体的状況>として捉えるものとして扱った。

また、このような「てくる」を韓国語にするときは、<되다 doeda 構文>、<지다 jida 構文>が用いられることをみた。しかし、これらの構文を用いると、<状態変化>の意味を表すので、「てくる」を用いるときとは違う意味になることが分かった。これらは起こった事態に対して、「게 되다 ge doeda」は何らかの原因による<変化>を表し、「아 지다 a jida」は自然に起こったという意味としての<変化>を意味する。

一方、「てくる」のように、<変化の過程>を含む意味を表すためには、日本語の「ていく」に対応する「아 가다 a gada」が用いられる。しかし、「아 가다 a gada」は、話し手から遠ざかる意味が生じるので、「てくる」の意味を十分に満たすことができない。つまり、<変化の過程>の意味を表す「てくる」を韓国語にするときは、「게 되다 ge doeda」、「아 지다 a jida」あるいは「아 가다 a gada」を用いるが、この中のどの表現にしても、「てくる」の意味を表すには足りない部分が多いのである。「てくる」の要素の内包が多いことであるとすると、それは何によるのであるのか、などに関しては今後の研究課題にしたい。

第二に、「ていく」にはない「아 가다 a gada」についてみた。「아 가다 a gada」が「完成の到達点指向の持続」をその基本的な意味とするということで、「時間的方向」もしくは「コトに対する完了」までも表すことができるのである。また、「ていく」と「아 가다 a gada」は、すでに生じた事態に対して、それを見つめる気持ちになるという意味をもつので、事態は話し手の意志を越えた力として捉えられる。つまり、「ていく」と「아 가다 a gada」を用いることで、自身の心境や感覚を表すことによって、自身の意志を越えて結果

がそうなったことを表すのである。

第三に、「てくる」「ていく」(韓国語の「아 오다 a oda」「아 가다 a gada」も含めて)に、形容詞が先行する場合についてみた。日本語の場合、「～くなって、～になって」の形を用いることで「てくる」「ていく」のとの結びつきが可能になるのに対して、韓国語の場合は動詞と同じ形式を用いるのである。また、韓国語においては、「だんだん」のような漸次的意味を表す副詞句がなければならないという制約があることが分かった。

## 第 5 章 <되다 doeda 構文>と<지다 jida 構文>

ここでは、第 2 章の<되다 doeda 構文>と第 3 章の<지다 jida 構文>をとりあげて、本稿のまとめとする。その際、各々の構文に先行する形容詞、動詞にわけてあげる。

その形式とは、次の通りである。

<되다 doeda 構文> : 形容詞・動詞の語幹 + 게(ge) 되다 doeda

<지다 jida 構文> : 形容詞・動詞の語幹 + 아(a)/어(o) 지다 jida

### 1. 形容詞が先行する場合

#### (1) 木の葉が赤くなった。

a 나뭇잎이 빨갱게 되었다. <되다 doeda 構文>

Namusipi ppalgake doeeotda

木の葉が 赤い-ge なった

b 나뭇잎이 빨개졌다. <지다 jida 構文>

Namusipi ppalgaejyeotda

木の葉が 赤い-jida

(1) は、「木の葉が赤くなった」という同じ解釈が可能な例で、季節が秋になって起こる自然現象としての意味を表すが、(1b) が状態変化の意味のみを表すのに対して、(1a) は「赤色のペンキを塗って」のような変化が起こるための何らかの理由があつての「木の葉」の変化を表すこともできる。この場合は、「木の葉が赤く出来た」という意味を表す。

#### (2) お話が面白くなった。

a 이야기가 재미있게 되었다. <되다 doeda 構文>

Iyagiga jaemiitge doeeotda

お話が 面白い-ge なった

b 이야기가 재미있어졌다. <지다 jida 構文>

Iyagiga jaemiisseojyeotda

お話が 面白い-jida

(2) は、「お話が面白くなった」という日本語に、<되다 doeda 構文>と<지다 jida 構文>が対応する例である。(2b) の<지다 jida 構文>が状態変化のみの意味を表すのに

対して、(2a) の<되다 doeda 構文>は状態変化の意味のほかに、「新しい登場人物が現れることで」、「少し話の展開を変えて」などの原因・理由によって出来上がった結果（の状態）が、「게 ge」によって表現されている。

(3) 気分がよくなった。

a 기분이 좋게 되었다. <되다 doeda 構文>

Gibun-i joke doeetda

気分が よい-ge なった

b 기분이 좋아졌다. <지다 jida 構文>

Gibun-i johajyeotda

気分が よい-jida

(3) は、気分が「よくない状態からよい状態に」変わったという意味を表すが、(3a) の<되다 doeda 構文>は、「いい知らせを聞いて」、「運動をして」などの原因・理由によつての状態変化を表す。ここまでの(1-3) の<되다 doeda 構文>と<지다 jida 構文>は、状態変化と意味を表すが、<되다 doeda 構文>のみが持つ原因・理由に生じる変化の意味を持つ。この場合の「되다 doeda」は、「出来る、出来上がる、完成する」という意味へと拡張する。次の(4) は、<되다 doeda 構文>に先行する形容詞の制約を見せる例である。

(4) 太郎は旅行が楽しくなった。

a\* 太郎은 여행이 즐겁게 되었다. <되다 doeda 構文>

Tarouneun yeohaengi jeulgeopge doeetda

太郎は 旅行が 楽しい-ge なった

b 太郎은 여행이 즐거워졌다. <지다 jida 構文>

Tarouneun yeohaengi jeulgeowojyeotda

太郎は 旅行が 楽しい-jida

(4a) は、「楽しくなった」という状態変化の意味を表す場合は非文で、(1-3) の<되다 doeda 構文>が表す「出来る」の意味としての「楽しく出来た」の場合は適格な文となる。このように、形容詞の中で<되다 doeda 構文>にならない種類をあげると、「楽しい」の他に、「슬프다 seulpda 悲しい、괴롭다 goeropda 苦しい、기쁘다 gippeuda う

れしい、그립다 geuripda 懐かしい、아쉽다 aswipda 惜しい、부럽다 bureopda うらやましい」などがある。これらは<지다 jida 構文>での制約はなく、状態変化の意味を表す。このような形容詞はその語幹に「~하다 hada する」という動詞を用いて動詞化することができる。動詞化すると、「楽しむ、苦しむ、喜ぶ、悲しむ、懐かしむ、惜しむ、うらやむ」の意味になり、次の(5)のように<되다 doeda 構文>にすることが可能である。

- (5) 太郎는 여행을 즐거워하게 되었다.  
 Tarouneun yeohaengeul jeulgeowohage doeeotda  
 太郎は 旅行を 楽しむ-ge なった  
 太郎は旅行を楽しんだ

## 2. 動詞が先行する場合

ここでは、動詞が先行する<되다 doeda 構文>と<지다 jida 構文>についてみる。

<되다 doeda 構文>は動詞の制約がないことから、第3章<지다 jida 構文>の分類に沿って検討する。

### 【A タイプ】… <受動>

- (6) a 평화는 모두에 의해 지켜졌다.  
 Pyeonghwaneun modue uihae jikyeo jyeotda  
 平和は みんなに よって 守る-jida  
 平和はみんなによって守られた
- b 평화는 모두에 의해 지키게 되었다.  
 Pyeonghwaneun modue uihae jikige doeeotda  
 平和は みんなに よって 守る-ge なった  
 平和はみんなによって守るようになった

(6) は、先行研究では、<受動表現>の一つとして扱われた。その理由として「되다 doeda」と「지다 jida」自体に<受動>の意味を含んでいるからであると言われている。

しかし、本稿では本動詞自体に<受動>の意味があるからではなく、(6a) は、対応する自動詞をもたない他動詞「지키다 jikida 守る」の<지다 jida 構文>で、「에 의해 e uihae によって」という動作主を用いることで<受動>の意味が表れるとした。また、(6b) の<되다 doeda 構文>は、「온나라가 불안정해서 onnaraga buranjeonghaeseo 国中

が不安定なので」のような＜外的事情＞によって「守る」意図が生じたとの意味を表すのである。

【B タイプ】… ＜可能＞と＜受動＞

(7) a 이 연필은 글씨가 잘 써졌다.

I yeonpireun geulssiga jal sseojyeotda

この鉛筆は字がうまく書く-jida

この鉛筆は字がうまく書けた

b\*이 연필은 글씨가 잘 쓰게 되었다.

I yeonpireun geulssiga jal sseuge doeeotda

この鉛筆は字がうまく書く-ge なった

＜지다 jida 構文＞である (7a) が、「이 연필 i yeonpil この鉛筆」の性能について表現できるのとは違って、非文になる (7b) の＜되다 doeda 構文＞は、「쓰다 sseuda 書く」という行為動詞の場合、行為を行うものを主語にならなければならない。＜지다 jida 構文＞の主語は、動作を行う人、またはある能力を持つものがくることができるのに対して、行為動詞の＜되다 doeda 構文＞は、主語にものがくることができない。

(8) a 太郎은 글씨가 잘 써졌다.

Taroneun geulssiga jal sseojyeotda

太郎は字がうまく書く-jida

太郎は文がうまく書けた

b 太郎은 글씨를 잘 쓰게 되었다.

Taroneun geulssireul jal sseuge doeeotda

太郎は字をうまく書く-ge なった

太郎は字をうまく書けるようになった

(8a) の＜지다 jida 構文＞は、動作主主語である「太郎」の能力可能を表す「能動的可能表現」で、(8b) の＜되다 doeda 構文＞は、文として落ち着くために「글씨 쓰는 연습을 해서 geulssi sseuneun yeonseubeul haeseo 習字の練習をして」のような＜外的事情＞が必要で、＜外的事情＞によって「쓰다 sseuda 書く」行為の意図が生じ、その結果、「書く」行為が行われるのである。

【C タイプ】… <可能>

(9) a 이 방은 10 명이 자진다.

I bangeun 10myeongi jajinda.

この部屋は 10 人が 寝る-jida

この部屋は 10 人が寝られる

b 이 방은 10 명이 자게 된다.

I bangeun 10myeongi jage doenda

この部屋は 10 人が 寝る-ge なる

この部屋は 10 人が寝る

(9a) の<지다 jida 構文>は、「10 人が寝る」ことができる「이 방 i bang この部屋」の潜在的に持つ能力についての<可能>の意味を表し、(9b) の場合は、「비어 있는 방이 없어서 bieo itneun bangi eobeoseo 空いている部屋がなくて」のような理由によって「寝る」行為の意図が生じるという意味を表す。

【D タイプ】…<状態変化>

(10) a 해동을 하지도 않았는데 생선이 녹아진다.

Haedongeul hajido anatneunde saengseoni nogajinda

解凍をしても いないのに 魚が 溶ける-jida

解凍をしてもいないのに魚が溶ける

b 해동을 하지도 않았는데 생선이 녹게 된다.

Haedongeul hajido anatneunde saengseoni nokge doenda

解凍をしても いないのに 魚が 溶ける-ge なる

解凍をしてもいないのに魚が溶けるようになる

「溶ける」という動詞自体に<状態変化>の意味があるが、そのことが「自然に」起こったという意味を表すためには、(10a) の<지다 jida 構文>を用いるのである。(10b) は、「解凍をしてもいないのに」おかしいことに「溶ける」ことが起こるという意味を表し、「생선 saengseon さかな」が主語になることから、形容詞の<되다 doeda 構文>のなかで、「解ける」ことが「出来る」という意味を表す。



【E タイプ】…＜自発＞

(1 1) a 나뭇잎이 떨어졌다.

Namusipi tteoreojyeotda

木葉が 落ちる

木の葉が落ちた

b 나뭇잎이 떨어지게 되었다.

Namusipi tteoreojige doeeotda

木葉が 落ちる-ge なる

木の葉が落ちるようになる

「木の葉」というのが「落ちる」という性質を持っていることから両方の表現が可能である。(1 1a) は、動詞自体に＜自発＞の意味を持つ「지다 jida」が付いている＜지다 jida 構文＞で、(1 1b) は、文として落ち着くために必要な「11 월이 되어 11wori doeeo 11 月になって」、「강한 바람이 불어서 ganghan barami bureoseo 強い風が吹いて」のような原因・理由によって、「木の葉が落ちる」ことが生じる意味を表す＜되다 doeda 構文＞である。

最後の【F タイプ】は、＜지다 jida 構文＞を用いることのできない「보다 boda 見る、듣다 deudda 聞く、모르다 moleuda 分からない」動詞であるが、これらは動詞の制約のない＜되다 doeda 構文＞を用いることが可能である。

### 3. 「てくる」「ていく」との関係

「아 오다 a oda」にはない「てくる」の表現として、「分かってきた」などの例をあげ、「てくる」には＜心理的变化（心理的方向性）＞の意味が含まれていることと、これが韓国語の「아 오다 a oda」にはない表現であるという点に注目して考察を行った。この「てくる」は、「X が V スル」という現象が話し手への接近を表すとする一方、話し手による積極的な行為ではないことであり、事象あるいは事態に注目し、それが話し手という場所に接近するとも考えられ、＜変化の過程＞をもつことと、その現象が主語たるものにおいて起こるということ、すなわち＜全体的状況＞として捉えるものとして扱った。また、このような「てくる」を韓国語にするときには、＜되다 doeda 構文＞あるいは＜지다 jida 構文＞が用いられることをみた。

(1 2) a 私に対する感情も変わってくるかもしれないでしょう？

\*나에 대한 감정도 변해 올 지도 모르잖아?

Nae daehan gamjeongdo byeonhae ol jido moreujana

私に 対する 感情も 変わる-a 「クル」の未来連体形

b 나에 대한 감정도 변하게 될 지도 모르잖아?

Nae daehan gamjeongdo byeonhage doel jido moreujana

変わる-ge 「doeda」の未来連体形

c 나에 대한 감정도 변해 질 지도 모르잖아?

Nae daehan gamjeongdo byeonhae jil jido moreujana

変わる-a 「jida」の未来連体形

私に対する感情も変わるようになるかもしれないでしょう？

d 나에 대한 감정도 변해 갈 지도 모르잖아?

nae daehan gamjeongdo byeonhae gal jido moreujana?

変わる-a 「イク」の未来連体形

私に対する感情も変わっていくかもしれないでしょう？

<되다 doeda 構文>の(1 2b)は、「이번 일로 ibeon illo 今回のことで」のような<外的事情>によって起こった変化の意味を表し、(1 2c)の<지다 jida 構文>は、【Dタイプ】に属する動詞で、動詞自体が<状態変化>の意味を持っているため、形容詞とも類似する例である。しかし、(1 2b-c)は、<状態変化>の意味を表すので、「てくる」を用いるときは違う意味になることが分かった。これらは起こった事態に対して、各々、何らかの原因による<変化>と、自然に起こったという意味としての<変化>を意味する。また、(1 2d)は、<変化の過程>を含む意味を表すために、日本語の「ていく」に対応する「아 가다 a gada」が用いられる。しかし、「아 가다 a gada」は、話し手から遠ざかる意味が生じるので、「てくる」の意味を十分に満たすことができないので、<変化の過程>の意味を表す「てくる」を韓国語にするときは、<되다 doeda 構文>、<지다 jida 構文>あるいは「아 가다 a gada」を用いるが、この中のどの表現にしても、「てくる」の意味を表すには足りない部分が多いことがわかった。「てくる」の要素の内包が多いとすると、それは何によるのか、などに関しては今後の研究課題にしたい。

最後に、<되다 doeda 構文>と<지다 jida 構文>における制約と意図性を(1 3)の表

に示す。

(13) <되다 doeda 構文>と<지다 jida 構文>における制約と意図性

	制約		意図性
	形容詞	動詞	
<되다 doeda 構文>	ある (本動詞「되다 doeda なる」から「出来る、 出来上がる」への拡張 があるため)	ない	<外的事情>によっ て生じる、あるいは意 図に反する
<지다 jida 構文>	ない	보다 boda 見 る 、듣다 deudda 聞 く 、모르다 moleuda 分 からない	不問にする、意識しな い、関与できない

## 【 参考文献 】

- 青木ひろみ 1997「自動詞における＜可能＞の表現形式と意味－コントロール概念と主体の意志性－」『日本語教育』93号 日本語教育学会
- 安藤貞雄 1996『英語の論理・日本語の論理』大修館書店
- 池上素子 2002「変化を表す「なる」-前接する語との共起制限を中心に-」  
日本語教育 112号 日本語教育学会
- 池上嘉彦 1975『意味論』大修館書店  
1981『「する」と「なる」の言語学』大修館書店
- 今仁生美 1990「Vテクルとテイクについて」『日本語学』あ明治書院
- 大野晋 1987『文法と語彙』岩波書店
- 奥津敬一郎・沼田善子・本杉武 1986『いわゆる日本語助詞の研究』凡人社
- 生越直樹 1982「日本語漢語動詞における能動と受動－朝鮮語 hata 動詞との対照」  
『日本語教育』48号  
1987「日本語の接続助詞「て」と朝鮮語の連結語尾{a}{ko}」『日本語教育』62号
- 生越直樹・木村英樹・鷺尾龍一（編）2008『ヴォイスの対象研究－東アジア諸語からの視点』くろしお出版
- 尾上圭介 1985「主語・主格・主題」『日本語学』10 明治書院  
1998－1999「文法を考える 出来文（1－3）」『日本語学』明治書院
- 影山太郎 1996『動詞意味論－言語と認知の接点－』くろしお出版  
2001『動詞の意味と構文』（影山太郎編）大修館書店
- 工藤真由美 1995『アスペクト・テンス体系とテキスト－現代日本語の時間の表現』  
ひつじ書房
- 久野暲 1983『新日本文法研究』大修館書店
- 國廣哲彌 1982『意味論の方法』大修館書店  
1985「認知と言語表現」『言語研究』第88号  
1996「日本語の再帰中間態」『言語学林 1995－1996』三省堂  
2005「アスペクト認知と語義－日本語の様態副詞と結果副詞を中心に－」  
『副詞的表現をめぐって－対照研究－』武内道子（編）ひつじ書房  
2006『日本語の多義動詞－理想の国語辞典Ⅱ』大修館書店

- 小谷博泰 1997『日本語文法の原理と教育』和泉書院
- 近藤泰弘 1985「補助動詞「てゆく」「てくる」の用法—＜視点の補助動詞＞研究序説—」  
『日本女子大学紀要・文学部』34号
- 坂原茂 1994-1995「複合動詞「Vて来る」」『言語・情報・テキスト』Vol.2  
東京大学大学院総合文化研究科 言語情報科学専攻
- 佐々木正人 2001「アフォーダンスの構想の源—ギブソン知覚システム論」『アフォーダンスの構想』佐々木正人・三嶋博之（編訳）
- 佐藤琢三 1997「ナルの表現と丁寧さ」『文教大学国文』26号 文教大学国文学会
- 渋谷勝己 1993「日本語可能表現の諸相と発展」『文学部紀要』33-1 大阪大学刊
- 須賀一好・早津恵美子 1995『動詞の自他』ひつじ書房
- 鈴木一彦・林巨樹 1984『研究資料日本文法8構文編』明治書院
- 塚本秀樹 1990「日韓対照研究と日本語教育」『日本語教育』72号  
2006「日本語から見た韓国語—対照言語学からのアプローチと文法化—」  
『日本語学』第25巻第3号
- 塚本秀樹・鄭相哲 1993「韓国語における固有語動詞の受身文について—「이」形と「지다」形の使い分けを中心に」『月刊言語』第22巻第11号 大修館書店  
1994「韓国語における漢語動詞の受身文について」『朝鮮学報』10
- 寺村秀夫 1982『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版  
1984『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版  
1991『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
- 中右 実 1991「中間態と自発態」『日本語学』10 明治書院
- 中右 実・西村義樹 1998『構文と事象構造 日英語比較選書5』研究社出版
- 西村義樹 2002『認知言語学Ⅰ：事象構造』東京大学出版会
- 仁田義雄 1988「意志動詞と無意志動詞」『言語』
- 長谷川由起子 1993「朝鮮語の受身表現—固有語動詞の受身表現を中心に—」檣域 第2号  
朝鮮語・文化研究会 大阪外大朝鮮語研究室
- 浜田真理子 1989「「行く/来る」と「～ていく/～てくる」の意味の繋がり」  
Sophia Linguistica27, Sophia University
- 深見兼考 1990「日本語の「ていく・てくる」と韓国語の a/o gada・a/o oda」  
『広島大学教育学部紀要』第二部

- 堀江薫・塚本秀樹 2008 「日本語と朝鮮語における文法化の対照研究の現状と課題」 生越直樹（編）『日本語と朝鮮語の対照研究Ⅱ』 東京大学 21 世紀 COE プログラム「心とことば—進化認知科学的展開」 研究報告書
- 堀川智也 1988 「格助詞「ニ」の意味についての一試論」『東京大学言語学論集 88』 東京大学文学部言語学研究室
- 1992 「現代日本語の自発について」『北海道大学言語文化部紀要』 22
- 益岡隆志 1997 『複文 新日本文法選書 2』 くろしお出版
- 松本曜 1996 「語とは何か」『言語』 Vol. 25 No. 11
- 丸田孝志・林憲燦 1997 「「漢語+になる」の用法と特徴」『朝鮮学報』 163
- 円山拓子 2008 「多義語 cita：5 つの意味を決定する 4 つの要因」 生越直樹（編）『日本語と朝鮮語の対照研究Ⅱ』 東京大学 21 世紀 COE プログラム「心とことば—進化認知科学的展開」 研究報告書
- 2009 『韓国語助動詞 cita の多義性—用法間の相互関係と意味拡張—』 東京大学博士論文
- 森田良行 1988 『日本語の類意表現』 創拓社
- 1994 『動詞の意味論的文法研究』 明治書院
- 森田良行・松木正恵 1989 『日本語表現文型』 アルク
- 森山卓郎 1988 『日本語動詞述語文の研究』 明治書院
- 油谷幸利 1978 「現代韓国語の動詞分類 - aspect を中心に -」『朝鮮学報』 87
- 吉川武時 1989 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」『日本語動詞のアスペクト』 むぎ書房
- 鷺尾龍一 2001 「하다・되다を日本語から見る」『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究 研究報告 平成 12 年度 別冊 「하다」と「되다」の言語学』 筑波大学東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究組織
- Comrie, Bernard. 1981 *Language Universals and Linguistic Typology*, Chicago: University of Chicago Press.
- Jacobsen, W. M. 1992 *The transitive structure of events in Japanese*, Tokyo: Kuroshio
- 김기혁 1995 『국어 문법 연구 - 형태 통어론-』 박이정 출판사
- 김동식 1984 「동사「되다」의 연구」『국어국문학』 제 92 권 국어국문학회
- 김석득 1992 『우리말 형태론』 탐출판사

- 김성화 1990 『현대 국어의 상연구』 한신문화사
- 김영태 1997 『현대국어 보조용언 연구』 문창사
- 김정남 2009 「「-게 되다」의 의미와 분포」 『한국어 의미학』 제 30 집 한국어 의미학회
- 김차균 1980 「국어의 사역과 수동의 의미」 『한글』 제 168 호 한글학회
- 남기심·고영근 1985 『표준국어문법론』 탐출판사
- 민현식 1999 『국어 문법 연구』 亦樂
- 박선옥 2005 『국어 보조동사의 통사와 의미 연구』 亦樂
- 朴良圭 1990 「被動法」 『国語研究 어디까지 왔나』 東亜出版社
- 박영순 1997 『현대 한국어 통사론』 집문당
- 서정수 1996 『현대 국어문법론』 한양대학교 출판원
- 1996 『국어문법』 한양대학교 출판원
- 石賢敬 1999 「「ナル」的表現の日韓対照研究」 大阪外国語大学大学院修士論文
- 2003 「本動詞から補助動詞へー「なる」の意味を表す韓国語の「지다 (jida)」について」 『関西言語学会』 23
- 成光秀 1976a 「국어 간접피동에 대하여」 『문법연구 3』 탐출판사
- 1976b 「副詞화와 対象性」 『國語学』 4
- 1991 「国語 被動詞 空白과 擬似被動의 原因」 『文法 I』 太學社
- 1999 『격표현과 조사의 의미』 月印
- 손세모돌 1996 『국어 보조용언 연구』 한국문화사
- 송창선 2005 「현대 국어 -아/어 지다의 기능과 의미」
- 『문학과 언어』 제 27 집 문학과언어학회
- 安明哲 1990 「補助動詞」 『国語研究 어디까지 왔나』 東亜出版社
- 양동휘 1979 「국어의 피사동」 『한글』 제 166 호 한글학회
- 우인혜 1997 『우리말 피동 연구』 한국문화사
- 우형식 1996 『국어 타동구문 연구』 도서출판 박이정
- 1998 『국어 동사 구문의 분석』 태학사
- 이기동 1977 「동사 「오다」 「가다」의 의미 분석」 『말』 제 2 집 연세대학교 한국어학당
- 1978 「조동사 「지다」의 의미 연구」 『한글』 제 161 호 한글학회
- 李文子 1979 「朝鮮語の受身と日本語の受身ーもちぬしの受身を中心にー」 朝鮮學報 91
- 이민우 2008 「국어 동사 지다의 다의적 의미관계 분석」

한국어의미학 제 27 집 한국어의미학회

- 이상억 1999 『국어의 사동·피동 구문 연구』 집문당
- 이익섭 2005 『한국어 문법』 서울대학교출판부
- 李翊燮·任洪彬 1983 『国語文法論』 學研社
- 이익섭·채완 1999 『국어문법론강의』 學研社
- 이정택 1992 「용언 되다와 피동법」 『한글』 218 한글학회
- 2003 「피동문의 능동주 표지 선택 원리」 『국어교육』 110
- 2004 『현대 국어 피동 연구』 도서출판 박이정
- 이중범 1983 『국어문법론』 학연사
- 이주행 2000 『한국어 문법의 이해』 도서출판 월인
- 임홍빈 1976 「副詞化와 対象性」 『国語学』 4 国語学会
- 1998 『국어 문법의 심층 2』 태학사
- 曹五鉉 1984 「助動詞「지다」의 研究」 建國大學校大學院 碩士學位論文
- 1995 「「-어지다」와 「-어 지다」의 통사·의미」 建國語文學 19
- 건국대국어국문학연구회
- 조은숙 2007 「중첩피동의 의미기능과 인지구조」 『어문론집』 제 37 집 중앙어문학회
- 鄭秀賢 1986 「現代日本語と韓国語の受身・使役表現」 『論集 日本語研究(一) 現代編』
- 宮地裕(編) 明治書院
- 최규수 2005 「되다와 지다의 피동성에 관하여」 『한글』 269 한글학회
- 최재희 2004 『한국어 문법론』 태학사
- 최현배 1978 『우리말본』 정음문화사
- 許明子 2004 『日本語と韓国語の受身文の対照研究』 ひつじ書房
- 허 웅 1975 『우리 옛말본 -15세기 국어 형태론』 샘문화사



## 【 辞書 】

- 『민중한일사전』 1983 民衆書林  
『国語辞典言泉』 1986 小学館  
『朝鮮語大辞典』 1986 大阪外国語大学朝鮮語学科編 角川書店  
『우리말 큰사전』 1991 한글 학회 지음, 어문각  
『最新ハングル大辞典 우리말 큰사전』 1994 ハングル字会編、白帝社  
『국어 대사전』 1991 한국어 사전 편찬회편, 삼성문화사  
『연세한국어사전』 1998 두산동아  
『標準国語大辞典』 1999 斗山東亜

## 【 例文出典 】

作例、『이상문학상 작품집 (李箱文学賞 作品集) 14~34』 (1991~2010)、お よ び  
21 세기 세종계획용례검색 (21 世紀 世宗計画用例検索 [www.sejong.or.kr](http://www.sejong.or.kr))